使用説明書

この使用説明書について

ニコンデジタルカメラＤ1Hをお買い上げいただき、ありがとうございます。この使用説明書は、単にカメラの機能を説明するだけでなく、撮影状況に応じて操作していただけるよう操作手順を紹介しています。また、簡単な撮影から高度な撮影へと理解しやすい構成となっていますので、よくお読みいただき、十分ご理解の上、末永くご愛用いただきますようお願いいたします。この使用説明書の内容は次のとおりです。

安全上のご注意

ご使用の前に「安全上のご注意」をよくお読みの上、正しくお使いください。この「安全上のご注意」は、製品を安全に正しく使用していただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために重要な内容を記載しています。お読みになった後は、お使いになる方がいつでも見られるところに必ず保管してください。

表示と意味は、次のようになっています。

⚠**危険**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が高いと想定される内容を示しています。
⚠**警告**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠**注意**	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害の発生が想定される内容を示しています。

お守りいただく内容の種類を、次の絵表示で区分し、説明しています。

絵表示の例	
	△ 記号は、注意（警告を含む）を促す内容を告げるものです。図の中や近くに具体的な注意内容（左図の場合は感電注意）が描かれています。
	⃠ 記号は、禁止（してはいけないこと）の行為を告げるものです。図の中や近くに具体的な禁止内容（左図の場合は分解禁止）が描かれています。
	● 記号は、行為を強制すること（必ずすること）を告げるものです。図の中や近くに具体的な強制内容（左図の場合はプラグをコンセントから抜く）が描かれています。

⚠ 警告（カメラについて）

分解禁止

分解したり修理・改造をしないこと

感電したり、異常動作をしてケガの原因となります。

接触禁止

すぐに
修理依頼を

落下などによって破損し、内部が露出したときは、露出部に手を触れないこと

感電したり、破損部でケガをする原因となります。

電池、電源を抜いて、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターに修理を依頼してください。

電池を取る

すぐに
修理依頼を

熱くなる、煙が出る、こげ臭いなどの異常時は速やかに電池を取り出すこと

そのまま使用すると火災、やけどの原因となります。

電池を取り出す際、やけどに十分注意してください。

電池を抜いて、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターに修理を依頼してください。

水かけ禁止

水につけたり水をかけたり、雨にぬらしたりしないこと

発火したり感電の原因となります。

禁止

引火・爆発のおそれのある場所では使用しないこと

プロパンガス、ガソリンなどの引火性ガスや粉塵の発生する場所で使用すると、爆発や火災の原因となります。

禁止

レンズまたはカメラで直接太陽や強い光を見ないこと

失明や視力障害の原因となります。

⚠ 警告（カメラについて）

発光禁止

車の運転者等にむけてスピードライトを発光しないこと

事故の原因となります。

発光禁止

スピードライトを人の目に近づけて発光しないこと

視力障害の原因となります。
特に乳幼児を撮影するときは 1m 以上離れてください。

保管注意

幼児の口に入る小さな付属品は、幼児の手の届かないところに置くこと

幼児の飲み込みの原因となります。
万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。

警告

ストラップが首に巻き付かないようにすること
特に幼児・児童の首にストラップをかけないこと

首に巻き付いて窒息の原因となります。

使用禁止

AC アダプタ使用時に雷が鳴り出したら電源プラグに触れないこと

感電の原因となります。
雷が鳴り止むまで機器から離れてください。

警告

指定の電池または専用 AC アダプタを使用すること

指定以外のものを使用すると、火災・感電の原因となります。

⚠ 注意（カメラについて）

感電注意

ぬれた手でさわらないこと

感電の原因になることがあります。

保管注意

製品は幼児の手の届かないところに置くこと

ケガの原因になることがあります。

保管注意

使用しないときは､レンズにキャップをつけるか太陽光のあたらない所に保管すること

太陽光が焦点を結び、火災の原因になることがあります。

移動禁止

三脚にカメラやレンズを取り付けたまま移動しないこと

転倒したりぶつけたりしてケガの原因となることがあります。

禁止

電源プラグを抜く

長期間使用しないときは電源（電池や AC アダプタ）を外すこと

電池の液漏れにより、火災、ケガや周囲を汚損する原因となることがあります。

ACアダプタで使用されている場合には、ACアダプタを取り外し、その後電源プラグをコンセントから抜いてください。火災の原因となることがあります。

使用注意

飛行機内で使うときは、航空会社の指示に従うこと

本機器が出す電磁波などにより､飛行機の計器に影響を与えるおそれがあります。病院で使う際も、病院の指示に従ってください。

禁止

本機器や AC アダプタは布団でおおったり、つつんだりして使用しないこと

熱がこもりケースが変形し、火災の原因となることがあります。

放置禁止

窓を閉め切った自動車の中や直射日光が当たる場所など､異常に温度が高くなる場所に放置しないこと

ケースや内部の部品に悪い影響を与え火災の原因となることがあります。

⚠ 危険（専用ニッケル水素充電池について）

禁止

電池を火に入れたり、加熱しないこと

液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

分解禁止

電池をショート、分解しないこと

液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

危険

専用充電器を使用すること

液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

危険

ネックレス、ヘアピンなどの金属製のものと一緒に持ち運んだり保管しないこと

液漏れ、発熱、破裂の原因となります。

使用禁止

ニコンD1、D1X、D1H専用の充電式電池です、この機器以外には使用しないこと

液漏れ、発熱の原因となります。

⚠ 警告（専用ニッケル水素充電池について）

水につけたり、濡らさないこと

液漏れ、発熱の原因となります。

変色・変形、そのほか今までと異なることに気づいたときは使用しないこと

液漏れ、発熱の原因となります。

充電の際に所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合には、充電をやめること

液漏れ、発熱の原因となります。

電池を廃棄またはリサイクルするときは、テープなどで接点部を絶縁すること

他の金属と接触すると、発熱、破裂、発火の原因となります。
廃棄する場合は、お住まいの自治体の規則に従って正しく廃棄してください。

カメラと電池の取り扱いについて

●強いショックを与えないでください
カメラおよびレンズを落としたり、ぶつけたりしないように注意してください。強い衝撃や振動を加えますと、破損したり精密に調整された部分に悪影響を及ぼします。

●水に濡らさないでください
カメラは水に濡らさないように注意してください。カメラ内部に水滴が入ったりすると部品がサビついてしまい、修理費用が高額になるだけでなく、修理不能になることがあります。

●急激な温度変化を与えないでください
極端に温度差のある場所（寒いところから急激に暖かいところや、その逆になるところ）にカメラを持ち込むと、カメラ内外に水滴を生じ、故障の原因となります。カメラをバッグやビニール袋などに入れて、周囲の温度になじませてから使用してください。

●強い電波や磁気の発生する場所で撮影しないでください
強い電波や磁気を発生するテレビ塔などの周囲および強い静電気の周囲では、記録データが消滅したり､カメラが正常に機能しない場合があります。

●カメラ本体のお手入れ方法について
カメラ本体の手入れの際は、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いてください｡特に､海辺で使った後は､真水を数滴たらした柔らかい清潔な布で塩分を拭き取ってから、乾いた柔らかい布で軽く拭いて乾かしてください。まれに、ブラシなどで表示パネルを拭いた場合に、静電気で表示パネルが点灯したり、黒く変色しますが、故障ではありません。しばらくすると元に戻ります。

●ミラーやレンズのお手入れ方法について
ミラーやレンズにゴミやホコリが付いているときは、キズが付きやすいので、ブロアーでゴミやホコリを軽く吹き払う程度にしてください｡なお､スプレー缶方式のブロアーの場合、スプレー缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、ミラーやレンズを傷つける場合があります）｡レンズに万一指紋などが付いてしまった場合は、柔らかい清潔な布に市販のレンズクリーナーを少量湿らせて、軽く拭き取ってください。

●ローパスフィルターのお手入れ方法について
ローパスフィルターのクリーニングの方法についてはP.187をご覧ください。

●シャッター幕に触れないでください
シャッター幕は非常に薄い幕でできていますので、押さえたり、突いたり、ブロアーなどで強く吹くなどは、絶対にしないでください。キズ、変形、破損などの原因となります。

●風通しのよい場所に保管してください
カビや故障などを防止するために、風通しのよい乾燥した場所を選んでカメラを保管してください。ナフタリンや樟脳の入ったタンスの中、磁気を発生する器具のそば、極度に高温となる夏期の車内、使用しているストーブの前などにカメラを置かないでください。故障の原因になります。

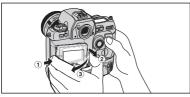
●長期間使用しないときは､電池を取り出し､乾燥剤といっしょに保管してください
カメラを長期間使用しないときは、電池の液漏れなどからカメラを保護するために、カメラから電池を必ず取り出しておいてください。保管する際は、カメラをポリエチレン袋などに乾燥剤といっしょに入れておくとより安全です。ただし、皮ケースをビニール袋に入れておくと、変質することがありますので避けてください。電池は高温、多湿となる場所を避けて保管してください。乾燥剤（シリカゲル）は湿気を吸って効力がなくなりますので、ときどき交換してください。カメラを長期間使用しないまま放置しておくと、カビや故障の原因となることがありますので、1カ月に一度を目安に電池を入れカメラを操作することをおすすめします。

●電池やACアダプタを取り外すときは必ず電源スイッチがOFFの状態で行ってください
電源スイッチがONの状態で、電池の取り出し、ACアダプタの取り外しを行うと、故障の原因となります。特に撮影動作中、または記録データの削除中の前記操作には、十分注意してください。

●液晶モニタについて
- 液晶モニタの特性上､一部の画素に常時点灯あるいは､常時点灯しない画素が存在することがありますが故障ではありません。予めご了承ください｡また､記録される画像には影響はありません｡
- 屋外では日差しの加減で液晶モニタが見えにくい場合があります。

・ 液晶モニタ表面を強くこすったり、強く押したりしないでください。液晶モニタの故障やトラブルの原因になります。もしホコリやゴミ等が付着した場合は、ブロアーブラシで吹き払ってください。汚れがひどいときは、柔らかい布やセーム革等で軽く拭き取ってください。万一、液晶モニタが破損した場合、ガラスの破片などでケガをするおそれがありますので十分ご注意ください。中の液晶が皮膚や目に付着したり、口に入ったりしないよう、十分ご注意ください。
・ カメラをご使用にならない場合や持ち運ぶ場合は、破損を防ぐため液晶モニタに付属のモニタカバーを取り付けてください。

[モニタカバーの取り付け方]

右手でD1Hカメラボディのグリップ部をしっかりと保持し、左手で液晶モニタカバーの左裏面の突起をD1Hカメラボディの液晶モニタ左側の溝に合わせ、液晶モニタカバーの右部分を、カメラボディ側にカチッと音がするまで押しつけて取り付けてください。

[モニタカバーの取り外し方]

右手でD1Hカメラボディのグリップ部をしっかりと保持し、左手で液晶モニタカバー取り付け部の左側を右方向に押しつけるようにしながら、液晶モニタカバーの右部分を上に引き上げて取り外してください。

●電池に関する使用上のご注意

電池の使用方法を誤ると液漏れにより製品が腐食したり、電池が破裂したりする恐れがあります。次の使用上の注意をお守りください。

・ 電池を入れるときは、電源スイッチをOFFにしてから入れてください。
・ 電池の電極が汗や油などで汚れていると、接触不良の原因となります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
・ 電池を電源として長時間使用した後は、電池が発熱していることがありますので注意してください。
・ 必ず指定された電池をご使用ください。
・ 電池を火の中に投入したり、電池をショートさせたり、分解したりしないでください。
・ 電池をカメラからはずした場合は、必ずコネクタカバーを付けてください。

●撮影の前に電池をあらかじめ充電してください

撮影の際は、電池の充電を行ってください。別売のリチャージャブルバッテリーEN-4は、ご購入時にはフル充電されておりませんのでご注意ください。

●予備電池を用意してください

撮影の際は、充電された予備の電池をご用意ください。特に、このカメラの電池は専用電池なのでご注意ください。

●低温時には十分充電された電池を使い、予備の電池を用意してください

低温時に消耗した電池を使用すると、カメラが作動しない場合があります。低温時に撮影する場合は充電された電池を使用し、保温した予備の電池を用意して暖めながら交互に使用してください。低温のために一時的に性能が低下して使えなかった電池でも、常温に戻ると使える場合があります。

●ラジオ、テレビなどへの電波障害についてのご注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラスB情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。使用説明書に従って正しい取り扱いをしてください。

●著作権についてのご注意

あなたがデジタルカメラで撮影したものは、個人として楽しむなどの他は、著作権上、権利者に無断で使用できません。なお、実演や興業、展示物の中には、個人として楽しむなどの目的であっても、撮影を制限している場合がありますのでご注意ください。また、著作権の目的となっている画像は、著作権法の規定による範囲内で使用する以外は、ご利用いただけませんのでご注意ください。

●あらかじめご承知いただきたいこと

・ この使用説明書の一部または全部を無断で転載することは、堅くお断りいたします。
・ 仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

●本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のアクセサリー（レンズ、スピードライト、バッテリー、バッテリーチャージャー、ACアダプタなど）に適合するように作られておりますので、当社製品との組み合せでご使用ください。

・ 他社製品との組み合せ使用により、事故・故障などが起こる可能性があります。その場合、当社の保証の対象外となりますのでご注意ください。

●デジタルカメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したまま、カメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。その際、カメラを長時間使用していますと電池が熱くなっていることがありますので、取り扱いには十分にご注意ください。ACアダプタをご使用時は、いったんカメラから取り出して再度カメラに取り付け、電源スイッチをONにしてカメラを作動させて見てください。また、この操作を行うことでカメラが作動しなくなった状態の時のデータは失われる恐れがありますが、すでにコンパクトフラッシュカードに記録されているデータは失われることはありません。この操作を行ってもカメラに不具合が続く場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにお問い合わせください。

●撮像素子表面ゴミ付着について

撮像素子表面に付着するゴミについて、当社の品質基準に基づき製造および出荷していますが、D1Hはレンズ交換方式のため、撮影レンズを交換の際、カメラ内にゴミやホコリ等が入り込むことがあります。入ったゴミやホコリが撮像素子表面に付着して、撮影された条件によっては画像に写り込む場合があります。カメラ内へのゴミやホコリの進入を防止するため、ホコリの多い場所でのレンズ交換は避けるようにお願いいたします。撮影レンズを外してカメラを保管するときは、付属のボディキャップを必ず装着するようにしてください。その際、ボディキャップのゴミやホコリも必ず除去してください。撮像素子表面に付着したゴミは、「カメラのお手入れについて」（P.184）にしたがってクリーニングしていただくか、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。なお、撮像素子表面に付着したゴミの写り込みは、画像加工アプリケーションなどを使って修正することが可能です。

● Exif※ Version 2.2 について

Exif Version 2.2 に対応します。Exif Version 2.2 は、デジタルカメラとプリンターの連携を強化し、高品質なプリント出力を簡単に得ることを目指した規格です。Exif Version 2.2対応のプリンターを使用することで、撮影時のカメラ情報を活かし、プリンターが最適なプリント出力を提供することができます。プリンターの使用説明書を読んでご使用ください。

※ Exif = Exchangeable image file format for digital still cameras

目次

目次 −つづき−

ご使用になる前に

この章の内容

この章では、使用説明書に登場する記号、カメラ各部の名称、液晶表示の見方について紹介します。

はじめに

このたびは、ニコンデジタルカメラD1Hをお買い上げいただき、ありがとうございます。この使用説明書は、レンズ交換式一眼レフデジタルカメラD1Hで、基本的な使い方から高度な撮影を楽しむ方法までを紹介しています。

ニコンデジタルカメラD1Hの特長

- 総画素数274万画素CCD（23.7×15.6mm）を搭載しており、画像は2,000×1,312画素で記録されます。
- 改良された3D-デジタルマトリックス・イメージコントロールにより、さらに美しい画像を実現しました。3D-RGBマルチパターン測光、TTLホワイトバランス、階調補正の３つの要素を、1,005画素CCDが読み込んだデータをもとに、総合的に画像をコントロールします。
- 使用用途に合わせてsRGB、Adobe RGBに最適化した、２種類のカラー設定が可能です。
- 約５コマ/秒の速度で、最大40コマ（RAWデータ記録時は最大27コマ）の連写が可能です。
- 0〜35のカスタムセッティングにより、使用目的にあわせて各種設定を変更できます。
- RAWデータのロスレス圧縮により、画質を落とすことなく画像のファイルサイズを小さくできます。

カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、１〜２年に１度は定期点検を、３〜５年に１度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。
- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

本製品を安心してご使用いただくために

本製品は、当社製のレンズおよびスピードライトなどのアクセサリーに適合するように作られておりますので、当社製品との組み合わせでご使用ください。
- 他社製品との組み合わせ使用により、事故、故障などが起こることがあります。

この使用説明書は、以下の記号を使用しています。必要な情報を探す場合にご利用ください。

カメラの故障を防ぐために、使用前に知っておかなければならないことが書かれています。

カメラを使用する前に知っておいていただきたいことが書かれています。

カメラを使用する場合に、便利な情報を掲載しています。

この使用説明書の別の箇所に、関連情報を掲載しています。

液晶モニタに表示されるメニュー画面で各種設定が変更できます。記号の横にメニュー名が表示されています。

カスタムセッティングで各種設定が変更できます。記号の横にある数字は、カスタムセッティングの項目番号です。

使用説明書の再発行について

使用説明書を紛失した場合は、新しい使用説明書を本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターでお求めください（有料）。

大切な撮影の前には試し撮りを

大切な撮影（結婚式や海外旅行など）を行う前には、必ず試し撮りをしてカメラが正常に機能するかを事前に確認してください。本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用および撮影により得べかりし利益の損失など）については、補償致しかねます。

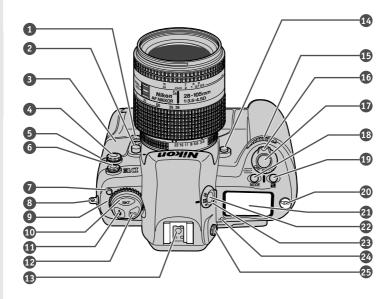
カスタマーサポート

下記アドレスのホームページ上で、サポート情報をご案内しています。

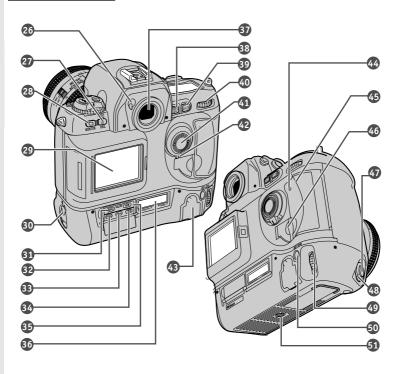
http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

各部の名称と機能

D1Hの各部名称は次のようになっています。

カメラ本体

1	フォーカスモードセレクトダイヤル ......P.68、77
2	レンズ取り外しボタン P.25
3	DC 入力端子・ビデオ出力端子カバー P.136
4	10 ピンターミナル P.196
5	セルフタイマー表示 LED ... P.96
6	シンクロターミナル P.100
7	動作モードダイヤルロックボタン P.13
8	吊り金具 P.12
9	動作モードダイヤル P.13
10	オートブラケティングボタン ....P.93、207
11	シンクロモードボタン P.101
12	感度ボタン P.60
13	アクセサリーシュー P.100
14	プレビューボタン P.98
15	サブコマンドダイヤル P.14
16	電源スイッチ ....P.22、97
17	シャッターボタン .... P.44 ～ 47、74
18	露出モードボタン .... P.80 ～ 87 フォーマットボタン P.27
19	露出補正ボタン P.92
20	吊り金具 P.12
21	上面表示パネル P.8
22	測光モードダイヤルロックボタン P.78
23	測光モードダイヤル P.78
24	距離基準マーク P.98
25	視度調節ノブ P.97

カメラ本体　－つづき－

26
27
28
29
30
31
32
33
34
35
36
37
38
39
40
41
42
43
44
45
46
47
48
49
50
51
MONITOR
DEL
AF-ON
MENU
WB
FUNC
QUALITY
W-BAL
Nikon

26 アイピースシャッターレバー P.96

27 削除ボタン P.119
フォーマットボタン P.27

28 モニタボタン .... P.111、114

29 液晶モニタ .... P.xi、16、111

30 電池着脱ノブ P.22

31 メニューボタン P.17

32 ファンクションボタン .... P.18、107

33 プロテクトボタン P.122

34 サムネイルボタン P.118

35 ホワイトバランスボタン P.62

36 背面表示パネル P.8

37 ファインダー接眼窓

38 AE/AF ロックボタン .... P.74、90

39 AF 作動ボタン P.69

40 メインコマンドダイヤル P.14

41 マルチセレクター .... P.17、72、115

42 マルチセレクターロックレバー P.72

43 インターフェース端子カバー .... P.109、138

44 コンパクトフラッシュカードアクセスランプ .... P.47、53

45 コンパクトフラッシュカードカバー P.26

46 開閉ロックボタンカバー P.26

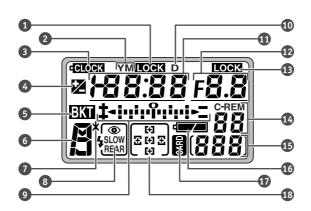
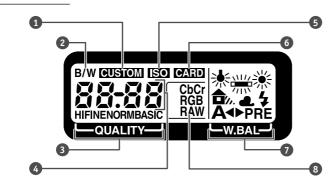
47 縦位置シャッターボタン P.43

48 縦位置シャッターボタンロックレバー P.43

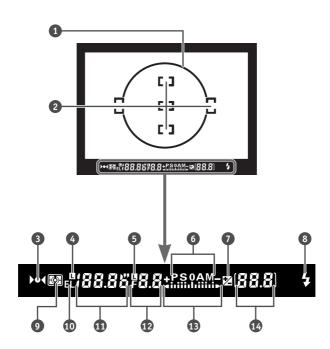
49 縦位置コマンドダイヤル P.14

50 縦位置 AF 作動ボタン P.69

51 三脚ネジ穴

上面表示パネル

背面表示パネル

1 シャッタースピードロックマーク P.88
2 年・月表示 P.207
3 時計用バッテリーチェック表示 P.31
4 露出補正マーク P.92
5 ブラケティングマーク P.93
6 露出モード表示 .... P.80～87
7 プログラムシフトマーク P.81
8 シンクロモード表示 P.101
9 露出インジケーター P.86
露出補正インジケーター P.92
10 日表示 P.207
GPS 受信表示 P.109
11 シャッタースピード P.82, 86
露出補正値 P.92
年月日・時刻表示 P.207
12 絞り表示 .... P.84、86
再生表示 P.111
13 絞りロックマーク P.88
14 残コマ表示 .... P.34、52
パソコンモード表示 P.139
15 撮影コマ表示 P.27
16 バッテリーチェック表示 P.23
17 コンパクトフラッシュカード情報表示 .... P.27、34
18 フォーカスエリア表示 P.71

1 カスタムマーク P.149
2 モノクロモード表示 P.56
3 クオリティ表示 P.56
4 感度表示 P.60
残コマ表示 P.173
カスタムセッティング表示 P.149
5 感度マーク P.60
6 コンパクトフラッシュカード情報表示 P.34
7 ホワイトバランスモード表示 P.62
8 HIGH 選択時のクオリティ表示 P.56

ファインダー内表示

1 中央部重点測光参照エリア
φ 12mm P.79

2 フォーカスフレーム
（エリア）............................... P.72
スポット測光エリア............ P.79

3 ピント表示 P.45

4 シャッタースピードロック
マーク P.88

5 絞りロックマーク P.88

6 露出モード表示 .... P.80～87

7 露出補正マーク P.92

8 レディライト P.100

9 測光モード表示 P.79
バッテリーチェック表示 P.23

10 AE ロック表示..................... P.90

11 シャッタースピード表示
.....................................P.82、86

12 絞り表示 ....P.84、86

13 露出インジケーター............ P.87
露出補正インジケーター P.92

14 コマ数表示 P.34
連続撮影残コマ表示............ P.52
露出補正値表示 P.92

同梱品について

同梱品は、以下の７つです。

ボディキャップ
BF-1A

モニタカバー
BM-1

ビデオケーブル EG-D1

ストラップ AN-D1H※

D1H
使用説明書
（この説明書）

Nikon View
CD-ROM

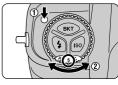
Nikon View
リファレンスマニュアル
CD-ROM

※ この製品のストラップは一部に本皮を使用しています。強くこすったり、湿ったものに長期間接触させると色落ちすることがありますので、ご注意ください。

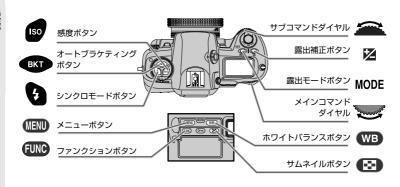
ストラップの取り付け方

ストラップは下図のように取り付けます。カメラボディに２箇所ある吊り金具に、確実に取り付けてください。

動作モードダイヤル

動作モードを切り換えるには、動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルを回します。動作モードの種類と特徴は次のとおりです。

モード	内容	👁
セルフタイマー撮影	撮影者自身が被写体として加わりたい場合、セルフタイマー撮影が行えます。	P.96
S 1 コマ撮影	シャッターボタンを押すごとに、1 コマ撮影が可能です。	P.52
C 連続撮影	シャッターボタンを押し続けると、連続撮影が可能です。	P.52
PLAY 再生モード	撮影された画像を、液晶モニタに再生します。	P.111
PC パソコンモード	カメラをパソコンに接続する場合に使用します。	P.139

ボタンとコマンドダイヤル

コマンドダイヤル（メインコマンドダイヤル・サブコマンドダイヤル）を回すと、ボタンとの組み合わせにより、シャッタースピードや絞りなどの設定ができます（縦位置コマンドダイヤルはメインコマンドダイヤルと同じ機能です）。

	機能	ボタン	ダイヤル	表示	👁
ホワイトバランス	ホワイトバランスモードの選択	WB	メインコマンドダイヤル	0 Ⓐ QUALITY W.BAL	P.62
	ホワイトバランスの微調整／プリセットホワイトバランスの選択	WB	サブコマンドダイヤル	+1 A◂▸ QUALITY W.BAL	P.64、P.67
撮像感度	撮像感度の設定（ISO 換算）	ISO	メインコマンドダイヤル	ISO 200 QUALITY W.BAL	P.60

	機能	ボタン	ダイヤル	表示	👁
露出	露出モードの選択	MODE			P.80～87
	プログラムシフト（プログラムオートモード時）	—			P.81
	シャッタースピードの選択（シャッター優先オート・マニュアルモード時）	—			P.82、P.86
	絞りの選択（絞り優先オート・マニュアルモード時）	—			P.84、P.86
	オートブラケティングの設定／解除	BKT			P.93
	オートブラケティングの撮影枚数と補正ステップの設定	BKT			P.93
	露出補正値の設定	⊠			P.92
スピードライト	シンクロモードの設定（別売スピードライト使用時）	⚡			P.101

マルチセレクターによる操作

マルチセレクターの各方向を押すと、それぞれ次の操作が可能です。

押す位置	操作できる内容
	項目や機能の選択： メニュー画面で▲（上）または▼（下）を押すことにより、項目や機能の選択を行います。
	項目・機能の決定や設定： ▶（右）を押して、メニュー画面で選択した項目や機能を決定します（この操作では決定できないメニューもあります）。また、項目によっては設定画面に切り換わります。
	項目・機能のキャンセル： ◀（左）を押して、メニュー画面で選択した項目や機能をキャンセルし、前の画面に戻ります（この操作ではキャンセルできないメニューもあります）。
	フォーカスエリアの選択： ５つのフォーカスフレームからフォーカスエリアを選択します。 **サムネイル画像の選択：** サムネイル表示画面、またはサムネイルを表示するメニュー画面で、画像を選択します。

メニュー画面による各種設定

液晶モニタに表示されるメニュー画面により、機能の設定ができます。メニュー画面には、次の４種類があります。

メニュー画面	機能	👁
再生メニュー	スライドショーや画像の複数削除、再生フォルダの選択など、再生に関する設定を行うメニューです。	P.176～177
撮影メニュー	画質やAFエリアモードなど、撮影に関する設定を行うメニューです。動作モードがPLAYに設定されている場合は、使用できません。	P.178～179
カスタムメニュー	カメラの各機能を撮影者の好みに合わせて設定を行うメニューです。動作モードがPLAYに設定されている場合は、使用できません。	P.148～175
SETUPメニュー	コンパクトフラッシュカードのフォーマット、日時設定など、カメラの基本設定を行うメニューです。	P.180～181

メニュー画面表示

電源スイッチをONにして、メニューボタンを押すと、メニュー画面が表示されます。

メニューボタンを二度押すとメニュー画面表示が消え、撮影した画像があれば画像を表示します。動作モードが**S**（1コマ撮影）・**C**（連続撮影）・（セルフタイマー撮影）・**PC**（パソコンモード）の場合は、シャッターボタンを半押しすると、メニュー画面表示が消えて、撮影準備状態に切り換わります。

メニュー画面選択

動作モードが**S**（1コマ撮影）・**C**（連続撮影）・（セルフタイマー撮影）・**PC**（パソコンモード）の場合、メニューボタンを押すと、撮影メニュー画面が表示されます。また、**PLAY**（再生モード）にした場合は、再生メニュー画面が表示されます。マルチセレクターのロックが解除されていることを確認し、マルチセレクターの▲/▼を押すと、別のメニュー画面が表示されます。▶を押すと、現在選択されているメニュー画面内の項目がハイライト表示になり、項目の選択が可能となります。

メニュー画面内の項目がすでに選択されている場合、マルチセレクターの◀を押すと、選択が解除され各メニュー画面が選択できるようになります。必要に応じて上記の手順でメニュー画面を切り替えてください。

コンパクトフラッシュカードが挿入されていない場合について

コンパクトフラッシュカードスロットにコンパクトフラッシュカードが挿入されていない場合、再生メニュー画面の選択はできません。

メニュー実行

メニューを実行するには、マルチセレクターまたはファンクションボタン FUNC を使用します。マルチセレクターの ▲/▼ を押して、設定したい項目を選択します。▶を押すか、ファンクションボタン FUNC を押すと選択されている内容を実行し、選択されているメニュー画面に戻ります。

メニュー項目の実行と同時に、設定に従ってカメラが機能し始めます。設定をキャンセルして前の画面に戻る場合は、実行する前にマルチセレクターの ◀ を押してください。

メニュー画面を終了するには

動作モードが**S**（1コマ撮影）・**C**（連続撮影）・（セルフタイマー撮影）・**PC**（パソコンモード）の場合は、モニタボタンを押すか、シャッターボタンの半押しを行います。動作モードが**PLAY**（再生モード）の場合は、モニタボタンを押すか、他の動作モードに切り換えてください。また、いずれの動作モードの場合でも電源スイッチをOFFにすることにより、メニュー画面が終了します。

マルチセレクターの▶とファンクションボタン FUNC の機能について

マルチセレクターの▶とファンクションボタン FUNC は同じ機能ですので、どちらを押してもメニュー項目の実行ができます。マルチセレクターの▶が使用できない場合は、ファンクションボタン FUNC を押してください。

撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録している間は、設定できないメニュー項目があります。

基本操作

この章の内容

カメラを使用するのに必要な準備と、カメラのオート機能を使用した、もっとも簡単な撮影・再生方法について記述しています。すぐに使用したい方に、必要にして十分な操作の紹介をしています。

撮影前の準備

カメラを初めてご使用になる前に、次の準備を行う必要があります。これらの操作に関連する情報は、右ページに記載されている他の章でご参照ください。

基本操作：撮影前の準備

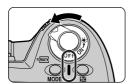
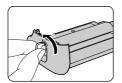
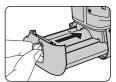
1：電池を入れます

カメラに電池を入れ、容量を確認します。電池には、リチャージャブルバッテリーEN-4（別売）を使用します。ニコンカメラ製品の販売店でお買い求めください。

1.1 電池を充電します

リチャージャブルバッテリーEN-4は出荷時には充電されておりませんので、使用前に、フル充電してください。クイックチャージャーMH-16（別売）を使用した場合の充電時間は約90分です。

1.2 電池を入れます

電池を入れる前に、電源スイッチをOFFにします。電池着脱ノブを⟲方向へ回して、電池をカメラに装着します。

電池を取り外すには

電池をカメラから取り外す場合は、電源スイッチをOFFにし、電池着脱ノブを⟲方向に回して電池を引き出します。

リチャージャブルバッテリーEN-4に使用できる充電器

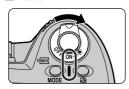
クイックチャージャーMH-16のほかに、クイックチャージャーMH-17（車載シガーライターソケットからの充電用）、クイックチャージャーMH-15（ニコンカメラF100用）、クイックチャージャーEH-3（ニコンデジタルカメラE3/E3s用）を使用できます。

関連項目

P.192　その他の別売アクセサリー

1.3 電池着脱ノブをロックします

1.4 電池容量を確認します

電源スイッチをONにして、上面表示パネルのバッテリーチェック表示で電池容量を確認します。

- 電池容量は十分です。
- 電池容量は残りわずかです。充電した予備の電池を用意してください。また、ファインダー内の測光モード表示（ / / ）が点滅します（ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します）。
- 電池を交換してください（撮影はできません）。

バッテリーチェック表示の点滅について

充放電を繰り返し使用して、性能が低下したリチャージャブルバッテリーEN-4をカメラに入れた状態でカメラの電源スイッチをONにすると、上面表示パネルのバッテリーチェック表示が点滅し、シャッターをきることができません。バッテリーチェック表示が点滅する場合は、カメラの電源スイッチをOFFにして、充電された新しいリチャージャブルバッテリーEN-4と交換してください。性能の低下したバッテリーは使用しないでください。

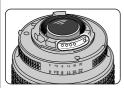
表示パネルの消灯について

電源スイッチをONにして約6秒経過すると、上面表示パネルからシャッタースピード表示と絞り表示が消灯します（ファインダー内および背面表示パネルは全ての表示が消灯します）。

CSM 15：半押しタイマーの作動時間の変更（P.158）

半押しタイマーがオフになるまでの時間を、4秒、6秒、8秒、16秒のいずれかに設定できます（半押しタイマーの作動時間を長く設定すると、電池が消耗します）。

2：レンズを取り付けます

カメラの機能を十分に活用するためには、G または D タイプレンズの使用をおすすめします。

CPU レンズには信号接点があります。

G タイプレンズ

D タイプレンズ

2.1 レンズをカメラに取り付けます

電源スイッチをOFFにして、レンズの着脱指標とカメラの着脱指標を合わせ、レンズ取り外しボタンを押さないように注意しながら、時計と反対回りにレンズを回します。カチッと固定されると取り付け完了です。

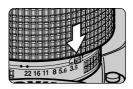
電源スイッチをONにすると、レンズがカメラに取り付けられていない場合や、非CPUレンズを取り付けた場合は、ファインダーと上面表示パネルの絞り値表示が F- - になります。また、非CPU レンズを取り付けて露出モードが、プログラムオート P かシャッター優先オート S に設定されている場合は、露出モード表示が点滅して警告します。この場合、自動的に絞り優先オートで制御されます。

ボディキャップやレンズの取り付け、取り外しをする場合は、カメラ内部にゴミや異物が入らないように、カメラのレンズ装着部を下向きにしてください。ゴミや異物が入ると、画像に悪影響を及ぼす恐れがあります。レンズを装着していないときは、カメラにボディキャップを取り付けてください。

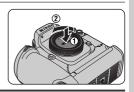
関連項目

P.188　使用できるレンズ

2.2 絞りリングを最小絞りにします（Gタイプレンズ以外のCPUレンズの場合）

絞りリングを最小絞り（最大値）にして、ロックします（手動で絞りを調整する場合は、ロックしないでください）。絞りリングのないGタイプレンズの場合は必要ありません。

電源スイッチを ON にすると、G タイプレンズ以外の CPU レンズで最小絞りになっていない場合は、ファインダーと上面表示パネルに FEE が点滅し、撮影することができません。

カメラからレンズを外しておく場合は

カメラからレンズを外しておく場合は、ミラーやファインダースクリーンなどへのゴミやホコリの付着を防ぐため、付属のボディキャップ BF-1A を装着してカメラ内部を保護してください。

レンズを取り外すには

電源スイッチを OFF にして、レンズ取り外しボタンを押しながら、時計回りにレンズを回します。

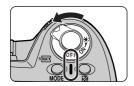
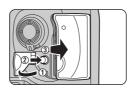
22：レンズの絞りリングによる絞りセット（P.163）

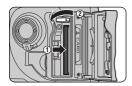
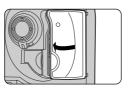
通常は **A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）時はサブコマンドダイヤルで絞りのセットを行いますが、レンズの絞りリングでのみ絞りのセットが行えるように変更できます。

3：コンパクトフラッシュカードを入れます

D1Hは、フィルムの代わりにコンパクトフラッシュカードに画像を記録します。ここではコンパクトフラッシュカード挿入、フォーマットの手順について説明します。コンパクトフラッシュカードについては、資料編「別売アクセサリーについて」の推奨カード一覧（P.193）をご確認ください。

3.1 コンパクトフラッシュカードカバーを開きます

電源スイッチをOFFにして、開閉ロックボタンカバーを開き、開閉ロックボタンを押します。コンパクトフラッシュカードカバーが開きます。

3.2 コンパクトフラッシュカードを入れます

コンパクトフラッシュカードを、コンパクトフラッシュカードスロットの中に入れます。カードの上面を「▲CARD」表示の方向に向け、奥まで確実に押し込みます。挿入後、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを折りたたみ、コンパクトフラッシュカードカバーを閉めます。

コンパクトフラッシュカードは、正しい向きに入れてください。また、無理に差し込まないでください。カメラ破損の原因となります。

カードフォーマット（P.133）

コンパクトフラッシュカードのフォーマットはメニュー画面操作でも可能です。

	関連項目
P.193	動作確認済みのコンパクトフラッシュカードについて

3.3 コンパクトフラッシュカードをフォーマットします

コンパクトフラッシュカードを使用するには、先にフォーマットしておく必要があります。フォーマットするには、電源スイッチをONにして、2つの FORMAT ボタンを2秒以上同時に押します。上面表示パネルに For （フォーマット）の表示が点滅したら、もう一度2つの FORMAT ボタンを押します。

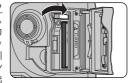
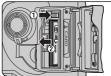
フォーマットが完了すると、上面表示パネルの撮影コマ数が1となり、残コマ表示に撮影可能枚数が表示されます。撮影可能枚数が100枚を超える場合は、FLと表示されます。

- For （フォーマット）表示が点滅している状態で FORMAT ボタン以外のボタンを押すとフォーマットは解除されます。
- コンパクトフラッシュカードの詳細については、コンパクトフラッシュカードの使用説明書をご覧ください。

コンパクトフラッシュカードをフォーマットすると、カード内の画像はすべて消去されます。必要な画像がある場合は、フォーマットする前に保存してください。

使用後、コンパクトフラッシュカードが熱くなっていることがあります。取り出しの際は、ご注意ください。

コンパクトフラッシュカードを取り出すには

電源スイッチをOFFにして、アクセスランプの消灯を確認します。コンパクトフラッシュカードカバーを開けて、コンパクトフラッシュカードイジェクトレバーを引き起こして下に押し込むと、コンパクトフラッシュカードを取り出すことができます（アクセスランプ点灯中は、絶対にカードを取り出さないでください。データ消去、カード破損、カメラの不具合の原因となります）。

4：言語を選択します

日本語から他言語にする場合、使用言語を選択します。メニュー画面表示やメッセージ表示が、使用言語に切り替わります。

4.1 メニュー画面を表示します

電源スイッチをONにして、メニューボタン MENU を押します。液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

4.2 SETUPメニュー画面を表示します

マルチセレクターのロックが解除されていることを確認し、マルチセレクターの▲/▼を押して、SETUPメニュー画面を選択します。

4.3「言語（LANG)」を選択します

マルチセレクターの▶ を押すと、SETUP メニューに入ります。マルチセレクターの▲/▼を押して、「言語（LANG)」を選択します。

4.4 選択言語を確定します

マルチセレクターの▶ を押すと、言語選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲/▼を押して、使用言語を選択します。マルチセレクターの▶ を押すと、設定が有効になり、SETUP メニュー画面に戻ります。

5：日付と時刻を設定します

撮影したすべての画像に撮影日時が記録されます。正しい日時を記録するため、ご使用の前にカメラ内蔵の時計で日時を設定してください。

5.1 メニュー画面を表示します

電源スイッチをONにして、メニューボタン MENU を押します。液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

5.2 SETUPメニュー画面を表示します

マルチセレクターのロックを解除し、▲/▼を押して、SETUPメニュー画面を表示します。

5.3「日時設定」を選択します

マルチセレクターの▶を押すと、SETUPメニューに入ります。マルチセレクターの▲/▼を押して「日時設定」を選択してから、マルチセレクターの▶を押して日時設定画面を表示します。

5.4 日付と時刻を合わせます

マルチセレクターの ◀/▶ を押して「年」の数値を選択します（選択された箇所は青く表示されます）。マルチセレクターの▲/▼を押して数値を合わせます。マルチセレクターの ◀/▶ を押すごとに、「月」「日」「時」「分」「秒」の選択が順番に切り替わります。それぞれの項目について、マルチセレクターの▲/▼を押して数値を合わせてください。

5.5 日付と時刻を確定します

「秒」まで数値を合わせ終わったら、ファンクションボタン FUNC を押して、数値を確定します。同時に日付設定画面が終了し、SETUPメニュー画面に戻ります。

時計用電池

カメラ内蔵の時計は、リチャージャブルバッテリーEN-4とは別の電池で作動しています。この電池の寿命は約10年です。上面表示パネルに、時計用バッテリーチェック表示 CLOCK が点灯した場合、カメラ動作には支障はありませんが、日付時刻は正しく表示されません。時計用電池の交換は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターで承ります（有料）。

日付と時刻の設定は、オートブラケティングボタン **BKT**、露出補正ボタン と メインコマンドダイヤルの組み合わせでも行えます。詳しくは資料編「主な仕様」（P.207）をご覧ください。

撮影の基本

必要な設定が完了したらいよいよ撮影です。ここではオートフォーカスやプログラムオートを使用した簡単な撮影方法を説明します。プログラムオートによる撮影は、ほとんどの撮影状況に対応します。より詳しい操作方法については、右ページで紹介している「操作の詳細」をご覧ください。

基本操作：撮影を始める前に

操作の詳細

・動作モード .... P.52～53
・画質の設定 .... P.54～59
・撮像感度 .... P.60～61
・ホワイトバランス ... P.62～67
・フォーカス .... P.68～77
・測光モード .... P.78～79
・露出 .... P.80～95

・プレビューボタン P.98
・別売アクセサリー .... P.188～197

・フォーカス .... P.68～77
・距離基準マーク P.98

・測光モード .... P.78～79
・露出 .... P.80～95

・セルフタイマー撮影 P.96

・再生の種類 .... P.111～112
・再生時の操作 .... P.113～123
・その他の再生メニュー .... P.124～132

0：撮影を始める前に

撮影を始める前に、以下の手順で準備を完了してください。

0.1 電源スイッチを ON にして、電池容量を確認します

電源スイッチをONにし、上面表示パネルで、電池容量を確認します（「撮影前の準備」STEP 1（P.22）をご覧ください）。

0.2 撮影可能枚数を確認します

上面表示パネルまたは背面表示パネルで、撮影可能枚数を確認します。

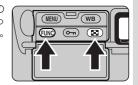
撮影可能枚数がゼロの場合、ファインダー内表示に Cd（カード）、上面表示パネル・背面表示パネルに CARD が点滅します。撮影する前に、画像を削除するか、別のコンパクトフラッシュカードに取り替えてください。また、画質の設定を変更すると、撮影可能枚数が増加または減少することがあります。

0.3 視度調整をします

撮影者個人の視力に合わせて視度調節をします。視度調節ノブを引き上げ、ファインダー内のフォーカスフレームが、最もよく見える位置まで回します。

設定を終えたら、引き上げた視度調節ノブを必ず押し戻してください。

カメラを初期設定状態に戻すには

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したいときに便利です（P.174）。

撮影コマ数の表示について

上面表示パネルに表示される撮影コマ数は、現在使用中のフォルダに保存されている画像ファイル数をもとにしています。そのため、新規フォルダが作成されると、撮影コマ数は1になります。

35：背面表示の変更（P.173）

通常は、背面表示パネルに撮像感度（ISO 換算）が表示されますが、残コマ表示に変更することができます。

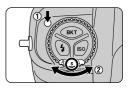
関連項目

P.23　電池容量の確認
P.174　カメラのリセット
P.97　視度調整機能
P.130　新規フォルダの作成
P.119　画像の削除
P.54　画質について

1：撮影に関する設定をします

ここでは、1コマ撮影、シングルAFサーボ、マルチパターン測光、プログラムオート、撮像感度：200、ホワイトバランス：オート、画質モード：ノーマルに設定して撮影を行います（以下の手順はGまたはDタイプレンズの使用を前提としています）。設定は以下の手順で行います。各設定の詳細は参照ページをご覧ください。

1.1 動作モードを設定します（P.52）

動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルを回して、**S**（1コマ撮影）に合わせます。1コマ撮影はシャッターボタンを押すたびに、1コマずつ撮影するモードです。

1.2 画質モードを設定します（P.54）

ここでは画質モードのクオリティをNORMAL、カラー設定をCOLORに設定します。

Aメニューボタン MENU を押すとメニューが表示されます。B次にマルチセレクターロックを解除し、マルチセレクターの▲/▼を押して撮影メニューを表示します。Cマルチセレクターの▶を押すと、撮影メニューに入ります。

FUNCボタン設定（P.107）

FUNCボタン設定で「QUAL」を選択すると、ファンクションボタン FUNC とコマンドダイヤルで画質モードを設定できます。

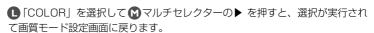
D「画質モード設定」を選択してEマルチセレクターの▶を押すと、「画質モード設定」の選択項目が表示されます。

F「QUAL」を選択してGマルチセレクターの▶を押すと、「QUAL」の選択項目が表示されます。

H「NORMAL」を選択してIマルチセレクターの▶を押すと、選択が実行されて画質モード設定画面に戻ります。

1：撮影に関する設定をします　－つづき－

Ⓙマルチセレクターの▲/▼を押して「COLOR」を選択します。Ⓚマルチセレクターの▶ を押すと「COLOR」の選択項目が表示されます。

Ⓛ「COLOR」を選択してⓂマルチセレクターの▶ を押すと、選択が実行されて画質モード設定画面に戻ります。

1.3 撮像感度を設定します（P.60）

感度ボタン **ISO**を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して、上面表示パネル・背面表示パネルに 200 を表示させます。

1.4 ホワイトバランスを設定します（P.62）

ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して、背面表示パネルに**A**（オート）を表示します。このモードでは照明光に合わせて、ホワイトバランスを自動調整します。

1.5 フォーカスモードを設定します（P.68）

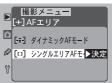
フォーカスモードセレクトダイヤルを、カチッと音がするまで回し、**S**に合わせます。このモードでシャッターボタンを半押しすると、選択されたフォーカスエリア内の被写体に自動的にピントが合います。被写体にピントが合っている場合のみ、撮影できます。

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**または**C**に設定した場合は、レンズの距離リングを手で回さないでください。

1：撮影に関する設定をします　–つづき–

1.6 AF エリアモードを設定します（P.70）

撮影メニューでAFエリアモードをシングルエリアAFモードに設定します。以下の手順に従ってください。

Ⓐメニューボタン MENU を押すとメニューが表示されます。Ⓑ次にマルチセレクターロックを解除し、マルチセレクターの▲/▼を押して撮影メニューを表示します。Ⓒマルチセレクターの▶を押すと撮影メニューに入ります。

Ⓓ「AF エリア」を選択してⒺマルチセレクターの▶を押すと、「AF エリア」の選択項目が表示されます。

Ⓕ「シングルエリア AF モード」を選択してⒼマルチセレクターの▶を押すと、選択が実行されて撮影メニューに戻ります。メニューボタン MENU を押して液晶モニタのメニュー表示を終了します。

1.7 フォーカスエリアを選択します（ P.72）

マルチセレクターロックレバーを回転してロックを解除し、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶ を押してフォーカスエリアを選択します。上面表示パネルのフォーカスエリア表示が中央（下図参照）になるよう選択してください。マルチセレクターロックレバーをロック側に戻します。

1.8 測光モードを設定します（ P.78）

測光モードダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードダイヤルを回して、 に合わせます。ファインダー内表示に、マルチパターン測光表示が出ます。この測光方式では画面全域の様々な情報を分類して露出を決定します。

FUNC ボタン設定（ P.107）

FUNCボタン設定で**[+]** を選択すると、ファンクションボタン FUNC とメインコマンドダイヤルで AF エリアモードを選択できます。

1：撮影に関する設定をします　－つづき－

1.9 露出モードを選択します（ P.80）

露出モードボタン**MODE**を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを**P**（プログラムオート）にセットします。プログラムオートは、撮影状況に応じて最適露出となるようプログラム線図に従って自動的に露出制御を行います。

CPU レンズ以外のレンズを使用する場合は

プログラムオートは、CPU レンズを使用している場合のみ、作動します。非CPU レンズを装着している場合は、自動的に絞り優先オートに設定されます。上面表示パネルの露出モード表示は **P** が点滅し、ファインダーの露出モード表示は **A** が点灯します。また、上面表示パネルとファインダーの絞り表示は、**F- -** になります。絞りリングを使用して、手動で絞りをセットしてください。

2：構図を決めます

構図を決める場合は、わきを締め、ひじを軽く体につけ、カメラを構えます。右手でカメラのグリップを包み込むように持ち、左手でレンズを支えます。片足を軽く踏み出すと、上半身が安定します。

- 縦位置シャッターボタン(P.6)を使用すると、縦位置に構えた時にシャッターがきりやすくなります。
- ファインダー像がはっきりしない時は、視度調節（P.97）を行ってください。ファインダー像が確認しやすくなります。

人物などを縦位置で撮影する場合は、
カメラを縦位置に構えます。

構図を決める際のご注意

このファインダーで確認できる範囲（ファインダー視野率）は、実際に撮影される画面の約96%です。したがって、ファインダーをのぞいて見た視野よりも、実際に撮影される画面は多少広くなります。

手ブレとシャッタースピードについて

手ブレを防ぐには、一般にシャッタースピードを「1/装着しているレンズの焦点距離」秒より高速にします。たとえば50mmレンズの場合、シャッタースピードを1/50秒より高速にすると手ブレを防ぐことができます。シャッタースピードを低速にした場合は、三脚の使用をおすすめします。

3：ピントを合わせます

シングル AF サーボ設定時は、シャッターボタンを半押しすると、選択したフォーカスエリア内の被写体にピントが合います。被写体をフォーカスフレームの中心に合わせて、シャッターボタンを半押ししてください。

自動的にピント合わせが行われると、ファインダーに以下の表示が出ます。

ファインダー表示	意味
●	（点灯）被写体にピントが合っています。
▶	（点灯）目的の被写体より手前にピントが合っています。
◀	（点灯）目的の被写体より後方にピントが合っています。
▶ ◀	（点滅）オートフォーカスでピントを合わせることができません。

- ピントを合わせたいものがフォーカスエリアから外れる構図で撮影する場合は、マルチエリアセレクターでフォーカスエリアを選択し直すか、フォーカスロック撮影してください。
- ピントを合わせることができない場合の対処方法については「オートフォーカスの苦手な被写体について」（P.76）をご覧ください。

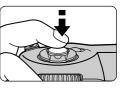
撮影をする際のご注意

太陽を直接撮影するなど、高輝度被写体の撮影は避けてください。過度の光照射はCCDを劣化させる恐れがあります。また、その際撮影された画像には、真っ白くにじみが発生することがあります。

関連項目

P.72　フォーカスエリアの選択
P.74　フォーカスロック撮影
P.97　視度調整機能

4：露出を確認します

露出モードがプログラムオートの場合、シャッターボタンを半押しすると、自動的にシャッタースピードと絞りがセットされます。シャッターを切る前に、ファインダー内のシャッタースピード表示と絞り表示を確認してください。被写体が明るすぎる、または暗すぎる場合は、ファインダー、上面･背面表示パネルに以下の表示が点灯します。

表示	内容
HI	被写体が明るすぎます。ND（光量調節用）フィルターをご使用ください。
Lo	被写体が暗すぎます。スピードライトを使用してください。

CSM 2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2段または1段に変更できます。

5：撮影します

シャッターボタンを下まで押し込むと、撮影できます。

コンパクトフラッシュカードに撮影した画像の記録が行われている間、コンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯します。点灯が消えるまで、電源スイッチのOFFやコンパクトフラッシュカードの取り出し、電池の取り出し、ACアダプタ（別売）の取り外しをしないでください。データが失われる恐れがあります。

ニコンデジタルカメラD1Hは、メカニカルシャッターとCCD電子シャッターを併用しています。フィルムカメラのシャッター作動と異なり、シャッタースピードが高速の場合でも、メカニカルシャッター作動音とミラーの作動音の間隔は、一定時間より短くなりません。

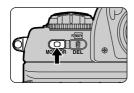
CSM 1：撮影時の撮影画像の確認（P.151）

撮影後、画像の記録中に撮影画像を液晶モニタに表示させる場合はモニタボタンを押します。また、カスタムセッティング1でONに設定すると、撮影画像は自動的に液晶モニタに表示されます。

6：レビューモードで画像を再生します

レビューモード（ワンタッチ再生）を使用して、コンパクトフラッシュカードに保存した画像を再生します。動作モードを **PLAY** に切り換えることなく、ワンタッチで画像を再生できます。そのため、画像を確認して、すぐに次の撮影に移ることができます。また、不必要な画像はその場で削除できます。

6.1 液晶モニタをONにします

モニタボタン を押して、液晶モニタを表示します。最後に撮影した画像が液晶モニタに表示されます。

コンパクトフラッシュカードに画像が保存されていない場合は、液晶モニタに「撮影画像がありません」と表示されます。モニタボタン を押すと液晶モニタがOFFになります。

液晶モニタの表示画面について

撮影後にモニタボタン を押すと、撮影画像が表示されます。メニューを表示した状態で液晶モニタをOFFにしてから、再度液晶モニタをONにすると、メニュー画面が表示されます。

18：再生時のパワーオフ設定の変更（P.160）

初期設定では、20秒間操作を行わないと、液晶モニタ表示は自動的にOFFになります。カスタムセッティング18を使用すると、自動的にOFFになるまでの時間を変更できます。

6.2 画像を選択します

- マルチセレクターの▲/▼を押すと、撮影画像のコマ送りができます。▲を押すと、現在表示されている画像の前に撮影した画像が、▼を押すと、後に撮影した画像が表示されます。マルチセレクターを押し続けると、画像が早送りされます。
- 最後に撮影された画像が表示されている場合にマルチセレクターの▼を押すと、先頭画像を表示します。先頭画像を表示している場合に▲を押すと、最終画像を表示します。
- コンパクトフラッシュカードに多数の画像を保存している場合は、サムネイル画像（縮小画像）で再生すると便利です。サムネイルボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、1コマ表示、4コマ表示、9コマ表示に、表示が切り替わります。

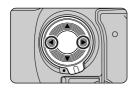
6.3 画像を拡大表示します

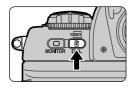
ファンクションボタン FUNC を押すと、現在表示されている1コマ画像、または選択されているサムネイル画像を拡大表示します。画像の中央部分が、液晶モニタの画面全体に広がります。

- 拡大表示中に、マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押すと、画像をスクロールさせて見たい部分を選択できます。
- 再度ファンクションボタン FUNC を押すと、拡大表示が終了し、再生画面に戻ります。
- 画像の拡大部分を示すサムネイル表示は、拡大またはスクロール操作後、約2秒で消えます。

6：レビューモードで画像を再生します　－つづき－

6.4 画像の撮影情報を見ます

1 コマ表示の際、マルチセレクターの ◀/▶ を押すと、現在表示されている画像の撮影情報を見ることができます（詳しくは、「画像の再生」（P.115）をご覧ください）。

6.5 不要な画像を削除します

- 1 コマ再生、またはサムネイルの表示中に、削除ボタン 🗑 を押すと、表示または選択中の画像を削除することができます｡削除確認画面が表示されたら、再度削除ボタンを押します。選択した画像が削除され、再生画面に戻ります。
- 削除確認画面が表示されているときに、削除ボタン 🗑 以外のボタンを押すと、画像の削除をキャンセルできます。

6.6 撮影モードに戻ります

- モニタボタン を押す､またはシャッターボタンを半押しするとモニタの表示画面が消え、撮影可能状態になります。

操作の詳細

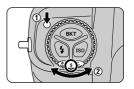
この章の内容

この章では、撮影、再生、そしてパソコンとの接続について詳しく説明します。

撮影に使用する動作モード

動作モード（P.13）により、撮影動作を**S**（1コマ撮影）、**C**（連続撮影）、(セルフタイマー)（セルフタイマー撮影）の選択ができます。

操作方法

動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルで動作モードをセットします。
撮影に使用する動作モードは、次のとおりです。

動作モード	内容
S（1コマ撮影）	シャッターボタンを押すたびに1コマずつ撮影と記録が行われ、記録中はアクセスランプが点灯します。バッファメモリに空きがある場合は、直ちに次の撮影が可能です。
C（連続撮影）	シャッターボタンを押し続けると、最高約5コマ/秒※で連続して撮影が行えます。連続して撮影できるコマ数は最大40コマ（画質モードをRAWに設定した場合は27コマ）です。また、コンパクトフラッシュカードへの記録が終わったコマ数分だけ、引き続き次の撮影が行えます。
(セルフタイマー)（セルフタイマー撮影）	手ブレを軽減したい場合や撮影者自身も被写体として加わりたいような場合、セルフタイマー撮影が行えます（P.96）。

※ 連続撮影速度は、フォーカスモードC、露出モードM、1/250秒以上の高速シャッタースピード、絞り開放以外、常温20℃の平均値です。

C：連続撮影可能コマ表示について

シャッターボタンを押し続けている間、または半押ししている間、連続撮影可能なコマ数が上面表示パネルとファインダー内に表示されます。連続撮影可能枚数は、40から始まり、1コマずつカウントダウンします。ただし、コンパクトフラッシュカードの残りメモリ容量によっては、40コマより少なくなることもあります。（Sモード時には、繰り返し撮影が可能な枚数が表示されます。）

連続撮影時の記録時間

- 連続撮影終了直後にコンパクトフラッシュカードアクセスランプが点灯している間は、カメラ本体からコンパクトフラッシュカードを取り出さないでください(40コマ連続撮影を行った場合、最低でも約55秒間アクセスランプが点灯します)。
- データ書き込み中にカメラ本体からコンパクトフラッシュカードを取り出すと、画像データが消失するだけでなく、カメラ本体とコンパクトフラッシュカードに不具合が生じるおそれがあります。
- 電源スイッチをOFFにすると、**書き込み中の画像(1コマ)が書き込まれてから電源が切れます**が、**バッファメモリに保存されている書き込み動作待ちの画像データは消去されます。** また、連続撮影時に電池の容量がなくなった場合は、新たな撮影動作は行われず、バッファメモリ内の画像データがコンパクトフラッシュカードに記録されて終了します。
- 各画質モードでの連続撮影時のコンパクトフラッシュカードアクセスランプ点灯時間は、次のようになります(Nikon EC-96CF(96MB)カード使用時)。

クオリティ		アクセスランプの点灯時間
HIGH	YCbCr-TIFF	約230秒(17コマ撮影時)
	RGB-TIFF	約235秒(12コマ撮影時)
	RAW(非圧縮)	約235秒(23コマ撮影時)
	RAW(圧縮)	約180秒(23コマ撮影時)
FINE	JPEG(1:4)	約130秒(40コマ撮影時)
NORMAL	JPEG(1:8)	約85秒(40コマ撮影時)
BASIC	JPEG(1:16)	約55秒(40コマ撮影時)

＊ご使用のコンパクトフラッシュカードおよび撮影条件により書き込み時間は異なります。

CSM 25:連続撮影時の撮影速度(P.166)

連続撮影時の撮影速度を変更できます。

CSM 26:連続撮影時の撮影コマ数制限(P.166)

連続撮影の最大コマ数を1〜40コマ(画質モードを「RAW」に設定した場合は1〜27コマ)の間のいずれかに変更できます。

画質の設定

撮影

画質モードは、クオリティ、カラーまたはモノクロをそれぞれ選択して組み合わせることにより設定します。

メニュー画面による操作方法

撮影メニュー画面（P.16）から「画質モード設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、画質モード設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して、設定する項目を選択します。

項目	内容
QUAL	保存する画像データのクオリティを選択します。選択できるモードは「HIGH」、「FINE」、「NORMAL」、「BASIC」の4種類です。「HIGH」を選択すると、さらに「YCbCr」、「RGB」、「RAW」の3種類から選択できます。
COLOR	カラーまたはモノクロを選択します。

クオリティの設定

画質モード設定画面で「QUAL」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、クオリティ設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して、クオリティを選択します。

クオリティ設定画面では、次の選択が可能です。

HIGH

HIGHでは、画像を圧縮せずに保存します（RAWの圧縮記録時を除く P.168）。「HIGH」を選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、「YCbCr」、「RGB」、「RAW」モードを選べます。

項目	内容
YCbCr	画像を8bit非圧縮のYCbCr-TIFF形式で記録します。画像の記録は輝度（Y）と色差（CbCr）で行われます。画質的にはRGB-TIFFと同じで、ファイルサイズはRGB-TIFFの約2/3になります。復元にはNikon ViewまたはNikon Capture 3が必要です。
RGB	画像を8bit非圧縮のRGB-TIFF形式で記録します。多くの画像アプリケーションで復元できます。
RAW	CCD（撮像素子）からの生出力を12bitのデータ（NEF形式）で記録します。復元には、Nikon ViewまたはNikon Capture 3が必要です。

- カスタムセッティング28（ P. 168）の「RAWデータ記録」で「OFF」が選択されている場合は、「RAW」を選択できません。
- 「圧縮記録」を選択した場合は、RAWのロスレス圧縮で記録されます。RAWのロスレス圧縮は、画質を損なうことなく、RAWの非圧縮記録に対して約50～60%のファイルサイズで保存することが可能です。
- RAWで保存した画像をNikon View、Nikon Capture 3で復元する場合は、カラーの3,008 × 1,960画素サイズになります。

FINE

画像データを約1/4のJPEG圧縮で記録します。

NORMAL

画像データを約1/8のJPEG圧縮で記録します。

BASIC

画像データを約1/16のJPEG圧縮で記録します。

クオリティを選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり画質モード設定画面に戻ります。

カラーの設定

画質モード設定画面で「COLOR」を選択して、マルチセレクターの ▶を1回押すと、カラーまたはモノクロの設定画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押して、「COLOR」または「B&W」を選択します。

項目	内容
COLOR	画像をカラーで記録します。
B&W	画像をモノクロで記録します。

- カラーの設定によって撮影可能枚数が変わることはありません。
- クオリティを「HIGH」の「RAW」に設定した場合、カラーまたはモノクロの選択はできません。
- RAWで保存した画像をNikon View 、Nikon Capture 3で復元する場合は、カラーの3,008 × 1,960 画素サイズになります。

選択してマルチセレクターの ▶を1回押すと、設定が有効になり画質モード設定画面に戻ります。

背面表示パネルの表示

背面表示パネルには、設定した画質モードの内容が表示されます。

- クオリティのNORMALは「NORM」と表示されます。
- HIGH 選択時の YCbCr-TIFF は「CbCr」と表示されます。
- モノクロ選択時のみ「B/W」と表示されます。

各画質モードで撮影可能な枚数

96MBのコンパクトフラッシュカードで撮影できる枚数は、それぞれの設定で以下のようになります。

クオリティ		画像1枚あたりの容量	撮影可能枚数 *
HIGH	YCbCr-TIFF	約5.0MB	約17枚
	RGB-TIFF	約7.5MB	約12枚
	RAW（非圧縮）	約3.8MB	約23枚
	RAW（圧縮）	**	***
FINE	JPEG（1:4）	約1.3MB	約66枚
NORMAL	JPEG（1:8）	約640KB	約132枚
BASIC	JPEG（1:16）	約320KB	約265枚

* 撮影条件により、撮影可能枚数は増減します。
** RAW（非圧縮）に対して約50%～60%のファイルサイズになります。
*** 残コマ表示に表示される撮影可能枚数は、撮影開始時は、RAWの非圧縮に設定した場合と同じ枚数で表示されますが、RAWの非圧縮よりもファイルサイズが小さいため、撮影を行うと、コマ数の減少が少なくなり、実際の撮影可能枚数は、撮影開始時よりも多くなります。

ファンクションボタン操作による設定

ファンクションボタン FUNC に画質モード設定機能を割り当てると､ボタン操作での設定が可能になります。ファンクションボタン FUNC に画質モード設定機能を割り当てるには、撮影メニューの「FUNC ボタン設定」を「QUAL」に設定します（P.107)。

1 ファンクションボタン FUNC を押しながらメインコマンドダイヤルを回して、希望するクオリティを背面表示パネルに表示させます。

クオリティは次のように切り替わります（HIGHモードは背面表示パネルで｢HI｣、NORMAL モードは「NORM」と表示されます)。

2 ファンクションボタン FUNC を押しながらサブコマンドダイヤルを回して、希望する画像のカラー、画像サイズ、および HIGH 選択時のクオリティを設定し、背面表示パネルに表示させます。

画像のカラー、およびHIGH選択時のクオリティの組み合わせは、次のように切り替わります。

HIGH選択時

FINE、NORMAL、BASIC選択時

表示なし
(カラー)
B/W

- カスタムセッティング28（P.168）の「RAWデータ記録」で「OFF」が設定されている場合は、「RAW」の表示・選択はできません。
- HIGH選択時のYCbCr-TIFFは「CbCr」と表示されます。
- カラーは、モノクロ選択時のみ「B/W」の文字が点灯します。

ファイル名について

D1Hで撮影された画像はDSC_nnnn.xxxという名称が付きます。nnnnには0001～9999までの数字が、xxxには選択した画質モードの拡張子が入ります。拡張子は次のとおりです。RAWの場合：NEF、YCbCr-TIFF/RGB-TIFFの場合：TIF、FINE/NORMAL/BASICの場合：JPGとなります。

撮像感度

撮像感度を標準（ISO200相当）よりも高くセットすることができ、暗いところでの撮影にも対応します。

感度ボタン操作による設定

感度ボタン**ISO**を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望する撮像感度表示を上面表示パネル・背面表示パネルに点灯させます。

撮像感度は次のように切り替わります。各数値はそれぞれISO感度に相当します。

200—250—320—400—500
1600—1250—1000—800—640

メニュー画面による設定

撮像感度はメニュー画面でも設定できます。撮影メニュー画面（P.16）から「ISO設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、ISO設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して、設定する撮像感度を選択します。内容はボタン操作の場合と同じです。選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

高感度に設定した場合

撮像感度を高く設定すると、低く設定したときに比べて、多少ざらついた画像になることがあります。

20：ISO 感度のステップ幅の変更（P.162 ページ）

撮像感度の切り換え段数を 1/2 段または 1 段ごとに変更できます。

1/2 段

200—280—400—570—800—1150—1600

1 段

200—400—800—1600

撮像感度の切り換え段数を変更すると、現在設定されている撮像感度は、同じ撮像感度になる場合はそのままの値を維持しますが、同じ値でない場合は、設定されている感度値よりも高くて最も近い値に変更されます。

31：増感モード（P.170）

カスタムセッティング31 では撮像感度を1600に対してさらに約１段、または約２段増感できます。増感を行った状態では、撮像感度の表示の代わりに HI-1（1600 に対して約 1 段増感）または HI-2（1600 に対して約２段増感）が表示されます。

1600 に対して約 1 段増感

1600 に対して約 2 段増感

35：背面表示の変更（P.173）

カスタムセッティング 35 で、背面表示パネルの表示を残コマ表示に設定している場合、感度ボタン**ISO**を押すと、設定されている撮像感度が背面表示パネルに表示されます。ISO表示にしている場合は、半押しタイマーが作動している最中は常時感度が表示されます。

ホワイトバランス

人間の目には、照明する光が変化しても、白い被写体は白に見えるという順応性があります。これに対してデジタルカメラでは、照明光の色に合わせてバランス調整を行うことにより、白い被写体が白に見えるようになります。この調整を、ホワイトバランスを合わせるといいます。

操作方法

ホワイトバランスボタン WB を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスを背面表示パネルに点灯させます。

ホワイトバランスは次のように切り替わります。

A ― 電球 ― 蛍光灯 ― 晴天 ― スピードライト ― 曇天 ― 晴天日陰 ― PRE

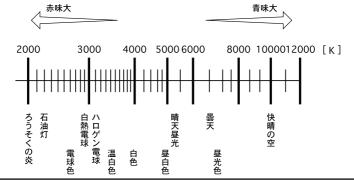
モード	内容
A（オートモード）	1005画素CCDセンサーで色温度を測り、カメラが自動的に調節します（約4200Kから7000Kまで対応します）。
（電球モード）	白熱電球下での撮影に適しています。色温度は約3000Kに固定されます。
（蛍光灯モード）	白色蛍光灯下での撮影に適しています。色温度は約4200K（白色蛍光灯）に固定されます。
（晴天モード）	晴れの日の順光での撮影に適しています。色温度は約5200K（自然光）に固定されます。
（スピードライトモード）	ニコン製のスピードライト撮影に適しています。色温度は約5400Kに固定されます。※

※ 他社製スピードライトを使用する場合、「ホワイトバランスの微調整」を参考に調節してください（P.64）。

モード（つづき）	内容（つづき）
（曇天モード）	曇りの日の撮影に適しています。色温度は約6000K（自然光）に固定されます。
（晴天日陰モード）	晴れの日の日陰での撮影に適しています。色温度は約8000K（自然光）に固定されます。
PRE（プリセットモード）	撮影者が被写体を基準にホワイトバランスを合わせることができます。3つまで設定が可能です（操作方法 P.65）。

- ほとんどの場合は**A**(オートモード)で撮影できますが、**A**では対応できない場合や、特定の照明光に固定したい場合は、適応するホワイトバランスを表から選択してセットします。また、次ページ以降の「ホワイトバランスの微調整」(プリセットモード時を除く）や、撮影者自身がホワイトバランスをセットする「プリセットホワイトバランス」も使用可能です。
- **A**(オートモード) の時、シャッターボタンの半押し操作をせずに直接撮影した場合には、1コマ目のホワイトバランスが正確に合わない場合があります。
- このカメラは、ホワイトバランスの設定にTTL方式を採用しています。オートモード時、プリセットモード時にカメラと被写体とが異なる照明下にある場合でも、被写体に対する正確なホワイトバランスが設定できます。

色温度について

光の色には、赤味を帯びたものや青味を帯びたものがあり、人間の主観で光の色を表すと、見る人によって微妙に異なってしまいます。そこで、光の色を絶対温度（K：ケルビン）という客観的な数字で表したのが色温度です。下図のように色温度が低くなるほど赤味を帯びた光色になり、色温度が高くなるほど青味を帯びた光色になります。

ホワイトバランスの微調整

P.62～63の操作でホワイトバランスを**PRE**(プリセットモード）以外にセットし、さらにホワイトバランスボタン WB を押しながら、サブコマンドダイヤルで微調整（1段ステップ±3段）を行います。調整範囲は1段ステップで±3段です。

「－」方向に微調整を行った場合は画像が赤味がかり、「＋」方向に微調整を行った場合は画像が青味がかります。微調整が行われたときは、背面表示パネルに ◀▶ が点灯します。

メニュー画面による操作方法

ホワイトバランスはメニューで設定することもできます。撮影メニュー（ P.16）から「ホワイトバランス」を選択して、マルチセレクターの ▶を1回押すと、ホワイトバランス設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して、設定するホワイトバランスを選択します。内容はボタン操作の場合と同じです。「プリセット」選択時の操作方法はP.65以降をご覧ください。

マルチセレクターの ▶を1回押すと、微調整画面が表示されます。
マルチセレクターの▲/▼を押して数値を調整してください。もう一度マルチセレクターの ▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

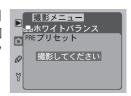
プリセットホワイトバランスのセット

プリセットホワイトバランスは、カクテル照明や特殊照明下で、撮影者の好みに合わせてホワイトバランスをセットするときに使います。

プリセットホワイトバランス設定方法

1 撮影メニュー（P.16）から「ホワイトバランス」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、ホワイトバランス設定画面が表示されます。

2 マルチセレクターの▲/▼を押して、「プリセット」を選択します。マルチセレクターの▶を1回押すと、プリセット選択画面が表示されます。

3 マルチセレクターの▲/▼を押して、「設定」を選択します。マルチセレクターの▶を1回押すと、「撮影してください」と液晶モニタに表示されます。

4 この状態で、撮影する照明下でファインダーいっぱいに白またはグレー（無彩色）の被写体をとらえてシャッターボタンを押すと、その被写体をもとにホワイトバランスがセットされ、カメラに記憶されます。

- フォーカスモードは **M**（マニュアルフォーカス）にセットして手動でピントを合わせてください。シングルAFサーボ（AF-S）では白またはグレーの被写体にピントを合わせることができず、シャッターがきれないことがあります。
- プリセットホワイトバランスをセットするときは、露出モードをプログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オートのいずれかにセットします。露出モードが**M**の場合もセット可能ですが、露出レベルが極端にアンダーまたはオーバーの状態では、最適なプリセットホワイトバランスがセットできないことがあります。
- スタジオ用ストロボにてプリセットホワイトバランスをセットする場合は、被写体をグレー（18%標準反射板）にすることをおすすめします。また、白い被写体でセットする場合は、白い被写体を撮影した結果がグレーになるような露出値をカメラ側で設定してください。
- シャッターボタンを押してホワイトバランスをセットしても、コンパクトフラッシュカードへの画像の記録は行われません。

5 液晶モニタに保存先選択画面が表示されます。マルチセレクターの▶を 1 回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

マルチセレクターの▲/▼を押して、データの保存先を選択します。「DATA-1 ～3」を選択すると、その場所に保存されます。同じ場所に以前保存したデータがある場合は、上書きされます。もう一度撮影する場合は「再レリーズ」を、保存せずに終了する場合は「キャンセル」を選択します。

プリセットホワイトバランスの呼び出し方法

WBボタン操作による設定

ホワイトバランスをプリセットモードに設定します（P.62）。次にホワイトバランスボタン WB を押しながら、サブコマンドダイヤルを回して希望するホワイトバランスを背面表示パネルに点灯させます。

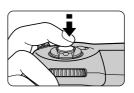
表示は d-1 、d-2 、d-3 と切り替わります。d-1 はDATA-1、d-2 はDATA-2、d-3 はDATA-3に相当します。

メニュー画面による設定

メニュー画面操作で「プリセット」を選択した場合は、マルチセレクターの▶を1回押すと、プリセット選択画面が表示されます。マルチセレクターの▲/▼を押して、使用するデータを選択します。

選択してからマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

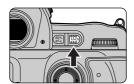
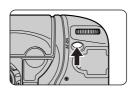
フォーカスモードセレクトダイヤルについて

フォーカスモードセレクトダイヤルを**S**（シングルAFサーボ）、または**C**（コンティニュアスAFサーボ）にセットしてシャッターボタンの半押しを続けると、フォーカスエリア内（P.72）の被写体に自動的にピントを合わせます。

フォーカスモード	内容
S シングルAFサーボ（AF-S・フォーカス優先モード）	ファインダー内の合焦表示●が点灯しているときだけシャッターがきれるフォーカス優先モードです。合焦表示●が点灯した状態でシャッターボタンの半押しを続けると、ピントはそこで固定（フォーカスロック）されます。ただし、被写体が初めから動いている場合には予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続け、ピントが合っているとカメラが判断するとシャッターがきれます。被写体が静止した場合は合焦表示●が点灯して、ピントはそこでロックされます。
C コンティニュアスAFサーボ（AF-C・レリーズ優先モード）	ファインダー内の合焦表示●の点灯、消灯にかかわらず、いつでもシャッターをきることができるレリーズ優先のモードです。いったん合焦表示●が点灯してもフォーカスロックは行われず、シャッターをきるまでピント合わせの動作を続けます。また、シャッターボタンの半押しを続けると、被写体が動いている場合には予測駆動フォーカスに切り換わり、被写体の動きに応じてピントを追い続けます。

関連項目

P.77　マニュアルフォーカス

AF作動ボタンについて

AF作動ボタン [AF-ON] を押し続けるか、縦位置シャッターボタンロックレバーを解除して縦位置AF作動ボタンを押し続けると、シャッターボタンの半押しを続けたときと同様にカメラが自動的に被写体にピントを合わせます。

CSM 4：シャッターボタン半押しによるAFレンズ駆動（P.152）

シャッターボタンの半押しではなく、AF作動ボタン [AF-ON]、または縦位置AF作動ボタンの操作でのみオートフォーカスが作動するように変更できます。

AFエリアモード

オートフォーカスでAFエリアモードを切り換えると、選択したフォーカスエリアだけでピントを合わせるシングルエリアAFモード、または5つのフォーカスフレームすべてを活用してピントを合わせるダイナミックAFモードのいずれかを選ぶことができます。

メニュー画面による操作方法

撮影メニュー（P.16）から「AFエリア」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、AFエリア設定画面が表示されます。

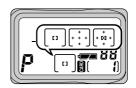
マルチセレクターの▲/▼を押してAFエリアモードを選択します。

表示	項目	内容
[･:･]	ダイナミックAFモード	複数のフォーカスフレームを使用してピントを合わせます。撮影者が選択した1つのフォーカスエリアからピントを合わせたい被写体が一時的に外れた場合でも、他のフォーカスフレームからのピント情報を利用してピントを合わせることができます（ファインダー内のフォーカスエリア表示は変化しません）。このモードは、動いている被写体（特に不規則な動きをする被写体）を追い続けるときなど、被写体をフォーカスエリアに正確に捉え続けることが困難な場合に便利です。さらに、ダイナミックAFモードでは次ページの「至近優先ダイナミックAF」も使用できます。
[ ]	シングルエリアAFモード	5つのフォーカスフレームから、撮影者が選択した1つのフォーカスエリアだけでピントを合わせるモードです。このモードは、動きの少ない被写体に対して選択したフォーカスエリア単独で正確にピントを合わせたい場合などに便利です。

選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

上面表示パネルには、設定したAFエリアモードが表示されます。

FUNCボタン操作による設定

- ファンクションボタン FUNC にAFエリアモード設定機能を割り当てると、ボタン操作で AF エリアモードを変更できます。撮影メニュー画面の「ボタン設定」を「AF エリア」に設定します（P.107）。
- AFエリアモード設定機能を割り当てた後、ファンクションボタン FUNC を押しながらメインコマンドダイヤルを回すと、上面表示パネルのAFエリアモード表示が切り替わります。希望する AF エリアモード表示を点灯させます。

至近優先ダイナミック AF について

- AF エリアモードがダイナミック AF モードの場合に使用できる機能です。5 つのフォーカスフレームのうち、最も手前にある被写体に重なっているフォーカスフレームを自動的に使用してピントを合わせる方法です。5 つのフォーカスフレームのいずれかに必ずピントが合いますので、ピントの外れた写真を避けることができます。
- 至近優先ダイナミック AF のときは、上面表示パネル、ファインダー内ともにフォーカスエリアは表示されません。
- 望遠レンズ使用時および被写体の輝度が低い場合は、至近のフォーカスエリアが選択されない場合があります。その際にはシングルエリアAFモードのご使用をおすすめします。

CSM 9：至近優先ダイナミック AF（AF-S）（P.155）

シングル AF サーボ（AF-S）での至近優先ダイナミック AF を OFF にできます。初期設定は ON です。

CSM 10：至近優先ダイナミック AF（AF-C）（P.155）

コンティニュアス AF サーボ（AF-C）での至近優先ダイナミック AF を ON にできます。初期設定は OFF です。

フォーカスエリア

このカメラには、撮影画面内の広い範囲をカバーする5つのフォーカスフレームがあります。被写体の位置や構図に合わせてフォーカスエリアの位置を選択できますので、被写体の状況によっては撮影したい構図のままピント合わせが行え、フォーカスロックの手間を省くことができます。

操作方法

マルチセレクターロックを回転させてロックを解除すると、マルチセレクターがフォーカスエリアセレクターとして機能します。シャッターボタンを半押ししたまま、マルチセレクターの ▲/▼/◀/▶ を押してフォーカスエリアを選択します。

選択したフォーカスエリアはファインダー内で赤色に一瞬点灯します。

- フォーカスエリアを選択した後、マルチセレクターロックレバーを回転させてロックすると、使用するフォーカスエリアを固定することができます。
- ファインダースクリーンを他のタイプに交換しても、フォーカスエリアは選択できます。
- 液晶モニタの画像表示中は操作できません。

至近優先ダイナミックAFのときは、フォーカスエリアは選択できません（自動で選択されます）。この場合、上面表示パネル、ファインダー内ともにフォーカスエリアは表示されません。詳しくは下の表をご覧ください。

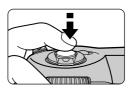
フォーカスモード	フォーカスエリアの選択	AFエリアモード	至近優先ダイナミックAF	上面表示パネル	フォーカスフレームの点灯/消灯
AF-S	手動	シングルエリアAF	―		点灯
	自動	ダイナミックAF	する（初期値）		消灯
	手動	ダイナミックAF	しない カスタムセッティング9で解除		点灯
AF-C	手動	シングルエリアAF	―		点灯
	手動	ダイナミックAF	しない（初期値）		点灯
	自動	ダイナミックAF	する カスタムセッティング10で設定		消灯

CSM 6：フォーカスエリアの選択を循環方式に変更（P.153）

マルチセレクターの▲/▼/◀/▶を押すと、それぞれ▲/▼/◀/▶方向にフォーカスエリアを連続的に循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく、反対側のフォーカスエリアを選択できます。

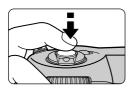
フォーカスロック撮影

オートフォーカスで主要被写体（ピントを合わせたい人物や物など）が5つのフォーカスフレームのいずれからも外れる構図の場合に使用します。さらに、オートフォーカスが苦手な被写体（P.76）にも有効です。操作手順はシングルAFサーボ（AF-S）とコンティニュアスAFサーボ（AF-C）で異なります。

1 ピントを合わせたい被写体にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しします。

- ピントが合うと合焦表示●が点灯します。

2 合焦表示●が点灯したら、フォーカスロックを行います。

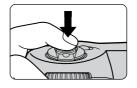
シングルAFサーボ（AF-S）の場合

シャッターボタンを半押ししたままにすると、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してフォーカスロックを行うこともできます。コンティニュアスAFサーボ（AF-C）の場合をご覧ください（P.75）。

コンティニュアス AF サーボ（AF-C）の場合

シャッターボタンを半押ししたまま、AE/AF ロックボタン を押すと、ピントがそのまま固定（フォーカスロック）されます。

シャッターボタンから指を離しても、AE/AFロックボタン を押している間はフォーカスがロックされます。また、AEロック（P.90）も同時に行われます。

3 フォーカスロックを行ったまま、構図を決めて撮影します。

- フォーカスロック後は、主要被写体との撮影距離を変えないでください。
- シャッターボタンの半押しでフォーカスロックした場合は、シャッターをきった後も指をはなさずに再度シャッターボタンを押し込めば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。AE/AFロックボタン でフォーカスロックした場合は、AE/AFロックボタン を押したまま再度シャッターボタンを押せば、ピントを固定したまま繰り返し撮影できます。
- ピントが固定された後に被写体が動いた（撮影距離が変化した）場合は、いったんシャッターボタンや AE/AF ロックボタン から指を離し、フォーカスロックを解除してからピントを合わせ直してください。

CSM 21：AE/AF ロックボタン操作の変更（P.162）

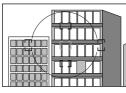
AE/AF ロックボタン を押したときに、AF ロックだけ行われるように変更できます。

オートフォーカスの苦手な被写体について

次のような被写体では、オートフォーカスによるピント合わせができないことがあります。このような場合は、**M**（マニュアルフォーカス P. 77）に切り換えてマニュアルでピントを合わせるか、以下のようにしてピントを合わせてください。

被写体が非常に暗い場合
アクティブ補助光を備えたスピードライトSB-28DX、SB-50DXなどを使用して中央のフォーカスフレームをフォーカスエリアとして選択すると、オートフォーカスによるピント合わせが可能です。

明暗差がはっきりしない場合（白壁や背景と同色の服をきている人物等）
おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（ P.74）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。

フォーカスフレーム内に遠いものと近いものが混在する被写体（オリの中の動物や木の前の人物等）
おおよそ同じ距離の被写体にピントを合わせてフォーカスロック（ P. 74）を行い、そのまま構図を元に戻して撮影します。

連続した繰り返しパターンの被写体（ビルの窓等）

フォーカスフレーム内の被写体の輝度差が著しく異なる場合（太陽が背景に入った日陰の人物等）

マニュアルフォーカスによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**にセットすると、マニュアルフォーカス（手動）でピント合わせが行えます。

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）指標に合わせて確実にセットします。ピントはレンズの距離リングを回して、ファインダースクリーンのマット面の像がはっきり見えるように合わせます。合焦表示●の点灯・消灯にかかわらず、シャッターをきることができます。オートフォーカスが苦手な被写体（P.76）を撮影するときや、AFニッコール以外のレンズ（P.188）装着時にご使用ください。

フォーカスエイドによるピント合わせ

フォーカスモードセレクトダイヤルを**M**（マニュアル）にセットしたとき、開放絞りがf/5.6以上の明るいレンズを装着すると、ファインダー内の合焦表示●により合焦状態を確認できる「フォーカスエイドによるピント合わせ」が行えます。

シャッターボタンを半押しして、半押しタイマーが作動中にレンズの距離リングを回して合焦表示●を点灯させます。シャッターは、いつでもきることができます。また、いずれのフォーカスエリアを選択してもフォーカスエイドが行えます（P.72）。

ファインダー内に▶表示が点灯しているときは、ピントを合わせたい被写体よりも手前に、◀表示が点灯しているときは後方にピントが合っています。いずれの場合も、レンズの距離リングを回して合焦表示●を点灯させてください。

	関連項目
P.72	フォーカスエリア

測光モード

測光モードセレクトダイヤルを切り換えることにより、3つの測光モードから被写体の光の状況に最適な測光モードを選ぶことができます。

＊装着レンズによっては使用できない測光モードがあります（P.188）。

操作方法

測光モードセレクトダイヤルロックボタンを押しながら、測光モードセレクトダイヤルをセットします。

次の測光モードを選ぶことができます

測光モード	内容
3D-RGB マルチパターン測光・RGB マルチパターン測光	このカメラは3D-RGBマルチパターン測光を採用しています。この測光方式は、測光画素数 1,005（縦 67 ×横 15）のCCD センサーから得られる画面全域のさまざまな情報を分類して露出を決定します。特に、明るい色（白や黄色）の被写体や、暗い色（黒や濃い緑色）の被写体が、画面全体を大きく占めているような場合は威力を発揮し、目で見た感じにより近く再現します。ただし、G またはDタイプ以外のCPUレンズ装着時は、レンズからの距離情報を用いないRGB マルチパターン測光となります。AEロック（ P.90）や露出補正（ P.92）を行うときは、中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。
中央部重点測光	中央部重点測光はファインダー中央部（φ 8mm の円内）を重点的に測光して露出値を決定しますので、ファインダー内のφ 12mm の円を参考に測光範囲を決定してください。
スポット測光	フォーカスエリアに重なるφ 3mm 相当（全画面の約 2%）を部分的に測光して露出値を決定します。逆光時やコントラストの差が激しいときなど、フォーカスエリア相当の狭い範囲での露出を基準に撮影したい場合に適しています。測光エリアは、選択されているフォーカスエリアに連動するため、撮影したい構図のまま、マルチセレクター（ P.71）を操作して測光エリアを変えることができます。 ただし、至近優先ダイナミックAFモード時（ P.71）や非CPUレンズ（ P.188）を装着している場合は、フォーカスエリアの連動は行われず、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分を測光します。

CSM 14：中央部重点測光範囲の変更（ P.158）

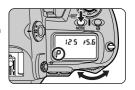
中央部重点測光時の測光範囲をφ 6mm、φ 10mm、φ 13mm、または画面全体の平均のいずれかに変更できます。

各露出モードによる撮影

D1Hには、プログラムオート、シャッター優先オート、絞り優先オート、マニュアルの４つの露出モードがあります。

P プログラムオート

プログラムオート時は、プログラム線図（P.81）にしたがって、シャッタースピードと絞りが自動的に制御され、適正露出が得られます。プログラムオートは、スナップ撮影など迅速な対応が必要な撮影に適しています。プログラムシフト、オートブラケティング（P.93）、露出補正（P.92）などを併用すると、より高度な撮影が楽しめます。プログラムオートは CPU レンズ装着時のみ使用できます。

1 露出モードボタン **MODE** を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをPにセットします。

- レンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞りにセットされていない場合、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- 非CPUレンズを装着すると、露出モードを自動的に A（絞り優先オート）に切り換えて制御します。この場合、露出モード表示は、上面表示パネルに P が点滅し、ファインダー内表示に A が点灯します。この場合、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F- - が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

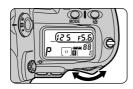
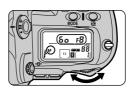
2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

露出警告表示について

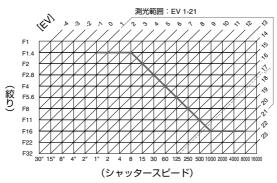
次の警告がファインダー内表示や上面表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています。

HI	ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
Lo	スピードライトを使用してください。

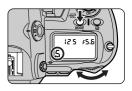
プログラムシフトについて

プログラムオートで撮影中にメインコマンドダイヤルを回すと、露出を一定にしたままシャッタースピードと絞りの組み合わせを変えることができます。この機能により、プログラムオートにセットしたままシャッター優先オートや、絞り優先オートのような使い方ができます。プログラムシフト中は上面表示パネルにプログラムシフトマーク * が点灯します。解除する場合は、プログラムシフトマーク * が消灯するまでメインコマンドダイヤルを回す、他の露出モードに切り換える、電源スイッチをOFFにする、ツーボタンリセット（P.174）のいずれかを行います。

プログラム線図について

プログラム線図はプログラムオート撮影時の露出制御をグラフにしたものです。

ISO200、開放絞り f/1.4・最小絞り f/16 のレンズ
（例：AF50mm f/1.4D）の場合

撮像感度に応じた測光範囲により、EV値の両端に制限があります。マルチパターン測光では、ISO200の場合 $17\frac{1}{3}$ を超えるEV値では、すべて $17\frac{1}{3}$ として制御されます。

S　シャッター優先オート

撮影者がシャッタースピード（30 秒～ 1/16000 秒）をセットすると、カメラが絞りを自動的に決定します。スポーツシーンの撮影など被写体の動きを速いシャッタースピードで写し止める、または遅いシャッタースピードで強調するなど、シャッタースピードを重視した撮影に最適です。シャッター優先オートはCPUレンズ装着時のみ選択できます。

1 露出モードボタン **MODE** を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードをSにセットします。

- レンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞りにセットされていない場合、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- 非CPUレンズを装着すると、露出モードが自動的にA（絞り優先オート）に切り換わります。この場合、露出モード表示は、上面表示パネルにS が点滅し、ファインダー内表示に A が点灯します。この場合、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングで行ってください。

2 メインコマンドダイヤルでシャッタースピード（30秒～1/16000秒）をセットします。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

長時間露出の画像について

シャッタースピードを 長秒時（約1秒以上）にセットして撮影した場合は、多少ザラついた画像となります。

露出警告表示について

次の警告がファインダー内表示または上面表示パネルに点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を超えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。

Hi	シャッタースピードをより高速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
Lo	シャッタースピードをより低速側にセットし、それでも警告表示が消えない場合は、スピードライトを使用してください。

シャッタースピードのロック

セットしたシャッタースピードはロックできます（P.88）。

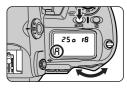
2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2 段または 1 段に変更できます。

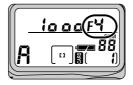
12：コマンドダイヤルの変更（P.156）

サブコマンドダイヤルでシャッタースピードをセットできます。

A　絞り優先オート

撮影者が絞り（最小絞り～開放絞り）をセットすると、カメラがシャッタースピードを自動的に決定します。手前から奥まで鮮明に写す、背景をボカすなど、被写界深度（ピントの合う前後の範囲）を優先した撮影に最適です。スピードライト撮影時には、絞りを変えることにより調光範囲も変更できます（P.105）。

1 露出モードボタン **MODE** を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを A にセットします。

- レンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞りにセットされていないと、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- 非CPUレンズを装着すると、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングで行ってください。

2 サブコマンドダイヤルで絞り（最小絞り～開放絞り）をセットします。

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

露出警告表示について

次の警告が上面表示パネルやファインダー内表示に点灯した場合、被写体が明るすぎたり暗すぎたりして、カメラの制御範囲を越えています（同時にオーバー、アンダーの量を示す露出インジケーターが点灯します）。

Hi	より大きい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない場合は、ND（光量調節用）フィルターを使用してください。
Lo	より小さい数値の絞りにし、それでも警告表示が消えない場合は、スピードライトを使用してください。

絞りのロック

セットした絞りはロックできます（P.88）。

2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2 段または 1 段に変更できます。

12：コマンドダイヤルの変更（P.156）

メインコマンドダイヤルで絞りをセットできます。

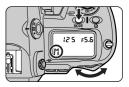
22：レンズの絞りリングによる絞りセット（P.163）

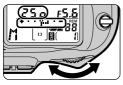
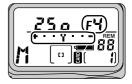
レンズの絞りリングだけで絞りをセットできます。

ただし、絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）を装着している場合は、カスタムセッティング 22 の設定に関わらず、コマンドダイヤルで絞りをセットします。

M マニュアル

シャッタースピード（bulb および 30 秒～ 1/16000 秒）と絞り（最小絞り～開放絞り）を、撮影者が自由にセットできるので、ファインダー内の露出インジケーターを見ながら、撮影状況や目的に合わせた露出決定ができます。長時間露出（バルブ）もこのモードでセットします。

1 露出モードボタン **MODE** を押しながら、メインコマンドダイヤルで露出モードを M にセットして、構図を決めます。

- レンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングが最小絞りにセットされていないと、上面表示パネルとファインダー内表示に FEE が点滅し、シャッターがきれません。
- 非CPUレンズを装着すると、上面表示パネルとファインダー内表示の絞り表示には F-- が点灯しますので、絞りのセットと確認はレンズ（G タイプレンズを除く）の絞りリングで行ってください。

2 露出インジケーターを確認しながら、シャッタースピードと絞りをセットします。

- シャッタースピード（bulb および 30 秒～ 1/16000 秒）はメインコマンドダイヤルでセットし、絞り（最小絞り～開放絞り）はサブコマンドダイヤルでセットします（どちらが先でもかまいません）。
- シャッタースピードを bulb にセットしてシャッターボタンを押し続けると、シャッターが開いたままとなる長時間露出（バルブ）撮影となります（P.87）。

露出インジケーターの見方は以下のとおりです（例：上面表示パネル）。光量がカメラの測光範囲を超えると、露出インジケーターが点滅して警告します。

露出値のステップが 1/3 段の場合	露出値のステップが 1/2 段の場合	露出値のステップが 1 段の場合
適正露出の状態	適正露出の状態	適正露出の状態
2/3 段アンダーの状態	1/2 段アンダーの状態	1 段アンダーの状態
2 段以上オーバーの状態	3 段以上オーバーの状態	3 段以上オーバーの状態

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

長時間露出の画像について

シャッタースピードを長秒時（約 1 秒以上）や bulb にセットして撮影した場合は、多少ザラついた画像となります。

AF マイクロレンズ装着時の露出倍数について

AFマイクロレンズをカメラに装着して、外部露出計の測光値を参考に絞りをサブコマンドダイヤルでセットする場合、露出倍数を考慮する必要はありません。レンズの絞りリングでセットする場合だけ、露出倍数を考慮した補正が必要となります。

シャッタースピードと絞りのロック

セットしたシャッタースピードと絞りはロックできます（P.88）。

2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

セットするシャッタースピードと絞りのステップを 1/2 段または 1 段に変更できます。

12：コマンドダイヤルの変更（P.156）

シャッタースピードをサブコマンドダイヤルで、絞りをメインコマンドダイヤルでセットできるように変更できます。

22：レンズの絞りリングによる絞りセット（P.163）

レンズ（Gタイプレンズを除く）の絞りリングだけで絞りをセットできるように変更できます。

シャッタースピードと絞りのロック

シャッター優先オートSではシャッタースピードを、絞り優先オートAでは絞りを、マニュアルM ではシャッタースピードと絞りのロックができます（プログラムオートPでは使用できません）。

この機能をボタンとダイヤル操作で使用するには、ファンクションボタン FUNC にロック機能を割り当てる必要があります。ファンクションボタン FUNC にロック機能を割り当てるには、撮影メニューの「FUNCボタン設定」を「L」に設定します（P.107）。

ボタン操作による設定

シャッタースピードのロック

ファンクションボタン FUNC を押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルとファインダー内表示にシャッタースピードロックマーク LOCK および L を表示させます。解除する場合は、ファンクションボタン FUNC を押しながらメインコマンドダイヤルでシャッタースピードロックマーク LOCK および L を消します。

絞りのロック

ファンクションボタン FUNC を押しながら、サブコマンドダイヤルで上面表示パネルとファインダー内表示に絞りロックマーク LOCK および L を表示させます。解除する場合は、ファンクションボタン FUNC を押しながらサブコマンドダイヤルで絞りロックマーク LOCK および L を消します。

メニュー画面による設定

撮影メニュー画面（ P.16）から「コマンドロック」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、コマンドロック設定画面が表示されます。

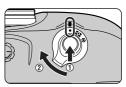
再生セレクターの ▲/▼ を押して、ロックする項目を選択します。

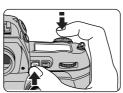
項目	内容
OFF	現在設定されているロックを解除します。
シャッタースピード	シャッタースピードのみをロックします。絞り優先オートA、プログラムオートPでは選択できません。
絞り値	絞りのみをロックします。シャッター優先オートS、プログラムオートPでは選択できません。
シャッター&絞り	シャッタースピードと絞りの両方をロックします。マニュアル M でのみ選択できます。

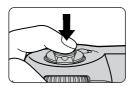
選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

AEロック撮影

AEロック撮影は、撮影画面内の露出を合わせたい部分をスポット測光などにより測光し、AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押してその露出をカメラに記憶させ、そのまま構図を変えて撮影する方法です。露出モードはM（マニュアル）以外にセットしてください。

1 測光モードをスポット測光または中央部重点測光にセットします。

十分なAEロックの効果が期待できないため、マルチパターン測光はおすすめできません。

2 露出を合わせたい部分にフォーカスエリアを重ね、シャッターボタンを半押しして合焦表示●の点灯を確認し、そのままAE/AFロックボタン AE-L AF-L を押します。

- AE/AF ロックボタン AE-L AF-L を押すと、測光モードに応じた部分の露出が記憶（ロック）され、構図を変えても露出は変わりません（ファインダー内にAEロック表示 EL が点灯します）。
- スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動する条件の場合は（P.79）、選択してあるフォーカスエリアを重ねた部分の露出が記憶されます。スポット測光で、測光エリアとフォーカスエリアが連動しない場合（P.79）は、画面中央のフォーカスフレームに相当する部分の露出が記憶されます。中央部重点測光時は、中央部円内のφ 8mm 相当の露出が記憶されます。
- フォーカスモードがシングル AF サーボ（AF-S）または コンティニュアス AF サーボ（AF-C）の場合、フォーカスロック（P.74）も同時に行われますので、合焦表示●の点灯も確認してください。

3 AE/AF ボタンを押したまま、構図を決めて撮影します。

AE/AF ロックボタン AE-L AF-L を押している間も次の操作が可能です。

- 露出モードがP（プログラムオート）の場合は、プログラムシフト（P.81）ができます。
- 露出モードがS（シャッター優先オート）の場合は、シャッタースピードを変更できます。
- 露出モードがA（絞り優先オート）の場合は、絞りを変更できます。

いずれも、変更した後の露出表示はそれぞれ制御されるシャッタースピードと絞りが表示されます。AEロック中は、測光モードセレクトダイヤルを切り換えても測光モードは変わりません（AE ロックを解除すれば変わります）。

CSM 7：シャッターボタン半押しによる AE ロック（P.154）

シャッターボタンの半押しで AE ロックが行えるように変更できます。

CSM 14：中央部重点測光範囲の変更（P.158）

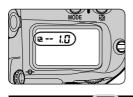
中央部重点測光時の測光範囲をφ 6mm、φ 10mm、φ 13mm、または画面全体の平均のいずれかに変更できます。

CSM 21：AE/AF ロックボタン操作の変更（P.162）

AE/AFロックボタン AE-L AF-L を押した場合に、AEロックだけ行われるように変更できます。また、AE/AF ロックボタン AE-L AF-L を押すと、指を放しても AE ロックの状態が保持され、再度 AE/AF ロックボタン AE-L AF-L を押すか、シャッターをきると解除されるように変更できます。

露出補正

露出補正とは、カメラが表示する適正露出値を意図的に変えることです。たとえば、被写体にコントラストの強いものがあるために段階的に露出をずらして撮影するような場合に使用します。測光モードは中央部重点測光またはスポット測光をおすすめします。

1 露出補正ボタン を押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量（1/3 段ステップで± 5 段）をセットします。

露出補正インジケーターの表示例

－ 0.3 段補正

+2 段補正

補正量をセットすると、上面表示パネルとファインダー内表示に露出補正マーク が表示されます。補正量の確認は露出補正ボタンを押すだけで行えます。露出インジケーターが露出補正インジケーターとして表示されます。その際、露出インジケーターの 0 は点滅します。補正の目安としては、被写体（たとえば人物など）に対して、背景が明るい場合は＋側に、背景が暗い場合は－側に補正するのが基本です。

2 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

露出補正を解除する場合は、露出補正ボタンを押しながら、メインコマンドダイヤルで補正量を0.0 にセットするか、ツーボタンリセット（P.174）を行ってください（電源スイッチを OFF にしても解除されません）。

CSM 2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

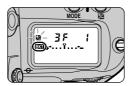
露出補正量のステップを 1/2 段または 1 段に変更できます。

CSM 13：露出補正簡易設定（P.157）

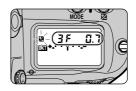
コマンドダイヤルの操作だけで、露出補正が行えます。

オートブラケティング（自動段階露出）

オートブラケティングをセットすると、シャッターをきるたびにカメラが表示する適正露出値（露出モードがマニュアルの場合は撮影者がセットした露出値）に対して、セットした撮影枚数（最大３枚）と補正ステップで自動的に露出をずらして（露出補正なしで最大±２段）撮影できます。いずれの露出モードでもセットが可能です。

1 オートブラケティングボタン **BKT** を押しながら、メインコマンドダイヤルでブラケティングマーク BKT を表示させます。

露出モード	内容
P（プログラムオート）	シャッタースピードと絞りが変化します。
S（シャッター優先オート）	絞りが変化します。
A（絞り優先オート）	シャッタースピードが変化します。
M（マニュアル）	

- いずれの露出モードでも、スピードライト使用時は、スピードライトで照らされた主要被写体の TTL 調光レベル（SB ブラケティング）と、定常光で照らされている背景の露出（AE ブラケティング）の両方が補正されます。

2 オートブラケティングボタン **BKT** を押しながら、サブコマンドダイヤルで撮影枚数と補正ステップをセットします。

撮影枚数と補正ステップの組み合わせは、次ページをご覧ください。

オートブラケティング（自動段階露出）－つづき－

オートブラケティングボタン**BKT**を押しながらサブコマンドダイヤルを回すたびに、表示は次のように変化します（カスタムセッティング２で補正ステップをそれぞれ 1/3 段、1/2 段、1 段に変更した場合）。

補正ステップを 1/3 段に設定した場合

撮影枚数と補正ステップ	露出表示	撮影順序
–2F1.0	+ . . . I . . . ▸–	0 / –1.0
–2F0.7	+ · · I · ·▸–	0 / –0.7
–2F0.3	+ · · I · ·▸–	0 / –0.3
+2F1.0	+◂. . . I . . . –	0 / +1.0
+2F0.7	+◂· · I · · –	0 / +0.7
+2F0.3	+◂· · I · · –	0 / +0.3
–3F1.0	+ . . . I . ! .▸–	–1.0/ –2.0 /0
–3F0.7	+ · · I ⁞ ·▸–	–0.7/ –1.3 /0
–3F0.3	+ · · I ⁞ ·▸–	–0.3/ –0.7 /0
+3F1.0	+◂. ! . I . . . –	+1.0/ 0 /+2.0
+3F0.7	+◂· ⁞ I · · –	+0.7/ 0 /+1.3
+3F0.3	+◂· ⁞ I · · –	+0.3/ 0 /+0.7
3F1.0	+◂. . . I . . .▸–	0/ –1.0 /+1.0
3F0.7	+◂· · I · ·▸–	0/ –0.7 /+0.7
3F0.3	+◂· · I · ·▸–	0/ –0.3 /+0.3

補正ステップを 1/2 段に設定した場合

撮影枚数と補正ステップ	露出表示	撮影順序
–2F1.0	+ . . . I . . .▸–	0 / –1.0
–2F0.5	+ . . . I . . .▸–	0 / –0.5
+2F1.0	+◂. . . I . . . –	0 / +1.0
+2F0.5	+◂. . . I . . . –	0 / +0.5
–3F1.0	+ . . . I . ! .▸–	–1.0/ –2.0 /0
–3F0.5	+ . . . I . ! .▸–	–0.5/ –1.0 /0
+3F1.0	+◂. ! . I . . . –	+1.0/ 0 /+2.0
+3F0.5	+◂. ! . I . . . –	+0.5/ 0 /+1.0
3F1.0	+◂. . . I . . .▸–	0/ –1.0 /+1.0
3F0.5	+◂. . . I . . .▸–	0/ –0.5 /+0.5

補正ステップを 1 段に設定した場合

撮影枚数と補正ステップ	露出表示	撮影順序
–2F1.0	+ . . . I . . .▸–	0 / –1.0
+2F1.0	+◂. . . I . . . –	0 / +1.0
–3F1.0	+ . . . I . ! .▸–	–1.0/ –2.0 /0
+3F1.0	+◂. ! . I . . . –	+1.0/ 0 /+2.0
3F1.0	+◂. . . I . . .▸–	0/ –1.0 /+1.0

3 構図を決め、ピントを合わせて撮影します。

- 撮影中、シャッタースピードと絞りは補正された値が表示されます。
- 解除する場合は、オートブラケティングボタン **BKT** を押しながら、メインコマンドダイヤルで上面表示パネルのブラケティング表示 **BKT** を消灯させます。この場合でもセットした撮影枚数と補正ステップは保持されます。
- オートブラケティングと露出補正（P.92）が同時にセットしてある場合、両方の補正値が加算されたオートブラケティング撮影が行えます。±２段を超えるオートブラケティング撮影を行う場合に便利です。
- 動作モードを **C**（連続撮影）にセットして撮影している場合、シャッターボタンを押し続けると、セットした枚数が終了した時点でいったん自動的に停止します。
- 撮影中にコンパクトフラッシュカードのメモリー残量がなくなった場合、メモリー残量のある、他のコンパクトフラッシュカードに交換すれば残りを撮影できます。また、撮影中に電源スイッチをOFFにした場合も、再びONにすれば残りを撮影できます。
- セルフタイマー撮影時（P.96）には、セットした撮影枚数のオートブラケティング撮影が１枚ずつ行われます。

CSM ２：露出値のステップ幅の変更（P.151）

セットする補正ステップを 1/2 段または１段に変更できます。

CSM ３：オートブラケティング撮影時の補正順序の変更（P.152）

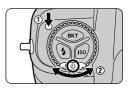
マイナス側からプラス側へ順番に撮影されるように変更できます。

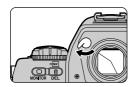
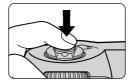
CSM １１：AE/SB ブラケティングの同時 / 単独セット（P.156）

通常は AE ブラケティングと SB ブラケティングが同時に行われますが、それぞれ AE ブラケティングのみ、SB ブラケティングのみに変更できます。

セルフタイマー

セルフタイマーによる撮影は記念写真など、撮影者自身もいっしょに写りたいときなどに便利です。三脚などを使用してカメラを固定してください。

1 動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルをセルフタイマー ⏲ にセットします。

- フォーカスモードがシングルAFサーボ（AF-S）でピントが合っていないときなど、カメラのシャッターがきれない状態ではセルフタイマーは作動しません。
- AF（オートフォーカス）でピントを合わせる場合は、セルフタイマーを作動させるときにレンズを体などで覆わないように注意してください。

2 構図を決め、ピントを合わせ、アイピースシャッターを閉じて、シャッターボタンを押します。

- 適正露出に影響を与える接眼部からの逆入光を防ぐため、M（マニュアル）以外の露出モードで撮影する場合は、アイピースシャッターを閉じてください。
- 作動を開始すると、セルフタイマー表示LEDが約8秒間点滅、約2秒間点灯して合計で約10秒後にシャッターがきれます。露出モードがM（マニュアル）で、シャッタースピードが bulb にセットされている場合は、シャッタースピードが約1/4秒でシャッターがきれます。
- 解除するときは、動作モードダイヤルをセルフタイマー ⏲ 以外にセットします。

CSM 16：セルフタイマーの作動時間の変更（P.159）

セルフタイマーの作動時間を2秒、5秒、20秒のいずれかに変更できます。

視度調節機能 / イルミネーター

視度調節機能

視度調節機能により、ファインダー内の像を見やすくできます。

操作方法

視度調節ノブを引き上げ、ファインダーをのぞきながらファインダー内のフォーカスフレームが最もシャープに見える位置まで回します。視度調節は−3〜＋1m^{-1}（近視〜遠視）の間で可能です。設定を終えたら、引き上げた視度調節ノブを必ず押し戻してください。

別売の接眼補助レンズは−3〜＋2m^{-1}の間で5種類が用意されています（P.194）。

イルミネーター

イルミネーターを点灯させると、暗い所で上面表示パネルと背面表示パネルの表示が確認しやすくなります。

- 電源スイッチをイルミネーターまで回すと、半押しタイマーが作動すると同時に上面表示パネルと背面表示パネルにブルーグリーンのイルミネーターが点灯します。
- 指を離すと電源スイッチは元の位置に戻りますが、半押しタイマーの作動中はイルミネーターが点灯し続けます。シャッターをきると消灯します。

視度調節ノブを回す際のご注意

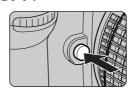
ファインダーをのぞきながら視度調節ノブを回す際、目に近い位置での操作となりますので、指先や爪で目を傷つけないように注意してください。

CSM 17：各ボタン操作によるイルミネーター点灯（P.159）

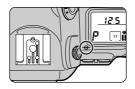
イルミネーターが、各ボタンの操作と同時に点灯するように変更できます。

プレビューボタン / 距離基準マーク

プレビューボタン

プレビューボタンを押すと、カメラのファインダーで被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

プレビューボタンを押し続けると、露出モードが P（プログラムオート）、S（シャッター優先オート）のときは制御される絞りまで、露出モードがA（絞り優先オート）、M（マニュアル）のときはセットしてある絞りまで、レンズの絞り羽根が絞り込まれます。この状態でファインダーをのぞくと、そのときの絞りのおおよその被写界深度（ピントの合う前後の範囲）が確認できます。

距離基準マーク

距離基準マークは、カメラ内の撮像面の位置を示します。

- 距離基準マークは撮影距離の基準となるマークで、カメラ内の撮像面の位置を示します。接写などでカメラから被写体までの距離を実測する場合、このマークが基準となります。
- レンズ取り付け面（レンズマウント）から撮像面までの寸法（フランジバック）は46.5mm です。

スピードライトの TTL モードで可能な撮影

スピードライト SB-80DX、SB-50DX、SB-28DX（すべて別売）をカメラに装着し、スピードライトを TTL にすると、モニター発光を行う専用 TTL モード（D-TTL モード）にセットされ、次の撮影が行えます。SB-80DX、SB-50DX、SB-28DX以外のスピードライトでは、D-TTL モードでの撮影はできません（P.103）。

D-3D- マルチ BL 調光撮影・D- マルチ BL 調光撮影

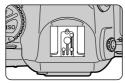
CPUレンズを装着した場合に可能になります。マルチパターンによる測光情報をもとに主要被写体と背景光のバランスを考慮したBL（バランス）調光を行います。シャッターボタンを押すと、スピードライトSB-80DX、SB-50DX、SB-28DXがシャッター開口直前にモニター発光を行い、画面内の各部から戻ってくる反射光をカメラ内のTTL自動調光用5分割センサーが瞬時にモニターして、主要被写体と背景光のバランスを考慮した最適な発光量を決定します。GまたはDタイプレンズを組み合わせた場合は、距離情報も加味された、より精度の高い D-3D- マルチ BL 調光になります。

簡易 D-TTL-BL 調光撮影

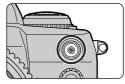
非CPUレンズを装着した場合に行われます。自動的に中央部重点測光に切り換わりますので、主要被写体と背景光のバランスがややおおまかになります。スポット測光時は自動的にスタンダード D-TTL 調光となります。

スタンダード D-TTL 調光撮影

レンズの種類に関係なく可能です。背景の明るさは考慮されず、主要被写体が適正露出となるように調光されます。主要被写体のみを強調する場合や、スピードライト撮影で露出補正を行う場合に適しています。測光モードをスポット測光に切り換えると、自動的にこのモードになります。

アクセサリーシュー / シンクロターミナル / レディライト

アクセサリーシュー

スピードライトSB-80DX・50DX・28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29S・29などを使用する場合、アクセサリーシューに差し込むだけでコードレスで接続できます。このアクセサリーシューはセーフティロック機構（ロック穴）を備えていますので、セーフティロックピン付きのスピードライト（SB-80DX・28DX・28・27・26・25・22S・29S・29など）を取り付けると、スピードライトが不用意に外れるのを防止できます。

シンクロターミナル

シンクロコードを必要とするスピードライト撮影時に、シンクロコードをシンクロコードターミナル（JIS-B型外れ防止ネジ付き）に接続してください。ただし、スピードライトSB-80DX・50DX・28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29S・29などをアクセサリーシューに装着した状態で後幕シンクロを行う場合には、シンクロターミナルに他のスピードライトを接続して増灯撮影などを行わないでください。

レディライト

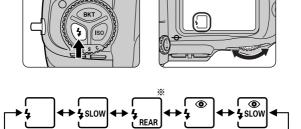
スピードライトSB-80DX・50DX・28DX・28・27・26・25・24・23・22S・29S・29などを使用している場合、充電が完了して撮影可能な状態になると、ファインダー内のレディライト ⚡ が点灯して知らせます。

スピードライトがD-TTLや外部自動調光モードにセットされている場合、撮影直後にレディライト ⚡ が約3秒間点滅した時は、スピードライトがフル発光して露出不足の可能性があることを警告しています。撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。

シンクロモードの種類と特長

5つのシンクロモードの中から、撮影目的や撮影意図に合わせて希望するシンクロモードが選べます。

操作方法

シンクロモードボタン ⚡ を押しながら、メインコマンドダイヤルでシンクロモードをセットします。

※ 露出モードが P（プログラムオート）または A（絞り優先オート）の場合は、シンクロモードボタン ⚡ から指を離すと右の表示になります。

シンクロモードの種類と特長 －つづき－

シンクロモードの特長は次のとおりです。

シンクロモード	内容
先幕シンクロモード	通常のスピードライト撮影時にはこのモードでセットします(SB-26、25、24使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします)。
SLOW スローシンクロモード	露出モードをP（プログラムオート）またはA(絞り優先オート）にセットしてスピードライト撮影を行うと、通常はシャッタースピードが1/500秒～1/60秒に自動的にセットされますが、このモードでは、背景の露出を考慮してシャッタースピードが最長30秒まで自動制御されますので、背景の夕景や夜景の雰囲気を活かした撮影が行えます。
REAR 後幕シンクロモード	動く被写体をスピードライトで撮影する場合に、その被写体の動きを想像させる光の流れなどを被写体の後方に自然な形で表現できます（SB-26、25、24 使用時はスピードライト側のシンクロセレクターでセットします)。露出モードをP（プログラムオート）またはA(絞り優先オート）にセットすると、スローシンクロモードも自動的にセットされます。
赤目軽減モード	スピードライトが発光する前に約1秒間ランププリ照射を行い、暗い所で人物の目が赤く写るのを軽減することができます（SB-80DX、28DX、28、27、26 使用時のみ)。
SLOW 赤目軽減スローシンクロモード	赤目軽減モードとスローシンクロモードが同時にセットされます。露出モードはP（プログラムオート）またはA(絞り優先オート）にセットしてください（SB-80DX、28DX、28、27、26 使用時のみ)。

シンクロモードのご注意

- 赤目軽減モードと赤目軽減スローシンクロモード時には、シャッターボタンを押し込んでから約1秒間ランププリ照射を行った後にシャッターがきれ、スピードライトが発光しますので、シャッターがきれるまで、カメラや被写体の人物が動かないように注意してください(シャッターチャンスを優先するような撮影にはおすすめできません)。
- 赤目軽減スローシンクロモードとスローシンクロモード時にはシャッタースピードが遅くなりますので、手ブレに注意してください。三脚のご使用をおすすめします。
- スタジオ用大型ストロボでは正しい同調が行えないため、後幕シンクロモードは使用できません。

使用可能なスピードライト

このカメラには、次の別売スピードライトが使用できます。装着レンズ欄の①はGまたはDタイプ（IXニッコールを除く）、②はGおよびDタイプ以外のCPUレンズ（F3AF用を除く）、③は非CPUレンズを示します。

スピードライト（接続方法）	装着レンズ	区分									
		TTL※1		A※2		M			REAR		
		BL調光	TTL調光※3	絞り連動自動調光	外部自動調光	マニュアル	FP発光	マルチフラッシュ	後幕シンクロ	スレーブ発光	赤目軽減発光
SB-80DX SB-50DX※11 SB-28DX	①	○※4	○	○		○	○※11	○※11	○		○※11
	②	○※5	○	○		○	○※11	○※11	○		○※11
	③	○※6	○		○※11	○	○※11	○※11	○		○※11
SB-28	①				○	○	○	○	○		○
	②				○	○	○	○	○		○
	③				○	○	○	○	○		○
SB-27※7	①				○	○			○		○
	②				○	○			○		○
	③				○	○			○		○
SB-26※8	①				○	○	○	○	○	○	○
	②				○	○	○	○	○	○	○
	③				○	○	○	○	○	○	○
SB-25	①				○	○	○	○	○		
	②				○	○	○	○	○		
	③				○	○	○	○	○		
SB-24	①②				○	○		○	○		
	③				○	○		○	○		
SB-23 SB-21B※9 SB-29S SB-29	①②					○			○		
	③					○			○		
SB-22S SB-22 SB-20 SB-16B SB-15	①②				○	○			○		
	③				○	○			○		
SB-11※10 SB-14	①②				○	○			○		
	③				○	○			○		

※1　SB-80DX・SB-50DX・SB-28DXとの組み合わせでのみ、D-TTLモードが使用できます。他のスピードライトとの組み合わせでTTLにセットすると、カメラのシャッターボタンはロックされ、撮影ができません。

※2　Aモードの「絞り連動自動調光」はスピードライトの使用説明書ではAAと表記されています。

※3　スポット測光ではスタンダードD-TTL調光となります。

※4　D-3D-マルチBL調光となります。

※5　D-マルチBL調光となります。

※6　簡易D-TTL-BL調光となります。

※7　D1HとSB-27を組み合わせると自動的にTTLモードにセットされますが、TTLモードでは使用できませんのでSB-27を強制Aモードにセットし直してください。

※8　SB-26はスレーブ発光が行えます。ワイヤレススレーブセレクターをDにした場合、カメラのシャッタースピードは自動的に1/250秒より低速側に切り換わります。

※9　SB-21B・29S・29使用時のオートフォーカス撮影は、AFマイクロ（60mm・105mm・200mm）レンズ装着時のみ可能です。

※10　SB-11・14を使用して、Aモード、またはMモードを使用する場合は、SB-11・14にはSC-13にSU-2を併用してそれぞれ接続します。SB-11・14とも、SC-11かSC-15を使用して接続することもできますが、この場合、カメラのファインダー内のレディライトは使用できません。シャッタースピードの自動切り換えも行われません。

※11　SB-50DXは外部自動調光、FP発光、マルチフラッシュ、赤目軽減発光の機能はご使用になれません。

別売スピードライト使用時の注意

- スピードライトSB-28DXの使用説明書のカメラ分類表は、Aグループカメラに該当する箇所をお読みください。
- スピードライト使用時の同調シャッタースピードは1/500秒以下の低速です。
- SB-80DX・SB-50DX・SB-28DX使用時には、D-TTLモード等の自動調光において、フル発光により露出アンダーになる可能性のある場合には、発光直後にレディライトが約3秒間点滅し、露出アンダー警告を行います。
- SB-80DX・SB-50DX・SB-28DX以外のスピードライト使用時は、シャッタースピードを1/500秒に設定していると露出アンダー警告が行われない場合があります。警告が行われないのに露出がややアンダーになる場合には、シャッタースピードを1/250秒以下の低速にてご使用ください。
- スピードライト側のISO表示は1/3段ステップになっています。そのためカメラ側でISOを1/2段ステップ設定（カスタムセッティング20）の中間値（例えばISO280）と設定した場合、スピードライトの表示パネルのISO表示は正しい値が表示されません。ただし、実際の制御は正しく行われます。
- D-TTLモード時のカメラ感度連動範囲はISO200、250、320、400、500、640、800、1000、1250、1600相当です。
- カスタムセッティング31の「増感モード」を使用した場合には、距離や絞りによっては適正な発光量にならない場合があります。
- フォーカスエリアが中央にない場合は、アクティブ補助光を備えたスピードライトを使用した場合でもアクティブ補助光は点灯しません。
- 露出モードが**P**（プログラムオート）の場合、カメラが自動で設定する開放側の限界絞りは、使用する感度によって下表のように制御されます。

撮像感度（ISO）	200	250	320	400	500
開放側の限界絞り（F）	4.8	5	5.3	5.6	6

撮像感度（ISO）	640	800	1000	1250	1600
開放側の限界絞り（F）	6.3	6.7	7.1	7.6	8

※感度1段に対して絞りは1/2段変化します。制御される絞りよりも開放絞りが暗い場合は、装着レンズの開放絞りによって制御されます

使用可能なスピードライト　ーつづきー

- スピードライトの調光補正時はファインダー内に露出補正マーク ⊠ が点灯しますが、補正値は表示されません。
- D-TTL モード時に、調光コードSC-17 を使用してカメラからスピードライトを離して撮影する場合、スタンダードD-TTL 調光以外のD-TTL モードでは適正露出を得られない場合があります。この場合は、スタンダードD-TTL調光に切り替えて撮影してください。また、あらかじめテスト撮影を行ってください。
- D-TTL モード時に、発光面に内蔵パネル以外の部材（拡散板など）を装着しないでください。カメラ内の演算に誤差が生じ、適正露光とならない場合があります。
- D-TTL モード時には、TTL 増灯撮影ができません。
- 赤目軽減スローシンクロ撮影とスローシンクロモード撮影を行う場合、露出モードは**P**（プログラムオート）または**A**（絞り優先オート）にセットしてください。
- 露出モードに対してカメラでセットできるシャッタースピードと絞りは、下表のとおりです。

露出モード	セット可能なシャッタースピード	セット可能な絞り	参照ページ
プログラムオート	カメラが自動的にセット※1	カメラが自動的にセット※1	P.80
シャッター優先オート	1/500 秒～ 30 秒※2		P.82
絞り優先オート	カメラが自動的にセット※1	任意の絞り	P.84
マニュアル	1/500 秒～ 30 秒※2、バルブ		P.86

※1 自動的に1/500秒～1/60秒の範囲でセットされます。ただし、スローシンクロ設定時には、1/500 秒～ 30 秒の範囲でセットされます。

※2 1/500秒より高速のシャッタースピードにセットしてある場合は、スピードライトの電源をONにすると自動的に同調シャッタースピードの1/500秒にセットされます。

スピードライト操作の詳細は、ご使用になるスピードライトの使用説明書をご覧ください。

他社製のスピードライトについて

他社製のスピードライト（カメラのX接点に250V以上の電圧がかかるものや、アクセサリーシュー部の接点をショートさせてしまうもの）を使用しないでください。カメラの正常な機能が発揮できないだけでなく、カメラおよびスピードライトのシンクロ回路を破損するおそれがあります。

ファンクションボタンの割り当て

ファンクションボタン FUNC に画質モード、カスタムセッティング、コマンドロック、AF エリアのいずれかを割り当てることにより、背面表示パネルを見ながらコマンドダイアルにて設定することができます。

操作方法

撮影メニュー画面（P.16）から「ボタン設定」を選択して、マルチセレクターの▶を 1 回押すと、FUNC ボタン設定画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押して、割り当てる機能を選択します。

ボタン	割り当てる機能
QUAL	メインコマンドダイヤル / サブコマンドダイヤルと組み合わせて画質モードの設定が可能です（P.58）。
CSM	メインコマンドダイヤル/サブコマンドダイヤルと組み合わせてカスタムセッティングの設定が可能です（P.149）。
[+]	メインコマンドダイヤルと組み合わせてAFエリアモードの変更が可能です（P.71）。
L	メインコマンドダイヤル/サブコマンドダイヤルと組み合わせてシャッタースピード / 絞りがロックされます（P.88）。

選択して、マルチセレクターの▶を 1 回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

連番モードの設定

連番モードをONに設定すると、画像のファイル名に連続する通し番号を自動的に付けます。連番モードについての詳細はカスタムセッティング29「連番モード設定」の説明（P.169）をご覧ください。

操作方法

撮影メニュー画面（P.16）から「連番モード設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、連番モード設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して、設定を選択します。選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり撮影メニュー画面に戻ります。

項目	内容
OFF	連番モードを OFF にします。
ON	連番モードを ON にします。
リセット	連番モードがいったん解除され、次の撮影以降再び 0001 番から連番が付きます。画像を記録するフォルダ内に画像ファイルがある場合は、次の番号から連番がつきます。

29：連番モード設定（P.169）

カスタムセッティングでも連番モードを設定することができます。

GPS を使用した撮影

カメラには RS-232C インターフェースが装備されています。GPS 機器と接続して画像データに位置情報を記録することができます。

操作方法

SETUP メニュー画面（P.16）から「シリアル設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、シリアル設定画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押して、項目を選択します。

項目	内容
OFF	インターフェースの通信機能を無効にします。
GPS	GPS 機器と通信します。

選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になりSETUPメニュー画面に戻ります。

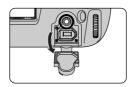
- GPSに設定した場合は、動作モードをPLAY以外に設定した場合のみ、接続された GPS 機器との通信を行います。
- GPS 機器との通信が開始されると、上面表示パネルに**D**の文字が点灯します。半押しタイマーがオフになるか、カメラの電源スイッチを OFF にするまでこの表示は点灯します。
- 一度 **D** の文字が点灯すると、GPS 機器との通信が途絶えても、通信時に受信した位置情報が保存され、画像データに書き込まれます。
- 上面表にパネルに **D** の文字が点灯している間に画像を撮影すると、画像データに位置情報が書き込まれます。
- GPS 機器の使用方法については、各 GPS 機器の使用説明書をご覧ください。
- 記録した位置情報は、撮影情報にページとして追加されます（P.117）。

GPS 機器を使用した撮影について

GPS 機器と接続して位置情報を記録する場合は、上面表示パネルに **D** の文字が表示されていることを確認してから撮影してください。特に、GPS 機器の電源をオンにした直後、通信が開始されるまでに、シャッターボタンの半押し操作をせずに直接撮影した場合は、位置情報が記録されません。

接続時のご注意

GPS 機器とカメラをケーブルで接続する時は、ケーブルを必ずカメラの RS-232C 端子（直径2.5mmステレオミニジャックタイプ）に接続してください。他の端子に無理に挿入すると、破損するおそれがあります。

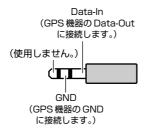
接続できる GPS 機器について

データ形式：NMEA0183 ver.2.01 を満たす GARMIN 社製、MAGELLAN 社製の GPS 機器と接続が可能です。

*NMEA：National Marine Electronics Association

動作確認済みの GPS 機器は、次の通りです。

- GARMIN 社製　GPS III
- MAGELLAN 社製　COLORTRAK

※当社では、接続ケーブルを用意しておりませんので、別途作成する必要があります。

- カメラ側のRS-232C端子は、直径2.5mmのステレオミニジャックに対応しております。
- カメラと GPS 機器を接続する際に必要なラインは、GND と Data-Out（GPS 機器側から見た場合）です。
- GPS 機器側の GND を直径 2.5mm のステレオミニジャック側の GND に、GPS 機器側のData-Outを直径2.5mmのステレオミニジャック側のData-Inにそれぞれ結線します。

再生方法の種類

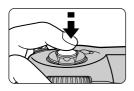
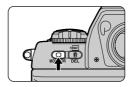
撮影画像の再生方法には、動作モードを**PLAY**に切り換えて液晶モニタに画像を表示する再生モード、動作モードは **S**（1 コマ撮影）、**C**（連続撮影）、ࠀ(セルフタイマー撮影)、**PC**（パソコンモード）のまま、モニタボタンを押して表示するレビューモード(ワンタッチ再生)、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに書き込みながら表示するレコード&レビューモードがあります。

再生モード

再生専用のモードです。動作モードダイヤルロックボタンを押しながら、動作モードダイヤルを **PLAY**（再生モード）にセットします。

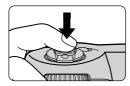
レビューモード（ワンタッチ再生）

動作モードが **S**（1 コマ撮影）、**C**（連続撮影）、 (セルフタイマー撮影)、**PC**（パソコンモード）のいずれかにセットされている場合、動作モードを**PLAY**（再生モード）に切り換えることなく、ワンタッチでコンパクトフラッシュカードに記録されている画像を再生できます。

半押しタイマーが ON（上面表示パネルにシャッタースピードや絞りが表示されている状態）の時にモニタボタン を押します。

レコード&レビューモード

動作モードが **S**（1 コマ撮影）、**C**（連続撮影）、ᘓ（セルフタイマー撮影）、**PC**（パソコンモード）の場合は、撮影した画像をコンパクトフラッシュカードに記録しながら自動的に液晶モニタに表示します。ただし、**PC**（パソコンモード）の場合は、パソコンと接続されニコン キャプチャー3カメラコントロールが起動している状態では、液晶モニタに表示されません。

1 カスタムセッティング 1（P.151）で、ON を選択します。

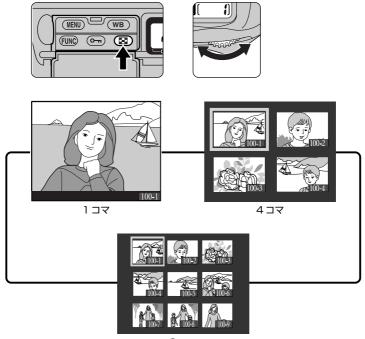
2 **S**（1 コマ撮影）、**C**（連続撮影）、ᘓ（セルフタイマー撮影）または **PC**（パソコンモード）で撮影を行います。

- 1 コマ / セルフタイマー撮影時は、1 コマずつ再生され表示されます。
- 連続撮影時は、撮影が終了したのちに途中のコマから順次画像表示を行います。この場合、設定されているコマ数（1 コマ/4コマ/9コマ）ずつ表示されます。
- 画像の表示が完了する前に次の撮影を行うと、再生が終了します。
- 撮影後、シャッターボタンを戻すと、画像の再生が開始されます。

再生時の操作

多くの再生操作は再生モード（**PLAY**）、レビューモード（ワンタッチ再生）、レコード&レビューモードで共通です。

表示コマ数の切り換え

画像の再生中は、液晶モニタに表示する画像数を変更できます。設定できるのは、1コマ、4コマまたは9コマのいずれかです。

サムネイルボタン ⊞ を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、画面に表示される画像の数が変わります。

- 設定した表示コマ数は、再生モード（**PLAY**）、レビューモード（ワンタッチ再生）、レコード&レビューモードのすべてに適用されます。
- サムネイル表示の場合は、縮小されたサムネイル画像が表示されます。撮影済みの画像数が設定したコマ数より少ない場合は、左上から詰めて表示されます。

モニタの消灯

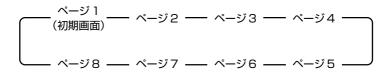
次の場合は、画像の表示が終了し、液晶モニタが消灯します。

- カスタムセッティング18（P.160）またはSETUPメニュー画面の「パワーオフ設定」で設定した時間が経過した場合。
- モニタボタン を押した場合。
- シャッターボタンを半押しした場合（動作モードが**S**（1コマ撮影）、**C**（連続撮影）、（セルフタイマー撮影）、**PC**（パソコンモード）のみ）。ただし、**PC**（パソコンモード）の場合はパソコンと接続していない状態、またはパソコンと接続していてもニコン キャプチャー3カメラコントロールが起動していない場合。

1 コマ表示時の操作

マルチセレクターのロックを外して ▲/▼ を押すと、表示画像がコマ送りされます。

最後に撮影された画像が表示されている場合にマルチセレクターの▼を押すと、先頭画像が表示されます（レコード&レビューモード使用時を除く）。先頭画像の表示時に ▲ を押すと最終画像が表示されます。

マルチセレクターの▶を押すと、次のように撮影情報の表示が切り換わります。マルチセレクターの◀を押すと前のページに戻ります。

- ページ6、ページ7、は再生メニュー画面の「再生画面設定」（P.132）で、それぞれヒストグラム表示、ハイライト表示が選択されている場合のみ表示されます。
- ページ5はGPS（P.109）を使用して撮影した画像に対して表示されます。
- 使用するレンズによっては、表示されない情報もあります。

各ページの表示内容は次のとおりです。

ページ1

❶ プロテクト設定の有無
❷ フォルダ番号 / コマ番号

ページ2

❶ プロテクト設定の有無
❷ コマ番号 / 画像数
❸ フォルダ名
❹ ファイル名
❺ High 選択時のクオリティ
❻ 撮影日付
❼ 撮影時間
❽ クオリティ

ページ3

❶ カメラ名
❷ ファームウェアバージョン
❸ 測光モード
❹ シャッタースピード
❺ 絞り値
❻ 露出モード
❼ 露出補正値

ページ4

❶ 撮像感度
❷ ホワイトバランスモード
❸ ホワイトバランス補正量
❹ 階調補正レベル
❺ 輪郭強調レベル
❻ 焦点距離
❼ カラー設定

ページ5（GPS データ表示）※

❶ 緯度
❷ 経度
❸ 高度

※ GPSを使用して撮影した画像に対して表示されます。

ページ6（ヒストグラム表示）※

画像のヒストグラムが表示されます。横軸は輝度、縦軸は画素数を表します。

※ 再生メニュー画面の「再生画面設定」で、ヒストグラム表示が選択されている場合のみ表示されます。

ページ7（ハイライト表示）※

画像のハイライト部分がブリンキング表示されます。

※ 再生メニュー画面の「再生画面設定」で、ハイライト表示が選択されている場合のみ表示されます。

ページ8（画像のみ）

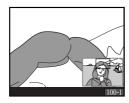
画像のみ表示されます。

サムネイル表示時の操作

マルチセレクターのロックを外して▲/▼/◀/▶を押すと、表示画面でカーソル（黄色い枠）が移動します。選択する画像にカーソルを合わせます。

サムネイルボタン ⊞ を押しながらサブコマンドダイヤルを回すと、設定されたコマ数（4 コマ /9 コマ）単位でページ送りされます。

画像の拡大表示

画像の表示中にファンクションボタン FUNC を押すと、表示されている画像（1 コマ表示時）または選択されている画像（4 コマ /9 コマ表示時）が拡大表示されます。

画像の拡大表示中にマルチセレクターのロックを外して▲/▼/◀/▶を押すと、画面がスクロールして、拡大部分を切り替えることができます。
元の表示に戻す場合は、ファンクションボタン FUNC を押します。

- 画像の拡大部分を示すサムネイル表示は、拡大またはスクロール操作後、約 2 秒で消えます。
- D1x で撮影した RAW データの拡大再生はできません。

画像の削除

画像を削除します。削除した画像は元に戻せません。画像の再生画面では、ボタン操作によって 1 コマ単位で削除できます。複数画像を同時に削除する場合は、再生メニュー画面の「削除」で操作します。

ボタン操作の場合

1 1 コマ表示の場合は、削除する画像を表示します。サムネイル表示の場合は、削除する画像を選択します。

2 削除ボタン を押します。削除確認の画面が表示されます。

3 もう一度削除ボタン を押すと画像が削除されます。

- 画像が削除され、画像表示画面に戻ります。
- 画像削除の確認画面で、削除をキャンセルする場合は、メニューボタン MENU を押します。

メニュー画面操作の場合

再生メニュー画面（P.16）から「削除」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、削除メニュー画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押して、項目を選択します。

項目	内容
選択画像削除	選択した画像を削除します。この項目を選択してマルチセレクターの ▶ を押すと、選択画像削除画面に移行します。
全画像削除	現在設定されているフォルダ内の全画像を削除します。プロテクト設定された画像、非表示設定された画像は削除されません。この項目を選択してマルチセレクターの ▶ を押すと、削除確認画面が表示されます。マルチセレクターの▲/▼で項目を選択し、ファンクションボタン FUNC を押すと、項目の内容が実行されます。
プリント指定解除	プリント指定（P.128）の一括解除（DPOF ファイルの削除）を行います。

全画像削除について

全画像削除を行うと、作成されているフォルダ数、および、記録されている画像ファイル数により、全画像の削除が完了するまで数十分の時間がかかる場合があります。

選択画像削除画面での画像選択・削除方法

マルチセレクターの▲/▼/◀/▶でカーソル（枠）を移動し、画像を選択します。メニューボタン MENU で再生メニュー画面に戻ります。

画像の選択方法

削除したい画像にマルチセレクターでカーソルを合わせ、サムネイルボタン ⊞ を押します。選択後、ファンクションボタン FUNC を押すと削除確認画面に移行します。

選択された画像上には、削除マーク 🗑 が表示されます。画像の選択はファンクションボタン FUNC を押すまで連続して行えます。すでに選択されている画像上でもう一度サムネイルボタン ⊞ を押すと、選択が解除されます。

削除指定の解除方法

削除指定画面において、マルチセレクターで削除設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、サムネイルボタン ⊞ を押すと、画像上の削除マーク 🗑 が消えます。

解除する画像は続けて選択できます。ファンクションボタン FUNC を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

画像削除方法

削除確認画面で、マルチセレクターの▲/▼で項目を選択し、ファンクションボタン FUNC を押すと、項目の内容が実行されます。

画像のプロテクト

画像にプロテクトをかけると、その画像を削除することができなくなります。これにより誤って画像を削除してしまうことを防ぎます。画像の再生画面では、ボタン操作によって１コマ単位でプロテクトを設定できます。複数画像のプロテクト設定を同時に行う場合は、再生メニュー画面の「プロテクト設定」で操作します。

ボタン操作の場合

1 １コマ表示の場合は、プロテクトする画像を表示します。サムネイル表示の場合は、プロテクトする画像を選択します。

2 プロテクトボタン を押します。画像にプロテクトマーク が表示されます。

画像のプロテクトを解除するには、解除する画像を表示（１コマ表示の場合）、または選択（サムネイル表示の場合）して、プロテクトボタン を押します。

メニュー画面操作の場合

再生メニュー画面（ P.16）から「プロテクト設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、プロテクト設定画面が表示されます。
マルチセレクターの▲/▼/◀/▶ で表示のカーソル（枠）を移動して、画像を選択します。メニューボタン MENU で設定を変更せずにキャンセルします。

再生

プロテクト画像の選択方法

プロテクトしたい画像にマルチセレクターでカーソルを合わせ、サムネイルボタン を押します。選択後、ファンクションボタン FUNC を押すと画像はプロテクト設定になります。

選択された画像上には、プロテクトマーク が表示されます。画像の選択は、ファンクションボタン FUNC を押すまで連続して行えます。すでに選択されている画像上でもう一度サムネイルボタン を押すと、選択が解除されます。

プロテクト指定の解除方法

プロテクト設定画面において、マルチセレクターでプロテクト設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、サムネイルボタン を押すと、画像上のプロテクトマーク が消えます。

解除する画像は続けて選択できます。ファンクションボタン FUNC を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

プロテクト画像のファイル属性

プロテクト設定した画像は、DOS ファイルフォーマットの「読み取り専用」属性になります。

その他の再生メニュー

スライドショー

画像を一定時間間隔で順次再生します。

1 再生メニュー画面（P.16）から「スライドショー」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、スライドショーメニュー画面が表示されます。

2 マルチセレクターの ▲/▼ を押して項目を選択します。次の項目が選択できます。

項目	内容
開始	スライドショーを開始します。
インターバル設定	画像を切り替える時間間隔を設定します。

3 「開始」を選択してマルチセレクターの▶を1回押すと、スライドショーを開始します。ファンクションボタン FUNC を押すと、一時停止状態となり、画面上に「手順4」のメニューが表示されます。また、メニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

4 スライドショーが終了するか、一時停止をした場合には画面上に選択メニューが表示されます。

それぞれ次の操作が可能です。マルチセレクターの▲/▼で選択、▶を1回押すと実行します。

項目	内容
▷ 再開	現在表示されている画像からスライドショーが再開されます。
インターバル設定	画像を切り替える時間間隔を設定します。

- この状態でマルチセレクターの◀を押すと、スライドショーメニュー画面に戻ります。この状態でメニューボタン MENU を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

インターバル設定

1コマの画像を表示している時間の変更ができます。スライドショーの開始前、終了後、または一時停止中に表示される選択画面から、「インターバル設定」を選択します。画像を表示している時間間隔を2秒、3秒、5秒、10秒のいずれかから、マルチセレクターの▲/▼を押して選択します。

時間間隔を選択した後、マルチセレクターの▶を1回押すと設定が有効になり、スライドショーが開始し、選択された時間間隔で画像が切り換わります。

非表示設定

画像を非表示設定にすると、その画像は非表示設定画面以外では表示されなくなります。再生メニュー画面（P.16）から「非表示設定」を選択して、マルチセレクターの▶を 1 回押すと、非表示設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼/◀/▶ で表示のカーソル（枠）を移動して、画像を選択します。メニューボタン MENU で非表示設定を変更せずにキャンセルします。

非表示画像の選択方法

選択したい画像にマルチセレクターでカーソルを合わせ、サムネイルボタン を押します。選択の完了後、ファンクションボタン FUNC を押すと非表示設定が実行されます。

選択された画像上には、非表示マーク およびプロテクトマーク が表示されます。画像の選択はファンクションボタン FUNC を押すまで連続して行えます。すでに選択されている画像上でもう一度サムネイルボタン を押すと、選択が解除されます。

非表示設定の解除方法

非表示設定画面において、マルチセレクターの ▲/▼/◀/▶ で非表示設定を解除したい画像にカーソルを合わせ、サムネイルボタン を押すと、画像上の非表示マーク が消えます。

解除する画像は続けて選択できます。ファンクションボタン FUNC を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

非表示画像のファイル属性とコマ番号

非表示設定画像は、DOS ファイルフォーマットの「隠しファイル」属性と「読み取り専用」属性がセットされます。画像は非表示設定画面以外では表示されませんが、コマ番号は付加されます。

プリント指定

画像のプリント指定を行います。セットした内容はプリント指定ファイルとしてコンパクトフラッシュカードに保存されます。このカメラは、デジタルプリントオーダーフォーマット（DPOF）に準拠しています。ただし、画質モードをRAWに設定して撮影された画像はプリントできません。

再生メニュー画面（P.16）から「プリント指定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、プリント指定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼/◀/▶ でカーソル（枠）を移動して、画像を選択します。メニューボタン MENU で設定を変更せずにキャンセルします。

プリント画像の選択方法

プリントしたい画像にマルチセレクターでカーソルを合わせ、サムネイルボタン を押します。選択後、ファンクションボタン FUNC を押すとプリント指定が行われ、2ページ目に移行します。

選択された画像上には、プリントマーク が表示されます。画像の選択はファンクションボタン FUNC を押すまで連続して行えます。すでに選択されている画像上でもう一度サムネイルボタン を押すと、選択が解除されます。

プリント指定の解除方法

プリント指定画面において、マルチセレクターで非表示設定を解除したい画像に枠型カーソルを合わせ、サムネイルボタン を押すと、画像上のプリントマーク が消えます。

解除する画像は続けて選択できます。ファンクションボタン FUNC を押すと、再生メニュー画面に戻ります。

DPOF（Digital Print Order Format）について

DPOFは、デジタルカメラで撮影した画像をラボプリントサービスや、家庭用のプリンタで自動プリントするための記録フォーマットです。これは、現在の各社独自仕様となっているプリント情報を標準化することで、より効率的なプリントの実現をするための規格です。

- ご使用のプリンタ・プリントサービスがDPOFに対応しているかご確認ください。
- ニコンデジタルフォトプリンタNP-100は、日付機能に対応していません。
- DPOFを使用して、直接プリント出力する場合には、カスタムセッティング32（P.171）でカラー設定をモード1（sRGB）にすることをおすすめします。

2ページ目の操作方法

プリント指定画面の2ページ目では、プリント枚数と日付のプリントの有無をセットします。

マルチセレクターの▲/▼で、次の項目が選択できます。

項目	内容
設定終了	マルチセレクターの▶を押すと、プリント指定のセットが完了します。
枚数	マルチセレクターの▶を押すと、プリント枚数をセットする画面に移ります。マルチセレクターで枚数の増減を行い（1枚～9枚）、マルチセレクターの▶を押すと枚数がセットされ、プリント指定画面（2ページ目）に戻ります。
日付	日付の設定はチェックボックスになっています。マルチセレクターでカーソルを合わせ、マルチセレクターの▶を押すと、チェックのON/OFFが切り換わります。チェックがONの場合は、画像に日付がプリントされます。

設定内容の適用について

プリント指定は、最後のコマに設定した内容（枚数、日時設定）が選択されている全てのコマに反映されます。

プリント指定を行った場合のご注意

- プリント指定ファイルを作成したコンパクトフラッシュカード内の画像を、パソコンなどで削除しないでください。
- プリント指定した画像に、後から非表示設定の操作を行わないでください。

フォルダ設定

画像を記録するフォルダの新規作成や、画像を再生するフォルダを指定します。

再生メニュー画面（P.16）から「フォルダ設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、フォルダ設定画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ で、次の項目が選択できます。

項目	内容
新規作成	画像を記録するフォルダを新規に作成します。選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダ番号設定画面に移行します。フォルダ番号設定画面では、マルチセレクターの ▲/▼ を押してフォルダ番号の数値を設定し、マルチセレクターの▶ を 1 回押すと、設定が有効になりフォルダ設定画面に戻ります。
フォルダの選択	画像を再生するフォルダを選択します。選択してマルチセレクターの▶を押すと、フォルダの選択画面に移行します。

フォルダの選択画面の操作方法

フォルダの選択画面ではマルチセレクターの▲/▼を押して、再生時に画像を参照するフォルダを選択します。選択後、マルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になりフォルダ設定画面に戻ります。

項目	内容
NCD1H	D1Hで作成された、すべてのフォルダを選択します。
全てのフォルダ	コンパクトフラッシュカードに記録されている、参照可能なすべてのフォルダを選択します。
現在記録中のフォルダ	現在記録に使用されているフォルダを選択します。

フォルダ設定内の新規作成で新しいフォルダを作成した場合

複数のフォルダを作成した状態で、再生するフォルダ設定を「現在記録中のフォルダ」にすると、新規作成で作成した最終フォルダのみが操作の対象となり、D1Hで作成した他のフォルダに変更することはできません。

たとえば、101NCD1H、102NCD1H に続いて 103NCD1H が新規作成された場合、103NCD1Hのみ参照が可能です。他のフォルダを参照する場合は、「NCD1H」または「全てのフォルダ」を選択してください。

ボタン操作によるフォルダの新規作成

プロテクトボタン を押しながら電源スイッチをONにすると、新規フォルダが作成されます。この操作により新規フォルダを作成する場合は、操作した後に必ず上面表示パネル内の撮影コマ表示が「1」になっていることを確認してから撮影動作を行ってください。電源スイッチをONにした直後、撮影コマ表示が「1」になる前に撮影動作を行うと、撮影した画像が新規に作成されたフォルダの前のフォルダに記録されることがあります。ただし、コンパクトフラッシュカードにすでに空きフォルダが存在する場合は、新規作成は行われません。また、現在記録中のフォルダ番号が最大値999の場合に、この操作を行うと、新規にフォルダが作成できないためエラーが発生し、上面表示パネルの撮影コマ表示部に CHA の文字が点滅します。

再生画面設定

画像を1コマ再生する場合の撮影情報（P.115）に、ヒストグラム表示やハイライト表示のページを追加します。

再生メニュー画面（P.16）から「再生画面設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、再生画面設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼で、次の項目が選択できます。選択後、マルチセレクターの▶を1回押すと、設定が有効になり再生メニュー画面に戻ります。

項目	内容
ノーマル	ヒストグラム、ハイライトともに表示されません。
ヒストグラム	撮影情報にヒストグラム表示のページを追加します。
ハイライト	撮影情報にハイライト表示のページを追加します。
ヒストグラム&ハイライト	撮影情報にヒストグラム表示とハイライト表示のページを追加します。

それぞれの表示についての詳細は、P.117をご覧ください。

カードフォーマット

SETUPメニュー画面(P.16)から「カードフォーマット」を選択し、マルチセレクターの▶を1回押すと、カードフォーマット確認画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼で、「いいえ」または「はい」を選択します。

項目	内容
いいえ	フォーマットをキャンセルします。選択してファンクションボタン FUNC を押すと、SETUPメニュー画面に戻ります。
はい	フォーマットを実行します。選択してファンクションボタン FUNC を押すと開始されます。キャンセルはできません。フォーマット完了後に「撮影画像がありません」と表示され、この状態でメニューボタン MENU を押すと、SETUPメニュー画面に戻ります。

ボタン操作でも設定できます（P.27）。

ビデオ出力

テレビやビデオなどに接続する場合のビデオ出力方式を、NTSC方式またはPAL方式のいずれかに設定します。マルチセレクターの ▲/▼ を押して選択します。

SETUP メニュー画面（P.16）から「ビデオ出力」を選択して、マルチセレクターの▶を 1 回押すと、ビデオ出力設定画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押してビデオ出力方式を選択します。

項目	内容
NTSC	NTSC方式のテレビやビデオなどに接続する場合に選択します。通常、日本国内でご使用の場合はこちらを選択します。
PAL	PAL方式のテレビやビデオなどに接続する場合に選択します。通常、日本では使用されません。

ビデオ出力方式を選択してマルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、SETUP メニュー画面に戻ります。

画面の明るさ

液晶モニタの明るさを調整します。明るさは５段階で調整できます。設定されたモニタの明るさは、すべての液晶モニタ表示に適用されます。

SETUP メニュー画面（P.16）から「画面の明るさ」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、画面の明るさ調整画面が表示されます。

マルチセレクターの ▲/▼ を押すと、連動して画面の明るさが変わります（▲ で明るく、▼ で暗くなります）。

マルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になりSETUPメニュー画面に戻ります。

パワーオフ設定

リチャージャブルバッテリーEN-4を使用した場合、操作が終了してから液晶モニタが自動的にOFFになるまでの時間を設定します。

SETUPメニュー画面（P.16）から「パワーオフ設定」を選択して、マルチセレクターの▶を1回押すと、パワーオフ設定画面が表示されます。

マルチセレクターの▲/▼を押して時間を選択します。選択できるのは10秒、20秒、1分、5分、10分のいずれかです。

時間を選択してマルチセレクターの▶を押すと、設定が有効になり、SETUPメニュー画面に戻ります。

ビデオ出力

ビデオ出力をPAL方式にセットして、PAL方式の機器に出力した場合は、画素の間引きが行われるため解像度が低下します。

パワーオフ設定

ACアダプタ接続中はパワーオフ設定が10分に固定されます。

モニタの再表示

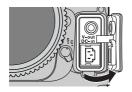
消灯したモニタを再度表示する場合はモニタボタンを押してください。

18：再生時のパワーオフ設定の変更（P.160）

カスタムセッティングでもパワーオフ設定ができます。

テレビ・ビデオとの接続

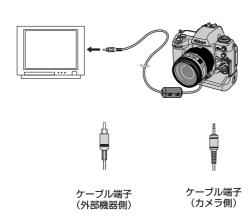
カメラをテレビやビデオなどに接続して、液晶モニタの内容をテレビ画面に表示したり、ビデオデッキで録画することができます。接続には付属の専用ビデオケーブルをご使用ください。

DC 入力端子・ビデオ出力端子カバーを矢印の方向に開けてください。

ビデオ出力端子

DC 入力端子

テレビなどとの接続

ケーブル端子
（外部機器側）

ケーブル端子
（カメラ側）

カメラのビデオ出力端子に専用ビデオケーブルを接続して使用します。ビデオ端子にビデオケーブルが接続されると、液晶モニタの内容がビデオ出力されます。

- ビデオケーブル接続時にも、ボタン入力などのカメラの動作は接続前と同様に行えます。
- カメラの液晶モニタに表示されている内容と同じものがビデオ出力されます。したがってカメラを操作して画面を切り換えた場合は、ビデオ出力にも反映されます。
- AC アダプタ（別売）接続中は、パワーオフ設定が 10 分に固定されます（P.135）。

端子抜き差し時のご注意

ビデオ出力端子を抜き差しする時は、必ず電源スイッチがOFFになっていることを確認してください。

ビデオ出力（P.134）

SETUP メニュー画面の「ビデオ出力」で、ビデオの出力方式を切り換えることができます。ただし、ビデオ出力をPAL 方式にセットして、PAL 方式の機器に出力した場合は、画素の間引きが行われるため解像度が低下します。

パソコンとの接続

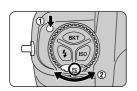
このカメラはIEEE1394インターフェースを装備しており、IEEE1394ケーブルを介して、パソコンと通信できます。Nikon Viewを使用すると、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷ができます。また、Nikon Capture 3（別売）を使用すると、Nikon Viewの機能に加えてより高度な画像調整、バッチ処理などをパソコン上で行うことができます。

- 最初に各ソフトウェアの使用説明書をよくお読みになり、必要なソフトウェアをパソコンにインストールしてください。
- 動作環境はご使用のパソコンの機種によって異なります。ソフトウェアの使用説明書をご覧ください。
- 電源スイッチをOFFにして、電池またはACアダプタが装着されていることを確認してください。
- 電池の消耗を防ぐためACアダプタ（別売）のご使用をおすすめします。

1 IEEE1394インターフェースを使ってカメラとパソコンを接続するには、カメラのIEEE1394端子にIEEE1394ケーブルを使用します。

パソコンとの接続方法はご使用の機種によって異なります。

IEEE1394インターフェースは、パソコンやカメラの電源を入れたまま接続ケーブルを抜き差しでき、しかも接続した瞬間から機器が使える「ホットプラグ」機能をサポートしています。接続のたびに電源を切ったり再起動する必要はありません。

2 動作モードダイヤルを **PC** にセットすると、カメラとパソコンが通信できる状態になります。**PC**（パソコンモード）以外の動作モードではパソコンと接続しても通信は行われません。

- IEEE1394インターフェースは「ホットプラグ」機能をサポートしていますのでカメラの電源をONにして、動作モードダイヤルを**PC**にセットした後から、ケーブルを接続することもできます。
- パソコンと正しく接続され、ニコン キャプチャー3カメラコントロールが起動している状態では、カメラの上部表示パネルに PC と表示されます。Nikon View のニコン トランスファが起動している場合は PC と表示されません。
- パソコンと正しく接続され、ニコン キャプチャー3カメラコントロールが起動している状態で、カメラ側のレリーズにより連続撮影を行った場合、連続撮影速度が遅くなる場合があります。
- パソコンと接続しない状態、またはパソコンと接続しても Nikon View のニコン トランスファやニコン キャプチャー３カメラコントロールが起動していない状態では、カメラ単体で通常と同様に動作します。ただし、1コマ撮影/連続撮影の設定はカスタムセッティング30（P.170）の設定に従います。

3 接続を終了するときは、動作モードダイヤルを**PC**以外にセットし、またはパソコン上でソフトウェアを終了し、カメラ上部表示パネルの PC 表示が消えていることを確認して、接続ケーブルを外してください。

パソコン接続時のご注意

カメラとパソコンの通信中は、電源スイッチをOFFにしないでください。

Nikon View

コンパクトフラッシュカードに記録されている画像をパソコンに転送したり、転送した画像のサムネイル一覧表示や簡単な画像調整および印刷機能を備えたソフトです。詳しくは、付属のNikon Viewリファレンスマニュアルをご覧ください。

Nikon View 動作環境

Windows 版

OS	Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition（Me）、Windows 98 Second Edition（SE）（各プリインストールモデルのみ）
CPU	Pentium 300MHz 以上
RAM（メモリ）	64MB 以上の空き容量（RAW 画像処理時に 128MB 以上推奨）
ハードディスク *1	Nikon View インストール時に 60MB 以上の空き容量 Nikon View の動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの 2 倍+ 10MB 以上の空き容量（起動ディスク）
モニタ解像度	800 × 600 ドット以上、16 ビットカラー（約 65000 色）以上
その他	• インストール時に CD-ROM ドライブが必要 • OHCI 対応 IEEE1394 インターフェース *2 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。

*1 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

*2 カメラをパソコンと接続して使用する場合に必要です。IEEE1394 用ハブを介してカメラを接続すると正しく動作しない場合があります。また、動作確認ボードに関しては下記のホームページのサポート情報にてご確認ください。

ソフトウェアの最新情報

ソフトウェアの仕様やバージョンは、変更する場合があります。最新の情報は、下記アドレスのホームページ上でご確認ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

Macintosh 版

OS	Mac OS 9.0 ～ 9.2 Mac OS X（ただし、Version 10.1.2 ～ 10.2）
機種	iMac、iMac DV、Power Macintosh G3（Blue & White）、Power Mac G4 以降、iBook、Power Book G3 以降 FireWire インターフェース内蔵モデルのみサポート [*1]
RAM（メモリ）	64MB 以上の空き容量（RAW 画像処理時に 128MB 以上推奨）
ハードディスク [*2]	Nikon View インストール時に 60MB 以上の空き容量 Nikon View の動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの 2 倍＋10MB 以上の空き容量（起動ディスク）
モニタ解像度	800 × 600 ドット以上、16 ビットカラー（約 65000 色）以上
その他	• インストール時に CD-ROM ドライブが必要 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。

[*1] カメラをパソコンと接続して使用する場合に必要です。IEEE1394（FireWire）用ハブを介してカメラを接続すると正しく動作しない場合があります。

[*2] 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

Nikon Capture 3

Nikon Viewの機能に加えて、より高度な画像調整やカメラの各種設定や撮影などのコントロール機能、バッチ処理などを備えたソフトウェアです。パソコンとカメラを接続した状態で撮影を行うと、コンパクトフラッシュカードを介さずに直接パソコンのハードディスクに取り込むことができるので、スタジオ撮影などに最適です。詳しくは、Nikon Capture 3の使用説明書をご覧ください。

Nikon Capture 3 動作環境

Windows 版

OS ／機種	Windows XP Home Edition/Professional、Windows 2000 Professional、Windows Millennium Edition（Me）、Windows 98 Second Edition（SE）（各プリインストールモデルのみ）
CPU	Pentium 300MHz 以上
RAM（メモリ）	• Windows XP：128MB 以上の空き容量（256MB 以上推奨） • その他の OS：64MB 以上推奨（RAW 画像処理時に 128MB 以上推奨）
RAM（メモリ）（Nikon View）	64MB 以上の空き容量（RAW 画像処理時に 128MB 以上推奨）
ハードディスク *1	Nikon Capture 3 インストール時に 200MB 以上の空き容量 Nikon Capture 3 の動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの 2 倍＋ 10MB 以上の空き容量（起動ディスク）
モニタ解像度	800 × 600 ドット以上、16 ビットカラー（約 65000 色）以上、24 ビットカラー（約 1677 万色）推奨
その他	• インストール時に CD-ROM ドライブが必要 • OHCI 対応 IEEE1394 インターフェース *2 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。

*1 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

*2 カメラをパソコンと接続して使用する場合に必要です。IEEE1394 用ハブを介してカメラを接続すると正しく動作しない場合があります。また、動作確認ボードに関しては右ページに記載のホームページのサポート情報にてご確認ください。

ソフトウェアの最新情報

ソフトウェアの仕様やバージョンは、変更する場合があります。最新の情報は、下記アドレスのホームページ上でご確認ください。

http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

Macintosh 版

OS	Mac OS 9.0.4*1、9.1、9.2 Mac OS X（ただし、Version 10.1.3 ～ 10.2）
機種	iMac、iMac DV、Power Macintosh G3（Blue & White）、Power Mac G4 以降、iBook、Power Book G3 以降 FireWire インターフェース内蔵モデルのみサポート *2
RAM（メモリ）	• Mac OS X：128MB 以上の空き容量（256MB 以上推奨） • Mac OS 9：割り当てメモリとして、ニコン キャプチャー 3 カメラコントロールに 32MB 以上推奨。ニコン キャプチャー 3 エディタに 128MB 以上推奨
RAM（メモリ）（Nikon View）	64MB 以上の空き容量（RAW 画像処理時に 128MB 以上推奨）
ハードディスク *3	Nikon Capture 3 インストール時に 200MB 以上の空き容量 Nikon Capture 3 の動作時に使用するコンパクトフラッシュカードの 2 倍＋ 10MB 以上の空き容量（起動ディスク）
モニタ解像度	800 × 600 ドット以上、16 ビットカラー（約 65000 色）以上、24 ビットカラー（約 1677 万色）推奨
その他	• インストール時に CD-ROM ドライブが必要 • 画像のアップロード機能を使うには、インターネットに接続できる環境が必要。メール送信機能を使うには、電子メールを送信できる環境が必要。

*1 CarbonLib バージョン 1.5 以降が必要です。

*2 カメラをパソコンと接続して使用する場合に必要です。IEEE1394（FireWire）用ハブを介してカメラを接続すると正しく動作しない場合があります。

*3 他のソフトウェアと合わせてご使用の場合の空き容量は、それぞれのソフトウェアに添付の使用説明書でご確認ください。

Nikon Capture 2 を使用する場合

Nikon Capture 2 は、ver. 2.0.3 から D1H に対応します。なお、D1H で撮影した RAW 画像は、Nikon Capture 2 ver.2.0.3 を使用してファイル形式を TIFF または JPEG（Exif 形式）で保存した場合、Exif Version 2.1 で保存されます。

Nikon Capture 3 を使用する場合

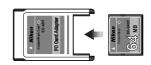
Nikon Capture 3 ver. 3.5 は、Exif Version 2.2 に対応しています。なお、D1H で撮影した RAW 画像は、Nikon Capture 3 ver.3.0.0 を使用してファイル形式を TIFF または JPEG（Exif 形式）で保存した場合、Exif Version 2.1 で保存されます。

Macintosh でニコン キャプチャー 3 カメラコントロールを使用する場合

Mac OS X で D1 シリーズをお使いの場合、ニコン キャプチャー 3 カメラコントロールは、Version10.1.5、10.2 の Mac OS X でご使用ください。

コンパクトフラッシュカードからの読みとり

別売の PC カードアダプタ EC-AD1 を使用すると、PCMCIA TYPE II 準拠 ATA カードとして、直接パソコンに画像を読みとることができます。

1 カメラから取り出したコンパクトフラッシュカードを、PC カードアダプタにセットします。

2 PCMCIA TYPE IIのカードに適合するスロットを持ち、ATAカードの読めるパソコンに装着します。

装着方法の詳細については、ご使用のパソコン本体の使用説明書を参照してください。

ご使用の環境によっては、ソフトウェアのインストールや登録、設定が必要となる場合があります。ご使用のパソコンおよび OS の使用説明書を参照してください。

3 カメラに保存された画像の記録方式をサポートしているアプリケーションソフトウェアを使用して、コンパクトフラッシュカードの画像を開きます。

RAW 画像および YCbCr-TIFF 画像の復元には、Nikon View または Nikon Capture 3 が必要です。

カスタム
セッティングと
メニュー画面
の一覧

この章の内容

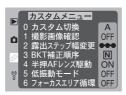
この章では、カスタムセッティングの説明のほか、撮影メニュー画面、再生メニュー画面、SETUP メニュー画面を一覧表示しています。

動作モードが**S**（1コマ撮影）・**C**（連続撮影）・ (セルフタイマー撮影)、**PC**（パソコンモード）時に、0～35のカスタムセッティングにより、カメラの各機能設定を撮影者の好みに合わせて変更します。

カスタムセッティング内容の保存場所を選択する

はじめにカスタムセッティング内容の保存場所を選択します。カスタムセッティングの各セット内容は選択した場所にまとめて保存されるので、あとからすべての設定を一斉に呼び出せます。初期設定では、カスタムセッティング内容は「カスタムA」に保存されます。撮影状況に応じて特定のセット内容を組み合わせたい場合など、4つの保存場所を活用して、カスタムセッティング内容の組み合わせを4通り作ることもできます。以下の手順で保存場所を選択してください。

1 電源スイッチをONにして、メニューボタン MENU を押します。液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

2 マルチセレクターのロックを解除して、▲/▼を押し、カスタムメニュー画面を表示します。

3 マルチセレクターの▶を押すと、カスタムメニュー画面に入ります。マルチセレクターの▲/▼を押して、「0 カスタム切換」を選択します。

4 マルチセレクターの▶を押してカスタムの切り換え画面を表示します。マルチセレクターの▲/▼を押して、カスタムA～Dのうちの１つを選択します。マルチセレクターの▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

選択を実行すると、保存されていたカスタムセッティングが有効になります。また、新たにカスタムセッティングを変更すると、選択した保存場所に変更内容が上書きされます。

ファンクションボタンの割り当てによる設定

撮影メニュー画面の「FUNC ボタン設定」で CSM を選択した場合は、ファンクションボタン FUNC でカスタムセッティング内容の保存場所が選択できます。ファンクションボタン FUNC を押しながら、メインコマンドダイヤルを回すと、背面表示パネルに0の数字と、現在選択している保存場所の表示が出ます。新しい保存場所を選択するには、ファンクションボタン FUNC を押しながら、サブコマンドダイヤルを回します。ファンクションボタン FUNC から手を離すと選択が実行されます。

関連項目

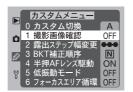
P.107　ファンクションボタンの割り当て

カスタムセッティングの変更方法

カスタムセッティングの変更はカスタムメニュー画面で行います。選択している保存場所の内容のみが変更されます。

1 電源スイッチをONにして、メニューボタン MENU を押します。液晶モニタにメニュー画面が表示されます。

2 マルチセレクターのロックを解除して、▲/▼ を押し、カスタムメニュー画面を表示します。

3 マルチセレクターの▶を押すと、カスタムメニュー画面に入ります。マルチセレクターの▲/▼を押して、変更するカスタムセッティング項目を選択します。

4 マルチセレクターの▶を押して、変更するカスタムセッティング項目画面を表示します。マルチセレクターの▲/▼を押して、設定を選択します。マルチセレクターの▶を押すと選択が実行され、カスタムメニュー画面に戻ります。

- 変更せずにカスタムメニュー画面に戻る場合は、マルチセレクターの◀ を押します。

初期状態と異なるカスタムセッティングを使用している場合は、背面表示パネルに **CUSTOM** が表示されます。

ファンクションボタンの割り当てによる設定

撮影メニュー画面の「FUNC ボタン設定」で CSM を選択した場合は、ファンクションボタン FUNC でカスタムセッティング変更ができます。ファンクションボタン FUNC を押しながら、メインコマンドダイヤルを回して、変更するカスタムセッティング番号を背面表示パネルに表示します。ファンクションボタンを押しながらサブコマンドダイヤルを回し、設定を変更します。ファンクションボタンから手を離すと、変更されます。

カスタムセッティングによる切り換え

カスタムセッティングの各セット状態を４通り、カスタムA、カスタムB、カスタムC、カスタムDとして記憶させておくことができ、撮影状況に合わせてあらかじめ記憶させておいたセットを一括して簡単に呼び出せます。詳しくは次頁のカスタムセッティング0「カスタムの切換え」をご覧ください。

関連項目

P.107　ファンクションボタンの割り当て

カスタムセッティングの内容

以下は、全カスタムセッティングの設定一覧表です。設定名の右の番号は、ファンクションボタン FUNC でカスタムセッティングを変更する場合に、背面表示パネルに表示される番号を表しています。

カスタムセッティング０：カスタムの切換え

カスタムセッティングの保存場所を、カスタムＡ～Ｄの4つから選択すると、そこに保存されているカスタムセッティングが実行されます。また、カスタムセッティングを変更すると、選択されている保存場所に変更内容が上書きされます。

設定	番号	内容
カスタム A （初期設定）	0-A	カスタムＡを選択します。
カスタム B	0-b	カスタムＢを選択します。
カスタム C	0-C	カスタムＣを選択します。
カスタム D	0-d	カスタムＤを選択します。

関連項目

P.147　ファンクションボタン FUNC によるカスタムセッティング設定

カスタムセッティング 1：撮影時の撮影画像の確認

通常はモニタボタンを押すと撮影画像がモニタに表示されますが、ONに設定するとコンパクトフラッシュカードに画像データを書き込みながら、液晶モニタにも自動的に撮影画像が表示されます（レコード&レビューモード）。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	1-0	撮影後、モニタボタン を押すと、液晶モニタに画像が表示されます。
ON	1-2	撮影後、液晶モニタに画像が自動的に表示されます。（レコード&レビューモード）

カスタムセッティング 2：露出値のステップ幅の変更

通常は露出値（シャッタースピード、絞り、露出補正値、オートブラケティング補正ステップ）を1/3段（EV）で表示または設定できますが、1/2段、1段に変更できます。

設定	番号	内容
1/3 段 （初期設定）	2-3	露出値のステップを 1/3 段に設定します。
1/2 段	2-2	露出値のステップを 1/2 段に設定します。
1 段	2-1	露出値のステップを 1 段に設定します。

関連項目

P.112　レコード&レビューモード

カスタムセッティング３：オートブラケティング撮影時の補正順序の変更

通常、オートブラケティングの補正順序は初期設定の順（P.94）になりますが、マイナス側からプラス側の順序に変更できます。

設定	番号	内容
初期設定の順（初期設定）	3-0	オートブラケティングの補正順序は、初期設定の順（P.94）になります。
ー側から＋側へ	3-1	オートブラケティングの補正順序は、マイナス側からプラス側になります。

カスタムセッティング４：シャッターボタン半押しによる AF レンズ駆動

通常シャッターボタンを半押しするか、AF 作動ボタンを押すと AF レンズを駆動させてピント合わせを行いますが、AF 作動ボタンのみで AF レンズを駆動させるように変更できます。

設定	番号	内容
ON（初期設定）	4-0	シャッターボタンの半押し、または AF 作動ボタンで AF レンズが駆動します。
OFF	4-1	AF 作動ボタンのみで AF レンズが駆動します。

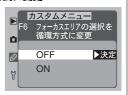
	関連項目
P.93	オートブラケティング

カスタムセッティング５：低振動モード

通常、シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれますが、顕微鏡撮影時などのカメラブレを最小限に押さえるため、シャッターボタンを押すと最初にミラーが作動し、少し間隔を空けてシャッターがきれるように変更できます。

設定	番号	内容
OFF（初期設定）	5-0	シャッターボタンを押すと同時にシャッターがきれます。
ON	5-1	ミラーの作動後、少し間隔を空けてシャッターがきれます。

カスタムセッティング６：フォーカスエリアの選択を循環方式に変更

通常、上下、または左右反対側にあるフォーカスエリアを選択する場合、マルチセレクターの反対方向を押さなければなりません。循環方式に変更すると、マルチセレクターの▲を押すと上方向に、▼を押すと下方向に、▶を押すと右方向に、◀を押すと左方向に、それぞれ循環させることができます。これによりマルチセレクターの押す位置を変えることなく反対側のフォーカスエリアの選択が可能になります。

設定	番号	内容
OFF（初期設定）	6-0	フォーカスエリア選択の際、循環方式は使用できません。
ON	6-1	フォーカスエリア選択の際、循環方式を使用できます。

関連項目

P.72　フォーカスエリア

カスタムセッティング 7：シャッターボタン半押しによる AE ロック

通常はAEロックボタン AE-L AF-L を押した時にAEロックが行われますが、シャッターボタンを半押しした時にAEロックが行われるように変更できます。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	7-0	AE ロックボタンで AE ロックします。
ON	7- 1	シャッターボタンの半押しで AE ロックします。

カスタムセッティング 8：クリーニングミラーアップ

CCDに装着されているローパスフィルタの汚れを調べたり、クリーニングするために、ミラーをアップした状態に固定します。詳しくは「カメラのお手入れ」（P.184）をご覧ください。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	8-0	ミラーアップ状態になりません。
ON	8- 1	ミラーアップ状態に固定します（別売の AC アダプタ EH-4 が必要です）。

	関連項目
P.90	AE ロック撮影

カスタムセッティング 9：至近優先ダイナミック AF（AF-S）

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードダイヤルを **S**（シングル AF サーボ）にセットすると、至近優先ダイナミックAF（P.71）となりますが、至近優先ダイナミック AF にならないように変更できます。

設定	番号	内容
ON （初期設定）	9-0	5つのフォーカスエリア内の被写体のうち、最も手前の被写体にピントを合わせます。
OFF	9-1	選択したフォーカスエリア内の被写体にピントを合わせます。

カスタムセッティング 10：至近優先ダイナミック AF（AF-C）

通常は、ダイナミックAFモード時にフォーカスモードダイヤルを **C**（コンティニュアス AF サーボ）にセットしても至近優先ダイナミックAF（P.71）にはなりませんが、至近優先ダイナミック AF になるように変更できます。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	10-0	選択したフォーカスエリア内の被写体にピントを合わせます。
ON	10-1	5つのフォーカスエリア内の被写体のうち、最も手前の被写体にピントを合わせます。

関連項目

P.70　AF エリアモード

カスタムセッティング 11：AE/SB ブラケティングの同時 / 単独セット

通常のオートブラケティングセット時には、AE ブラケティングと SB ブラケティングが同時にセットされますが、AE ブラケティングのみのセット、または SB ブラケティングのみのセットに変更できます。

設定	番号	内容
同時セット （初期設定）	11-AS	AE ブラケティングと SB ブラケティングを同時に行います。
AE ブラケティングのみ	11-AE	AE ブラケティングのみ行います。
SB ブラケティングのみ	11-Sb	SB ブラケティングのみ行います。

カスタムセッティング 12：コマンドダイヤルの変更

通常のコマンドダイヤル操作とは逆に、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードのセット（**S**［シャッター優先オート］･ **M**［マニュアル］時）、メインコマンドダイヤルで絞りのセット（**A**［絞り優先オート］･ **M**［マニュアル］時）が行えるように変更できます。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	12-0	メインコマンドダイヤルでシャッタースピード、サブコマンドダイヤルで絞りを設定します。
ON	12-1	メインコマンドダイヤルで絞り、サブコマンドダイヤルでシャッタースピードを設定します。

関連項目

P.93　オートブラケティング

カスタムセッティング 13：露出補正簡易設定

露出補正ボタン を使用せずに、コマンドダイヤルのみで露出補正をすることができます。露出補正は±5段の間でセットできます。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	13-0	露出補正ボタンとメインコマンドダイヤルで、露出補正をします。
ON	13-1	コマンドダイヤルのみで、露出補正をします。カスタムセッティング 12の設定により、次の表で記載しているダイヤルで露出補正が可能です。

露出モード	カスタムセッティング 12 OFF	カスタムセッティング 12 ON
P	サブコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
S	サブコマンドダイヤル	メインコマンドダイヤル
A	メインコマンドダイヤル	サブコマンドダイヤル
M	—	—

CSM 2：露出値のステップ幅の変更（P.151）

上面表示パネルとファインダー内表示に表示されるシャッタースピードと絞りのステップを1/2 段または 1 段に変更できます。

	関連項目
P.92	露出補正

カスタムセッティング 14：中央部重点測光範囲の変更

中央部重点測光は、ファインダー中央部を重点的に測光して、露出値を決定します。中央部重点測光範囲は、φ6mm、φ8mm、φ10mm、φ13mm、画面全体の平均のいずれかから選択できます。

設定	番号	測光範囲
φ 6 mm	14-6	φ 6ミリ
φ 8 mm（初期設定）	14-8	φ 8ミリ
φ 10 mm	14-10	φ 10ミリ
φ 13 mm	14-13	φ 13ミリ
画面全体の平均	14-A	画面全体の平均

カスタムセッティング 15：半押しタイマーの作動時間の変更

通常は、電源スイッチをONにした時やシャッターボタンを半押しした時の半押しタイマーの作動時間は６秒ですが、４秒、８秒、16秒のいずれかに変更できます（半押しタイマーを延長すると撮影可能枚数が少なくなります）。

設定	番号	半押しタイマーの作動時間
４秒	15-4	約４秒
６秒（初期設定）	15-6	約６秒
８秒	15-8	約８秒
16秒	15-16	約16秒

関連項目

P.78　測光モード

カスタムセッティング 16：セルフタイマーの作動時間の変更

セルフタイマー撮影の際、シャッターボタンを押してから、シャッターがきれるまでの時間を設定できます。

設定	番号	セルフタイマーの作動時間
2 秒	16-2	約 2 秒
5 秒	16-5	約 5 秒
10 秒（初期設定）	16- 10	約 10 秒
20 秒	16-20	約 20 秒

カスタムセッティング 17：各ボタン操作によるイルミネーター点灯

通常は電源スイッチをイルミネーター ☀. まで回すとイルミネーターが点灯しますが、各ボタンの操作によって点灯するように変更できます。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	17-0	電源スイッチを ☀. に合わせると、イルミネーターが点灯します。
ON	17-1	各ボタン操作によりイルミネーターが点灯します。

関連項目

P.96　セルフタイマー撮影

カスタムセッティング 18：再生時のパワーオフ設定の変更

操作が終了してから液晶モニタが自動的にオフになるまでの時間を設定します。

設定	番号	液晶モニタ点灯時間
10 秒	18-0	約 10 秒
20 秒（初期設定）	18- 1	約 20 秒
1 分	18-2	約 1 分
5 分	18-3	約 5 分
10 分	18-4	約 10 分

液晶モニタの表示時間を延長すると電池の消耗が早くなります。

カスタムセッティング 19：絞りの制御方法

マイクロレンズ使用時にレンズを繰り出した場合、または焦点距離によって開放絞りが変化するズームレンズでズーミングをした場合、通常はサブコマンドダイヤルによってセットした絞りそのものを維持しますが、開放絞りからの絞り段数を維持するように変更できます（露出モードが**A**［絞り優先オート］か**M**［マニュアル］の時）。

例：AFニッコールレンズ70～210mm f/4～5.6を装着し、70mmで絞りをf/8（開放絞りf/4から2段目）にセットして210mmにズーミングした時、「0：絞りの維持」にセットしておくと、絞りはf/8のままになり、「1：絞り段数維持」にセットしておくと、210mm時の開放絞りf/5.6からの絞り段数である2段を維持して、絞りはf/11に変化します。

設定	番号	内容
絞りの維持（初期設定）	19-0	絞りを維持します。
絞り段数維持	19-1	絞り段数を維持します。

関連項目

P.80　各露出モードによる撮影

カスタムセッティング 20：ISO 感度のステップ幅の変更

通常、撮像感度のステップは 1/3 段（EV）ですが、1/2 段または 1 段に変更できます。

設定	番号	内容
1/3 段 （初期設定）	20-3	ステップを 1/3 段に設定します。
1/2 段	20-2	ステップを 1/2 段に設定します。
1 段	20-1	ステップを 1 段に設定します。

カスタムセッティング 21：AE/AF ロックボタン操作の変更

通常、AE/AFロックボタンを押すと、AEロックとAFロックが同時に行われますが、次のように変更できます。

設定	番号	内容
AE/AF 同時ロック （初期設定）	21-0	AE/AFロックボタンを押すと、AEロックとAFロックが同時に行われます。
AE ロックのみ	21-1	AE/AFロックボタンを押すと、AEロックのみが行われます。
AF ロックのみ	21-2	AE/AFロックボタンを押すと、AFロックのみが行われます。
AE ロック維持	21-3	AE/AF ロックボタンを押すと AE ロック状態が維持され、再度AE/AFロックボタンを押すか、シャッターをきると解除されます。

カスタムセッティング 22：レンズの絞りリングによる絞りセット

通常は、**A**（絞り優先オート）、**M**（マニュアル）の場合はサブコマンドダイヤルで絞りをセットしますが、レンズの絞りリングで絞りをセットするように変更できます。ただし、絞りリングのないレンズ（Gタイプレンズ）装着時は、カスタムセッティング22の設定に関わらず、絞りのセットはサブコマンドダイヤルで行います。

「ON」に設定した場合、絞りの表示は1段になり、カスタムセッティング12でコマンドダイヤルの変更を行っても、絞りのセットは絞りリングでのみ可能になります。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	22-0	サブコマンドダイヤルで絞りをセットします。
ON	22-1	レンズの絞りリングで絞りをセットします。

関連項目

P.60　撮像感度
P.74　フォーカスロック撮影
P.90　AEロック撮影
P.84　絞りの調整

カスタムセッティング 23：輪郭強調

撮影画像の輪郭（シャープネス）をノーマル、弱、強、しないのいずれかに変更できます。

設定	番号	内容
ノーマル （初期設定）	23-0	標準的なレベルで輪郭強調を行います。
弱	23-1	輪郭強調の度合いは「ノーマル」よりも弱くなります。
強	23-2	輪郭強調の度合いは「ノーマル」よりも強くなります。
しない	23-3	輪郭強調を行いません。

カスタムセッティング 24：階調補正

撮影画像のコントラストを次のいずれかに変更できます。

設定	番号	内容
オート （初期設定）	24-0	マルチパターン測光の場合に、ノーマル、コントラストLow、コントラストHighから画像に最適なガンマカーブを自動的に選択します。マルチパターン測光以外の場合は、自動的にノーマルになります。
ノーマル	24-1	標準的なガンマカーブです。暗いシーンから明るいシーンまで、様々な撮影状況を再現します。
コントラストLow	24-2	軟調な画像に仕上がるガンマカーブです。晴天時の人物撮影など、顔などの白飛びが気になる場合などに適しています。
コントラストHigh	24-3	硬調な画像に仕上がるガンマカーブです。霞んだ遠景を撮影する場合などに適しています。
ユーザーカスタム	24-CS	Nikon Capture 3（別売）でユーザー定義したガンマカーブを、カメラにダウンロードします。出荷時のガンマカーブはノーマルに設定されています。

ユーザーカスタムについて

ユーザーカスタムは、ニコン キャプチャー 3 カメラコントロールでユーザー定義したガンマカーブをダウンロードします。バージョン10.1.4以前のMac OS XでD1Hをお使いの場合は、ニコン キャプチャー 3 カメラコントロールはご使用になれないため、ユーザー定義することはできません。

関連項目

P.142　Nikon Capture 3

カスタムセッティング 25：連続撮影時の撮影速度

連続撮影時の撮影速度を設定できます。

設定	番号	内容
約 5 コマ／秒（初期設定）	25-CH	連続撮影の際、1 秒間に約 5 コマ撮影します。
約 4 コマ／秒	25-4	連続撮影の際、1 秒間に約 4 コマ撮影します。
約 3 コマ／秒	25-3	連続撮影の際、1 秒間に約 3 コマ撮影します。
約 2 コマ／秒	25-2	連続撮影の際、1 秒間に約 2 コマ撮影します。
約 1 コマ／秒	25-1	連続撮影の際、1 秒間に約 1 コマ撮影します。

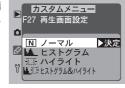
カスタムセッティング 26：連続撮影時の撮影コマ数制限

通常、連続撮影時の最大撮影コマ数は 40 コマですが、1 ～ 40 コマ（RAW モードでは 1 ～ 27 コマ）の間のいずれかに変更できます。

関連項目

P.52　連続撮影

カスタムセッティング 27：再生画面設定

液晶モニタに画像を1コマ再生する場合の、画像の撮影情報にヒストグラム表示やハイライト表示のページを追加します（再生メニュー画面の「再生画面設定」を使用して、同じ設定ができます）。

設定	番号	内容
ノーマル （初期設定）	27-0	撮影情報には、ヒストグラム、ハイライトともに表示されません。
ヒストグラム	27-1	撮影情報にヒストグラム表示のページを追加します。
ハイライト	27-2	撮影情報にハイライト表示のページを追加します。
ヒストグラム＆ハイライト	27-3	撮影情報にヒストグラム表示とハイライト表示のページを追加します。

関連項目

P.115　再生時の操作
P.177　再生画面設定

カスタムセッティング 28：RAW データ記録

通常は画質モードのHIGH選択時のクオリティをRAWに選択した場合、RAW の非圧縮で記録されますが、RAW のロスレス圧縮での記録や、RAWの選択ができないように設定することができます。

- RAW データ型式の画像をパソコンで復元するには、Nikon Capture 3 または Nikon View が必要です。

設定	番号	内容
OFF	28-0	RAW を選択することができません。
非圧縮記録 （初期設定）	28-1	RAW を選択した場合に、RAW の非圧縮で記録を行います。
圧縮記録	28-2	RAW を選択した場合に、RAW のロスレス圧縮で記録を行います。RAW のロスレス圧縮は、画質を損なうことなく、RAW の非圧縮記録に対して約 50 ～ 60% のファイルサイズで保存することが可能です。

関連項目

P.54　画質の設定
P.142　Nikon Capture 3
P.140　Nikon View

カスタムセッティング 29：連番モード設定

連番モードを設定すると、最後に記録を行ったフォルダ番号とファイル番号がカメラに記憶され、次に撮影を行った時には記憶内容にしたがって連番で記録が行われます。コンパクトフラッシュカードの交換を行った時には、カード内にあるフォルダ番号・ファイル番号と記録内容を参照し、常に最も大きなフォルダ番号・ファイル番号を付けて画像の記録を行いますので、複数のカードを使用する場合でも撮影後の画像ファイルの管理が容易に行えます。

記憶されているフォルダ番号・ファイル番号は、連番モードを解除して通常モードに戻した時点でクリアされます。

設定	番号	内容
OFF（初期設定）	29-0	連番モードを無効にします。OFFの状態で撮影を行った場合、フォルダを新たに作成したり、コンパクトフラッシュカードを交換する度に0001からファイル番号が付きます。フォルダ内に画像がある場合は、次の番号からファイル番号が付きます。なお、連番モードをONにしていた状態でOFFにすると、カメラがフォルダ番号とファイル番号を記憶した状態で連番モードを解除します。
ON	29-1	連番モードを有効にします。コンパクトフラッシュカードを交換したり、フォルダを新たに作成しても、画像ファイルには撮影順に連続した番号が付きます。
リセット		カメラが記憶しているフォルダ番号とファイル番号をリセットします。リセットした後に撮影を行うと、次の撮影以降再び0001番から連番が付きます。画像を記録するフォルダ内に画像がある場合は、次の番号から連番が付きます。

ファイル番号について

連番モードがOFFの場合、再生メニュー画面の「フォルダ設定」でフォルダを新規作成すると、その中のファイル番号が0001番から始まります。次の場合は連番モードの設定にかかわらず、ファイル番号が 0001 番に戻ります。

- 保存を行うフォルダ内の撮影コマ数が999枚の状態で撮影を行った結果、自動的に新規フォルダが作成された場合
- 保存を行うフォルダ内に9999という番号のファイルが存在した場合に撮影を行った結果、自動的に新規フォルダが作成された場合

関連項目

P.108　連番モードの設定

カスタムセッティング 30：PC モード時の動作設定

通常は、動作モードがPC（パソコンモード）時にカメラ単体で動作する場合には1コマ撮影を行いますが、連続撮影を行うように変更できます。

設定	番号	内容
1 コマ撮影 （初期設定）	30-S	シャッターボタンを押すたびに、1コマずつ撮影します。
連続撮影	30-C	シャッターボタンを押し続けると、連続撮影を行います。

カスタムセッティング 31：増感モード

ISO設定に関係なく、撮像感度を1600に対して約1段、または約2段増感することができます。露出不足になりやすい暗い場所の撮影や、シャッタースピードを重視したナイタースポーツの撮影に使用すると便利です。ただし、増感モードは撮影した画像データを増感していますので、通常よりざらついた画像に仕上がります。

設定	番号	内容
OFF （初期設定）	31-0	増感を設定できません。
約 1 段増感	31-1	感度1600（ISO換算）に対して、約1段増感します。背面表示パネルの感度表示は Hi-1 と表示されます。
約 2 段増感	31-2	感度1600（ISO換算）に対して、約2段増感します。背面表示パネルの感度表示は Hi-2 と表示されます。

関連項目

P.138　パソコンとの接続
P.60　撮像感度

カスタムセッティング 32：カラー設定

撮影した画像のカラーモードを、モードI（sRGB）またはモードII（Adobe RGB）から選択できます。

設定	番号	内容
モードI（sRGB） （初期設定）	32-0	sRGB色空間に最適化したモードで、記憶色を重視した色再現です。画像処理等を行わなくても記憶色（特に肌色）をきれいに再現します。
モードII（Adobe）	32-1	Adobe RGB色空間に最適化したモードで、素材性を重視した色再現です。sRGBに比べて色域が広いため、画像処理のしやすい画像が得られます。

カラーモードについてのご注意

- カラーマネジメント機能を持たないアプリケーションで画像を開く場合、または印刷する場合には、モードIをおすすめします。
- モードIIの画像には、ICC プロファイルが埋め込まれます。Adobe Photoshop などのカラーマネジメント機能を持ったアプリケーションで画像を開く場合、自動的に正しい色空間を設定することができます。詳細については、アプリケーションの説明書をご覧ください。
- モードIIの画像は Exif や DCF をベースに記録していますが、厳密には Exif、DCF とも異なっています。ExifPrint、市販プリンタなどのダイレクトプリント、Exif/DCF 対応のカメラや機器による画像再生、キオスク端末プリント、およびプリントサービスなどでプリントする場合、モードIをおすすめします。
- モードIIで記録した画像でも、市販プリンタなどのダイレクトプリント、キオスク端末プリント、およびプリントサービスで印刷できることは確認していますが、彩度の低下する場合があります。

関連項目

P.142　Nikon Capture 3

カスタムセッティング 33：色合い調整

撮影する画像に対して色合いの調整が可能です。数値は0～6の7段階で、3がデフォルトです。肌色を基準とした場合、3よりも数値を高くすると黄色みが増し、3よりも数値を低くすると赤みが増します。

カスタムセッティング 34：CF カード未挿入時のレリーズ禁止

初期設定ではカメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合、レリーズはできませんが、入れていない場合でもレリーズできるように設定できます。

- ニコン キャプチャー3カメラコントロールが起動している状態では、記録先がパソコンになるため、ONに設定してもシャッターがきれます。

設定	番号	内容
ON （初期設定）	34-0	カメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合、レリーズはできません。
OFF	34-1	カメラにコンパクトフラッシュカードを入れていない場合でもレリーズ可能となります。

カスタムセッティング 35：背面表示の変更

通常は、背面表示パネルに撮像感度（ISO 換算）が表示されますが、残コマ表示の設定も可能です。

設定	番号	内容
ISO 表示 （初期設定）	35-0	背面表示パネルに撮像感度が表示されます。
残コマ表示	35-1	背面表示パネルに残コマ数が表示されます。感度ボタン ISO を押すと、撮像感度が表示されます。

ツーボタンリセット

ツーボタンリセットにより、簡単に各機能の働きやカメラ各部のセット状態を初期状態に戻すことができます。カメラ操作中にいったんカメラを初期状態に戻したい場合に便利です。

カメラ機能のツーボタンリセット

ファンクションボタン FUNC とサムネイルボタン を 2 秒以上同時に押すと、カメラの各機能が初期設定に戻ります（以下の表をご参照ください）。

設定	初期設定	設定	初期設定
画質モード	ノーマル	プログラムシフト	（解除）
カラー/モノクロ	カラー	シャッタースピードロック	（解除）
感度	ISO200 相当	絞りロック	（解除）
ホワイトバランス	A（オート）	AE ロック	（解除）
ホワイトバランス補正量	± 0	露出補正	± 0.0
AF エリアモード	シングルエリア AF	オートブラケティング	（解除）
フォーカスエリア	中央	シンクロモード	先幕シンクロ
露出モード	P（プログラムオート）		

カスタムセッティングのツーボタンリセット

ファンクションボタン FUNC とサムネイルボタン ▣ を同時に2秒以上押すと、上面表示パネルの CUSTOM が点滅します。CUSTOM が点滅している間に、ボタンから手を離し、再度2つのボタンを押します。カスタムセッティングの変更内容（カスタムA、B、C、Dのうち選択している保存場所の内容のみ）と前述のカメラ機能が、初期状態に戻ります。選択していない保存場所の内容は初期状態に戻りません。

その他のメニュー画面一覧

ここでは、撮影メニュー画面、再生メニュー画面、SETUP メニュー画面を一覧で紹介します。

再生メニュー画面

再生メニュー画面は、すべての動作モードで呼び出すことができます。画像の再生に関する設定をします。

削除

すべての画像、選択した画像の削除、プリント設定ファイルを解除します。画像は削除ボタン で1コマずつ削除することもできます。

P.120

スライドショー

フォルダ内の画像を一定間隔で順番に再生します。

P.124

プロテクト設定

記録した画像を不用意に削除しないように、プロテクトします。

P.123

非表示設定

画像の非表示設定をします。非表示に設定された画像は、再生時に表示されなくなります。

P.126

プリント指定

画像のプリント指定をします。

P.128

フォルダ設定

画像を保存するフォルダの新規作成や再生するフォルダの選択を行います。

P.130

再生画面設定

画像の 1 コマ再生時の撮影情報に、ヒストグラム（階調分布）表示のページや、ハイライト表示のページを追加します。
カスタムセッティングの 27 でも設定可能です。

P.132

撮影メニュー画面

撮影メニュー画面で、1コマ撮影、連続撮影、セルフタイマー撮影、**PC**モードの各設定をします。撮影メニューにはボタン/コマンドダイヤルを使用して呼び出すことができるものもあります。

画質モード設定

画像のクオリティ、画像サイズとカラーまたはモノクロを選択します。ファンクションボタン FUNC に割り当てることにより設定が可能です。

P.54

ホワイトバランス

ホワイトバランスを設定します。ホワイトバランスボタン WB とメインコマンドダイヤルで設定、ホワイトバランスボタン WB とサブコマンドダイヤルで調整することもできます。

P.64

ISO 設定

ISO（換算）感度を設定します。感度ボタンISOとメインコマンドダイヤルを使って、感度を設定することもできます。

P.60

FUNC ボタン設定

撮影モード時の、ファンクションボタン機能を選択します。

P.107

AF エリア

シングルエリアAFモードかダイナミックAFモードに設定します。ファンクションボタン FUNC に割り当てることにより設定が可能です。

P.70

連番モード設定

連番モードを設定します。カスタムセッティングの29でも設定可能です。

P.108

コマンドロック

シャッタースピードと絞りの両方、またはどちらか一方をロックします。ファンクションボタン FUNC に割り当てることにより設定が可能です。

P.88

SETUP 画面

SETUP メニュー画面はカメラの基本的なセットアップやコンパクトフラッシュカードのフォーマットなどを行います。

カードフォーマット

コンパクトフラッシュカードを、ニコンデジタルカメラD1Hで使用できるようにフォーマットします。2つのフォーマットボタン FORMAT を押してフォーマットすることもできます。

P.133

言語（LANG）

メニュー画面やメッセージの表示言語を、5カ国語の中から選択します。

P.28

ビデオ出力

ビデオ出力の方式をNTSCかPALのどちらかに設定します。

P.134

日時設定

日時を設定します。ブラケティングボタン**BKT**と露出補正ボタン の組み合わせでも設定可能です。

P.30

シリアル設定

GPSの接続を可能にします。

P.109

画面の明るさ

液晶モニタの明るさを調整します。

P.134

パワーオフ設定

何の操作も行わないでいると、液晶モニタが自動的に消灯するまでの時間を設定します。カスタムセッティングの18でも設定可能です。

P.135

資料編

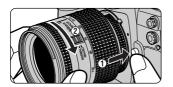
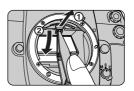
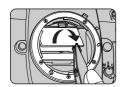
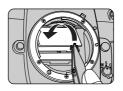
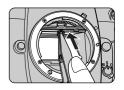
この章の内容

この章では、ニコンデジタルカメラ D1H を末永くご愛用いただくために、カメラの取り扱い方、カメラがうまく作動しない場合の対処法について説明します。アクセサリー一覧やカメラの仕様も掲載しています。

ファインダースクリーンの交換について

ニコンデジタルカメラD1Hは標準でB型マット式ファインダースクリーンを装着しています。建築写真の構図設定などには、別売のD1 用E 型方眼マット式スクリーンを使用すると便利です（P.192）。

ファインダースクリーンの交換法

1 電源スイッチをOFFにして、レンズを取り外します。スクリーン交換レバーを専用ピンセットで手前に引きます。ファインダースクリーンが枠ごと下がります。

2 ファインダースクリーンの突起部を専用ピンセットではさんで取り出します（スクリーン周辺に傷を付けないようにご注意ください）。新たに装着するファインダースクリーンの突起部を専用ピンセットではさんで枠の上に載せます。カチッと音がするまで枠を押し上げ、ファインダースクリーンを固定します。

ミラーやファインダースクリーンの表面に手を触れないでください。

D1、D1x、D1H用のファインダースクリーンをご使用ください。

クリーニングについて

カメラ本体、レンズ、ミラー、ファインダー、液晶モニタのクリーニングは、以下の手順で行ってください。

カメラ本体	ほこりや糸くずをブロアーで払い、柔らかい乾いた布で軽く拭きます。海辺でカメラを使用した後は、砂や塩を真水で湿らせた布で軽く拭き取り、よく乾かします。
レンズ・ミラー・ファインダー	ガラスは傷つきやすいので、ほこりや糸くずをブロアーで払います。スプレー缶式のブロアーの場合は、缶を傾けずにご使用ください（中の液体が気化されずに吹き出し、レンズ・ミラー・ファインダーを傷つけることがあります）。指紋や油脂などの汚れは、柔らかい布にレンズクリーナーを少量付けて、ガラスを傷つけないように注意して拭きます。
液晶モニタ	ほこりや糸くずをブロアーで払います。指紋や油脂などの汚れは、表面を柔らかい布かセーム革で軽く拭き取ります。強く拭くと、破損や故障の原因となることがありますのでご注意ください。

カメラなどの点検サービスについて

カメラは精密機械ですので、１〜２年に１度は定期点検を、３〜５年に１度はオーバーホールされることをおすすめします（有料）。

- 特に業務用にご使用になる場合は、早めに点検整備を受けてください。
- 点検整備を依頼される際は、より安心してご愛用いただけるよう一緒にお使いのレンズやスピードライトなども併せて点検依頼されることをおすすめします。

液晶モニタが破損した場合は、ガラスの破片で怪我をしないように、また中の液晶を皮膚に付けたり目や口に入れたりしないようにご注意ください。

まれに、ブロアーや布から起きた静電気で、表示パネルが明るくなったり暗くなったりすることがありますが、故障ではありません。すぐに通常の状態に戻ります。

ローパスフィルターの点検

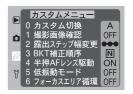
撮像素子 CCD の表面には、モアレを防ぐローパスフィルターが装着されています。ローパスフィルターは、直接CCDにゴミが付くのを防ぎますが、ローパスフィルター自体にゴミやほこりが付いていると、撮影条件により、画像に影が映ることがあります。その場合は、ローパスフィルターのクリーニングが必要になります。

フィルターを見て点検する（別売の AC アダプターが必要）

1 電源スイッチを OFF にして、AC アダプター（別売）を接続します。

- クリーニング中の電池切れによりミラーダウンしたり、シャッターが閉じてカメラを破損したりしないように、ACアダプタを接続しないとミラーアップしません。

2 レンズを取り外し、電源スイッチを ON にします。

3 メニューボタンを押しながら、マルチセレクターの▲/▼ を押してカスタムメニュー画面を選択します。

4 マルチセレクターの▶を押すと、選択が実行されます。マルチセレクターの▲/▼ を押してカスタムセッティング8「クリーニングミラーアップ」を選択します。マルチセレクターの▶を押すと、選択が実行されます。

5 「クリーニングミラーアップ」の「ON」を選択し、マルチセレクターの▶を押して実行します。ミラーが上がり、シャッターが開いた状態になります。

6 ローパスフィルターに光が当たるようにカメラを持ち、ゴミやほこりが付いていないかどうかを点検します。ローパスフィルターにゴミやほこりが付いていない場合は、「クリーニングミラーアップ」を表示して「OFF」を選択します。ミラーが下がりシャッターが閉じます。

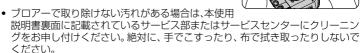
ローパスフィルターのクリーニング方法

ローパスフィルターのクリーニングをする場合は、必ず以下の手順で行ってください(ローパスフィルターはとても傷つきやすい部品です。できる限り本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください)。

1 「フィルターを見て点検する」1～5の手順で、ミラーを上げます。

- この手順を行うには、別売のACアダプターが必要です。ACアダプターがない場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。
- クリーニング中にACアダプタを絶対に抜かないでください。シャッターなどの破損の原因となります。

2 ローパスフィルターに付いたゴミやほこりをブロアーで払います。

- ブラシの付いていないブロアーをご使用ください。ブラシでローパスフィルターの表面に傷が付くことがあります。
- ブロアーで取り除けない汚れがある場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにクリーニングをお申し付けください。絶対に、手でこすったり、布で拭き取ったりしないでください。

3 「フィルターを見て点検する」3～4の手順で「クリーニングミラーアップ」を表示して、「OFF」を選択します。ミラーが下がりシャッターが閉じます。

4 電源スイッチをOFFにして、レンズまたはボディキャップを付けます。最後にACアダプターをカメラから取り外します。

使用できるレンズ

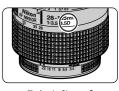
このカメラには、CPU レンズ（IX ニッコールを除く）のご使用をおすすめします。特にGまたはDタイプレンズを装着すれば、カメラの機能が最大限に使用できます。使用できるレンズは次の通りです。

	レンズ	フォーカスモード			露出モード		測光モード		
		オートフォーカス	フォーカスエイド	マニュアル	P S	A M	マルチパターン測光 3D-RGB	マルチパターン測光 RGB	中央部重点測光/スポット測光※1
CPUレンズ※5	Gタイプ AF レンズ、Dタイプ AF レンズ、AF-I レンズ、AF-S レンズ	●	●	●	●	●	●	–	●
CPUレンズ※5	PC マイクロ 85mm F2.8D ※2	–	●※3	●	–	●※4	●	–	●
CPUレンズ※5	AF-I テレコンバーター※6	●※7	●※7	●	●	●	●	–	●
CPUレンズ※5	Gタイプ・Dタイプ以外の AF レンズ（F3AF 用を除く）	●※8	●※8	●	●	●	–	●	●
CPUレンズ※5	Ai-P ニッコール	–	●※9	●	●	●	–	●	●
非CPUレンズなど※10	Ai-S、Ai、シリーズ E レンズ、改造 Ai ニッコール	–	●※9	●	–	●	–	–	●
非CPUレンズなど※10	メディカル 120mm f/4	–	●	●	–	●※11	–	–	–
非CPUレンズなど※10	レフレックスニッコール	–	–	●	–	●	–	–	●
非CPUレンズなど※10	PC ニッコール	–	●※3	●	–	●※12	–	–	●
非CPUレンズなど※10	Ai-S、Ai テレコンバーター	–	●※7	●	–	●	–	–	●※13
非CPUレンズなど※10	ベローズ PB-6 ※14	–	●※7	●	–	●※15	–	–	●
非CPUレンズなど※10	オート接写リング（PK-11A.12.13.PN-11）	–	●※7	●	–	●	–	–	●

※ 1　CPU レンズ装着時はフォーカスエリアの選択によりスポット測光エリアの移動が可能（ P.79）。
※ 2　カメラの測光モード、および調光制御機能は、あおり操作（シフト、ティルトとも）を行っているとき、または開放絞り以外に絞りがセットされているときには正しく機能しません。
※ 3　あおり操作を行っていない場合のみ可能。
※ 4　露出モードはマニュアル（M）で使用可能。
※ 5　IX ニッコールは装着できません。
※ 6　AF-S レンズ、AF-I レンズ専用（ただし AF-S17 〜 35mm f/2.8D、AF-S 28 〜 70mm f/2.8D は使用不可）。
※ 7　合成絞りが f/5.6 以上明るい場合に使用可能。
※ 8　AF80 〜 200mm f/2.8S　AF35 〜 70mm f/2.8S　AF28 〜 85mm f/3.5 〜 4.5S（New）AF28 〜 85mm f/3.5 〜 4.5S レンズを使用し、ズームの望遠側かつ至近距離で撮影した場合、ファインダースクリーンのマット面の像とオートフォーカスの合焦表示が合致しない場合があります。このような場合は、マニュアルフォーカスによりファインダースクリーンのマット面を利用してピントを合わせて撮影してください。
※ 9　開放絞りが f/5.6 以上明るいレンズのみ使用可能。
※ 10　一部装着不可能なレンズ（ P.190）があります。
※ 11　露出モードはマニュアル（M）で、シャッタースピードは 1/125 秒以下で使用可能。
※ 12　絞り込み測光で使用します。露出モードが絞り優先オート（A）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、AE ロック後アオリを行ってください。露出モードがマニュアル（M）の場合はレンズ側で絞りプリセットを行い、アオる前に測光して露出を決定してください。
※ 13　Ai 28〜85mm f/3.5〜4.5S　Ai 35〜105mm f/3.5〜4.5S　Ai 35〜135mm f/3.5〜4.5S　AF-S80 〜 200mm f/2.8D レンズの組み合わせによっては、露出補正を行う必要があります。詳細はテレコンバーターの使用説明書をご覧ください。
※ 14　オート接写リングを併用すると装着できます。カメラの姿勢、位置により PB-6D が必要です。
※ 15　絞り込み測光で使用可能、露出モードが絞り優先オート（A）の場合はベローズ側で絞り込みを行い、測光後撮影してください。

- オート接写リング PK-1、PK-11、K1 リング、オートリング BR-4 は、レンズの CPU 信号接点などを破損しますのでご使用になれません。

CPU レンズ、G タイプ、D タイプレンズの見分け方

CPU レンズにはCPU 信号接点があります。その中でGタイプレンズには、レンズに「G」マークが、D タイプレンズには、レンズに「D」マークがあります。

CPU レンズ

G タイプレンズ

D タイプレンズ

- G タイプレンズには、絞りリングがありません。このため、このカメラに使用する場合、従来の絞りリングがあるレンズのように、絞りリングを最小絞り（最も数値の大きい絞り）にセットする必要がありません。

使用できないレンズ

下記の非CPU レンズは使用できません。無理に装着しようとすると、カメラやレンズを破損しますのでご注意ください。

- AF テレコンバーター TC-16AS
- Ai 改造をしていないニッコールレンズ（Ai 方式以前の連動爪を使用するタイプ）
- フォーカシングユニット AU-1 を必要とするレンズ（400mm f/4.5、600mm f/5.6、800mm f/8、1200mm f/11）
- フィッシュアイ（6mm f/5.6、8mm f/8、OP10mm f/5.6）
- 旧21mm f/4
- K2 リング
- ED180 ～ 600mm f/8（製品 No.174041 ～ 174180）
- ED360 ～ 1200mm f/11 （製品 No.174031 ～ 174127）
- 200 ～ 600mm f/9.5（製品 No.280001 ～ 300490）
- F3AF 用（80mm f/2.8、200mm f/3.5、テレコンバーター TC-16S）
- PC28mm f/4（製品 No.180900 以前の製品）
- PC35 mm f/2.8（製品 No.851001 ～ 906200）
- 旧PC35 mm f/3.5
- 旧レフレックス 1000mm f/6.3
- レフレックス 1000mm f/11（製品 No.142361 ～ 143000）
- レフレックス 2000mm f/11（製品 No.200111 ～ 200310）

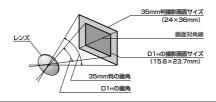
レンズの焦点距離と画角について

35mm判カメラの撮影画面サイズは24×36mmですが、デジタルカメラD1Hでは15.6×23.7mmです。このように、35mm判カメラとD1Hでは、画面サイズが異なりますので、同じ焦点距離のレンズを使用して同じ距離から撮影した場合でも、画角（フィルム面に移し込む被写体の大きさや写り込む範囲）が変化します。

35mm判カメラの撮影画面サイズは、対角線の長さでD1Hの撮影画面サイズの約1.5倍です。したがって、D1Hに35mm判カメラ用レンズを装着した場合、その焦点距離はレンズに表記された数値に1.5を掛けた値に相当します。

カメラ	35mm判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35mm判カメラ	17	20	24	28	35	50	60	85
D1H	25.5	30	36	42	52.5	75	90	127.5

カメラ	35mm判カメラ換算のおおよその焦点距離（mm）							
35mm判カメラ	105	135	180	200	300	400	500	600
D1H	157.5	202.5	270	300	450	600	750	900

非CPUレンズについて

非CPUレンズを使用する場合は、次の設定でご使用ください。

測光モード：中央部重点測光またはスポット測光

露出モード：絞り優先オートAまたはマニュアルM

これ以外に設定した場合は、表示パネルの露出モード表示（PまたはS）が点滅して表示すると同時に、自動的に露出モードを絞り優先A、測光モードを中央部重点測光に切り換えて制御します（ファインダー内にはAが点灯します）。また、コマンドダイヤルによる絞りのセットはできなくなり、表示パネルとファインダー内の絞り表示もF- -となりますので、絞りのセットと確認はレンズの絞りリングで行ってください。

画角について

画角とは、写し込む被写体の大きさや写り込む範囲を表します。広角ほど広く、望遠ほど狭くなります。

その他の別売アクセサリー

このカメラには撮影領域を拡げる様々なアクセサリーが用意されています。詳しくは販売店にお問い合わせください。

リチャージャブルバッテリー EN-4

デジタルカメラD1、D1x、D1H用電源として、ニッケル水素充電池リチャージャブルバッテリーEN-4が用意されています。EN-4は、クイックチャージャーMH-16を使用して充放電が行えます。

クイックチャージャー MH-16

リチャージャブルバッテリー EN-4 専用の充放電器で、放電したリチャージャブルバッテリー EN-4 を約 90 分でフル充電します。

クイックチャージャー MH-17

リチャージャブルバッテリー EN-4 専用の充電器で、自動車のシガーソケットから電源を取ります。約 160 分でフル充電が完了します。

AC アダプタ EH-4

デジタルカメラD1、D1x、D1H用のACアダプタです。家庭用電源のAC100V、周波数 50 ～ 60 ヘルツに対応しています。

ファインダースクリーン

D1Hファインダースクリーンとしては、F100カメラ用のB型クリアマットスクリーンIIIとD1専用E型方眼マットスクリーンが使用できます。フォーカスフレームはファインダースクリーン上に刻印されていません。

B マット式		D1Hに標準装備されているスクリーンです。
E 方眼マット式		B 型マットスクリーンに方眼を入れたもので、撮影の際の構図決定などに役立ちます。特にPC ニッコールを使用する場合に、このスクリーンを用いると便利です

コンパクトフラッシュカードEC-CFシリーズ

D1Hに装着し、撮影したデータ画像を記録するメディアです。小型軽量で携帯性に優れています。

● 使用できるコンパクトフラッシュカードおよびマイクロドライブ

本カメラの画像データ記録媒体としては、ニコンコンパクトフラッシュカードEC-CFシリーズをお使いください。なお、以下の他社製コンパクトフラッシュカードおよびマイクロドライブにつきましては動作確認をいたしております。

- SanDisk社製コンパクトフラッシュカード：
  SDCFB-16、SDCFB-32、SDCFB-48、SDCFB-64、SDCFB-96、SDCFB-128
- LEXAR MEDIA社製コンパクトフラッシュカード：
  10X USBシリーズ　128MB、160MB
  8X USBシリーズ　8MB、16MB、32MB、48MB、64MB、80MB
  4X USBシリーズ　8MB、16MB、32MB、48MB、64MB、80MB
- IBM社製マイクロドライブ：
  DSCM-10512、DSCM-11000

※ 上記コンパクトフラッシュカードおよびマイクロドライブの機能、動作の詳細、動作保証等については、メーカーにご相談ください。

✔ アクセサリーの購入について

ニコンデジタルカメラD1Hには、ニコン製のアクセサリーを使用することをおすすめします。仕様が異なる他社製品を使用すると、カメラの故障や不具合の原因となることがあります。他社製のアクセサリーを使用した場合の不具合については、補償の対象となりません。ご了承ください。

✔ コンパクトフラッシュカード使用上の注意

1. カメラの使用直後にはコンパクトフラッシュカードが熱くなっている場合がありますので、ご注意ください。
2. 未使用のカードは必ずフォーマット（初期化）してからご使用ください。
3. コンパクトフラッシュカードのフォーマット中は、絶対にカメラからカードを取り出さないでください。カードが使用できなくなることがあります。
4. コンパクトフラッシュカードへ記録･削除が行われているときや、パソコンとの通信時には、以下のことは行わないでください。記録されているデータの破損やカードの故障の原因となります。
   - カードの着脱をする
   - 電源をOFFにする
   - 電池を取り出す
   - ACアダプタを抜く
5. 端子部に手や金属を触れないでください。
6. コンパクトフラッシュカードに無理な力を加えないでください。破損のおそれがあります。
7. 曲げたり、落としたり、衝撃を与えたりしないでください。
8. 熱、水分、直射日光を避けてください。

PC カードアダプタ EC-AD1

コンパクトフラッシュカードと組み合わせて、PC Card Standard-ATAに準拠したPCカードとして使用できます。コンパクトフラッシュカードの画像を、PCMCIAカードスロットを装備したパソコンに直接読み込めます。

アンティフォグ　ファインダーアイピース DK-14

寒いときや湿度が高い場合など、ファインダーのくもりの発生を防止し、クリアなファインダー像を提供します。

接眼目当て DK-2

接眼部に取り付けて使用する、ゴム製の目当てです。ファインダー視野がよりはっきり確認でき、目の疲れを軽減します。

接眼補助レンズ

遠視、近視の方のための補助レンズで、接眼部にねじ込むだけで簡単に取り換えができます。－３、－２、０、+1、+2 ディオプターの５種類が用意されていますが、いずれもボディとの合成視度で補助レンズ単体の視度ではありません。視度補正は個人差が大きいので店頭で実際に付けてお選びください。D1H では、視度調節機能が内蔵されております（－３～＋ 1m $^{-1}$）ので、この範囲外の視度補正が必要な時にご使用ください。

アングルファインダー DR-4/ アイピースアダプター DK-7

アングルファインダーDR-4をカメラの接眼部に取り付けると、撮影レンズと直角の方向（水平方向に向けたカメラの真上など）からファインダー内の画像を確認できます。アイピースアダプター DK-7 は D1、D1X、D1H にアングルファインダー DR-3 やマグニファイアー DG-2 を取り付けるためのアダプターです。

フィルター

- ニコンフィルターは、ねじ込み式、平枠式、および後部交換式の３方式に大別されます。D1、D1X、D1Hの場合、R60 を除いて実用上露出倍数を考慮する必要はありません。R60を使用する場合は、+1 段の露出補正をしてください。また、市販の特殊フィルター等を使用する場合は、オートフォーカスやフォーカスエイドが行えないことがありますのでご注意ください。
- カメラ測光系の特性上、従来の偏光フィルター（Polar）は使用できません。円偏光フィルター（C-PL）をご使用ください。
- フィルターをレンズ保護のために常用する場合は、L37C、またはNCフィルターのご使用をおすすめします。
- 逆光撮影や、輝度の高い光源を画面に入れて撮影する場合は、フィルターによって画像上にゴーストが発生する恐れがあります。このような場合は、フィルターをはずして撮影することをおすすめします。

ニコンスピードライト SB-28DX

- ニコンスピードライト SB-28DX はガイドナンバー 50（マニュアル時、ズームヘッド 35mm、ISO200・m 表示、20℃）のスピードライトで、通常は単三アルカリ乾電池を４本使用しますが、外部電源（別売）としてSD-6、7、8、パワーブラケット SK-6 もご使用になれます。
- D-3D-マルチBL調光が可能で、画面内に極端に反射率が高い物がある場合や、背景が大きく抜けている場合でも、背景と被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現します。また、暗いところでもカメラのオートフォーカスによるピント合わせを可能にするアクティブ補助光を内蔵しています。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を備えています。
- スローシンクロ、後幕シンクロ、外部自動調光、マニュアル発光、マルチフラッシュ発光、FP 発光など、多彩なスピードライト撮影が簡単に行えます。

スピードライト SB-28DX を使用する場合のご注意

スピードライトSB-28DX に以下のアクセサリーを使用する場合、接続部分の形状が違う新・旧２ タイプがありますのでご注意ください。

- 積層パック SD-6/ 単２ パック SD-7

  別売の積層パック SD-6 、単２ パック SD-7 には、付属の電源コードの形状によって、新・旧2タイプがあります。旧タイプに付属している電源コードSC-16 は、形状的にSB-28DX に接続できません。新タイプに付属している接続可能な電源コード SC-16A を単体販売しておりますので、そちらを購入されれば旧タイプも接続可能になります。
- パワーブラケット SK-6

  パワーブラケット SK-6 には、接続部分の形状の異なる新・旧２ タイプがあります。旧タイプは形状的にSB-28DX に接続できませんので、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにご相談ください。
- パワーアシストパック SD-8

  パワーアシストパック SD-8 は形状的に SB-28DX に接続できません。本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにご相談ください。なお、新タイプの SD-8A は接続可能です。

ニコンスピードライト SB-80DX

- ニコンスピードライト SB-80DX はガイドナンバー 53（マニュアル時、ズームヘッド 35mm、ISO200・m 表示、20℃）の高性能スピードライトです。電源は単三アルカリ乾電池を４本使用しますが、外部電源（別売）としてSD-7、8A、パワーブラケット SK-6 もご使用になれます。
- フラッシュヘッドが上方向90˚から下方向7˚、左方向180˚から右方向90˚の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。
- 近接撮影やバウンス撮影など、広い照射角での撮影時にはワイドパネルとバウンスアダプターを併用すると、スピードライト光が拡散され、手前の被写体と背景がバランスよく照明された、ソフトな雰囲気の写真が撮れます。
- 周囲が暗い場合でも操作しやすいように、表示パネルにイルミネーターを備えています。
- カスタムセッティングにより、各種の設定が効率よく行えます。

ニコンスピードライト SB-50DX

- ニコンスピードライト SB-50DX はガイドナンバー 32（マニュアル時、ズームヘッド 35mm、ISO200・m 表示、20℃）の小型高性能スピードライトです。電源は 3V リチウム電池 CR123A タイプを 2 本使用します。
- D-3D-マルチBL調光が可能で、画面内に極端に反射率が高い物がある場合や、背景が大きく抜けている場合でも、背景と被写体の明るさのバランスを考慮してより自然に表現します。
- レンズの焦点距離に応じて照射角を変化させるオートパワーズーム機能を備えています。さらに、内蔵ワイドパネル装着時には、照射角が 14mm になります。
- フラッシュヘッドが上方向90°から下方向18°の範囲で回転し、バウンス撮影や近接撮影を簡単に行うことができます。

10 ピンターミナルに接続するアクセサリー

- 10ピンターミナルに下記のアクセサリーを接続することにより、遠隔撮影、無人撮影、パソコンとの接続などを行えます。
- 使用しない場合は、必ず10ピンターミナルにキャップをしてください。ゴミ等が入ると、誤作動の原因となることがあります。

- 10ピンターミナルへの接続は図のようにペンタプリズム側に傾け指標を合わせて接続します。

名称	用途	長さ
リモートコード MC-20	離れた位置からカメラのレリーズ操作ができるので、カメラブレを防ぎたい撮影などに便利です。また、「LONG EXP」や、「TIME」モードを備えており、レリーズ中は1秒ごとに電子音で知らせます。	約 80 cm
延長コード MC-21	MC-20、MC-22、MC-23、MC-25、MC-30に併用可能な延長コードです。	約3 m
リモートコード MC-22	コード先端にある端子（青、黄、黒）に特殊装置を接続すると、音や信号による遠隔操作が可能です。	約1 m
接続コード MC-23	D1Hを2台同時に作動させるための接続コードです。	約 40 cm
変換コード MC-25	2ピンターミナル用のラジオコントロールセットMW-2や、インターバロメーターMT-2、ルミコントロールセットML-2などを、10ピンターミナルに接続するための変換コードです。	約 20 cm
リモートコード MC-30	カメラブレを避けたい場合や、カメラから離れてレリーズ操作をしたい場合に便利です。また、長時間露出（バルブ）撮影用に、シャッターボタンをロックする機能も備えています。	約 80 cm
ルミコントロール セット ML-2	最大で約100m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。複数のML-2を組み合わせると、さらに離れた距離からの遠隔操作が可能です。D1、D1x、D1Hで使用するには、変換コードMC-25が必要です。	—
ルミコントロール セット ML-3	最大で約8m離れたところから、信号による遠隔操作が行えます。	—

故障かな？と思ったら（修理を依頼される前に）

表示パネル、ファインダー内表示に警告表示が点灯または点滅した場合は、修理を依頼される前に、次のことをご確認ください。

こんなとき		原因	対処方法	参照
上面表示パネル	ファインダー内			
FE E（点滅）	FE E（点滅）	レンズの絞りリングが最小絞りになっていません。	レンズの絞りリングを最小絞りにしてください。	P.25
（電池マーク）	※1	電池容量がわずかです。	予備の電池を用意してください。	P.23
（電池マーク）	※2	電池が消耗しています。	電池を交換してください。	P.23
F--	F--	非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていません。	CPUレンズ（IXニッコールを除く）を使用してください。ただし、**A**、**M**モードにセットして、レンズの絞りリングで絞りをセットすれば撮影できます。	P.24、P.84～87
	▶ ◀（点滅）	オートフォーカスでピント合わせができません。	マニュアル（手動）でピント合わせを行ってください。	P.77
HI	HI	被写体が明るすぎてカメラの制御範囲を超えています。	・**P**モード時はND（光量調節用フィルターを使用してください（**S**、**A**モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ・**S** モード時はシャッタースピードをより高速側にセットしてください。 ・**A** モード時はより大きい数値の絞りにしてください。	P.80～85

※1：ファインダー内表示は各操作ボタンから指を離すと消灯します。また、ファインダー内表示中は測光モード表示（▣/◎/⊡）が点滅します。

※2：ファインダー内および背面表示パネルはすべての表示が消灯します。

こんなとき 上面表示パネル	こんなとき ファインダー内	原因	対処方法	👁
Lo	Lo	被写体が暗すぎて、カメラの制御範囲を超えています。	・**P**モード時はスピードライトを使用してください（**S**、**A**モード時に下記の操作を行っても警告表示が消えない場合も同様に対応してください）。 ・**S**モード時はシャッタースピードをより低速側にセットしてください。 ・**A**モード時はより小さい数値の絞りにしてください。	P.80～85、P.99～106
bulb（点滅）	bulb（点滅）	**S**モード時にシャッタースピードが bulb にセットされています。	bulb 以外のシャッタースピードにセットするか、**M**モードにセットしてください。	P.82、P.86
Pまたは**S**（点滅）	**A**	非CPUレンズが装着されているか、またはレンズが装着されていない状態で**P**、**S**モードにセットされています。	非CPUレンズが装着されている場合は、**A**または**M**モードにセットしてください。	P.84、P.86
セットしたシャッタースピード（点滅）	500	**S**、**M**モードでスピードライト使用時に、シャッタースピードが同調スピードより高速にセットされています。	シャッタースピードは自動的に1/500秒に切り換わります。	P.106
	⚡（点滅）	発光直後の約3秒間の点滅は、フル発光して露出不足の恐れがあります。	撮影距離、絞り、調光範囲などを再度確認して、撮影し直してください。	P.106
Err（点滅）	Err（点滅）	撮影中に何らかの異常を検出しました。	再度シャッターボタンを押してください。この操作で警告表示が解除されなかったり、頻繁に警告が表示される場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターにご相談ください。	P.213
👁（点滅）		赤目軽減モードまたは赤目軽減スローシンクロモードが設定され、赤目軽減発光が不可能なスピードライトが装着されています。	赤目軽減発光が可能な専用スピードライトをご使用ください。	P.103

液晶モニタ	表示パネル	原因	対処法	参照
カードが入っていません	[-E-]	コンパクトフラッシュカードが入っていないか、正しくセットされていません。	コンパクトフラッシュカードを正しくセットしてください。	P.26
このカードは使用できません	[CHA]	・コンパクトフラッシュカードへのアクセス異常です。 ・画像ファイル名の番号のオーバーフローです。 ・カードのフォーマットが異なります。	・D1H用のコンパクトフラッシュカードであるかどうかを確認してください。 ・コンパクトフラッシュカードがこわれている可能性があります。本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターまでご連絡願います。 ・コンパクトフラッシュカードのフォーマットが異なる可能性があります。再フォーマットしてください。	P.26、P.133、P.193、P.213
フォーマットされていません	[For]	・コンパクトフラッシュカードが正しくフォーマットされていません。	・コンパクトフラッシュカードのフォーマットを行ってください。 ・正しくフォーマットされたコンパクトフラッシュカードに交換してください。	P.26
	CARD [REM 0]	コンパクトフラッシュカードに画像を記録する容量がないか、カメラが扱えるファイル数をオーバーした場合に左のエラーが表示されます。	・カードに記録されている画像を削除して、カードに画像ファイルが保存可能な状態にしてください。必要な画像はパソコンなどに転送してバックアップしてください。 ・新しいカードに交換してください。	P.26、P.119、P.138～144

液晶モニタ	表示パネル	原因	対処法	
撮影画像がありません		・撮影画像がありません。 ・再生するフォルダの指定に問題があります。	・画像が記録されているコンパクトフラッシュカードを入れてください。 ・再生するフォルダに指定を変更します。	P.26、P.130
表示可能な画像がありません		記録されている画像が非表示設定されているために表示されません。	再生メニュー画面の「非表示設定」で、画像の非表示設定を解除してください。	P.126
このファイルは表示できません。		・アプリケーションソフトで編集された画像など、DCF規格の画像ファイルではないため、再生できません。 ・画像ファイルに異常があるため再生できません。	アプリケーションソフトで編集された画像を上書き保存しないでください。	P.138～144

当社推奨コンパクトフラッシュカード以外での動作の保証は致しかねます。

電子制御カメラの特性について

きわめて希なケースとして、表示パネルに異常な表示が点灯したままカメラが作動しなくなることがあります。原因として、外部から強力な静電気が電子回路に侵入したことが考えられます。万一このような状態になった場合は、電源スイッチをOFFにして電池を入れ直し、電源スイッチをONにしてカメラを作動させてみてください。

主な仕様

項目	仕様
型式	レンズ交換式一眼レフレックスタイプデジタルカメラ
動作環境	
温度	0～40℃
湿度	85%以下（結露しないこと）
有効画素	270万画素
撮像素子	23.7 × 15.6 mm サイズ原色 CCD 総画素数：274 万画素
記録画素数	2000 × 1312 ピクセル
撮像感度	ISO 200 ～ 1600 相当
記録	
画像モード	・HIGH 選択時：YCbCr-TIFF（8-bit）、RGB-TIFF（8-bit）、12 ビットRAW（非圧縮）12ビット圧縮RAW（ロスレス圧縮、非圧縮に対して約 50%～ 60%圧縮） ・FINE、NORMAL、BASIC：JPEG baseline 準拠（圧縮率：約 1/4、約 1/8、約 1/16）
記録媒体	コンパクトフラッシュ™カード（Type I/II対応)、マイクロドライブ™（512MB、1GB）対応
記録枚数（96 MB カード時）	HIGH/RAW（非圧縮） 23 HIGH/YCbCr-TIFF 17 HIGH/RGB-TIFF 12 FINE（圧縮率 1/4） 66 NORMAL（圧縮率 1/8） 132 BASIC（圧縮率 1/16） 265
動作モード	S　1 コマ撮影 C　連続撮影：約 5 コマ / 秒、最大 40 コマ連写可能 ⏲　セルフタイマー撮影：遅延時間設定可能 PLAY　再生専用モード PC　パソコンモード：PC からの指示により動作、データ転送 S、C、⏲ 時にワンタッチ再生可能
ホワイトバランス	・オート（1005 画素 CCD による TTL ホワイトバランス） ・マニュアル 6 種（それぞれ補正が可能） ・プリセット（3 種設定可能）
再生機能	1 コマ再生、サムネイル再生（4/9 分割）、拡大再生、スライドショー、ヒストグラム表示、ハイライト表示
データ消去	カードフォーマット、全コマ消去、選択コマ消去
ビデオ出力	NTSC/PAL 切り換え可能
外部インターフェース	IEEE 1394（400 Mbps※）、GPS 対応 RS-232C（GPS ユニットは当社では販売しておりません） ※ 規格上の速度

交換レンズ	
GまたはDタイプレンズ	フル機能使用可（IXニッコールを除く）
PCマイクロニッコール85mm/f2.8D	オートフォーカスおよび露出モードの一部を除く機能使用可
GまたはDタイプ以外のAFレンズ	3D-RGBマルチパターン測光、D-3DマルチBL調光を除く機能使用可（F3AF用を除く）
AI-Pニッコール	3D-RGBマルチパターン測光、D-3DマルチBL調光およびオートフォーカスを除く機能使用可
非CPUレンズ	露出モードはA、Mモードで可（P、SはAに自動切り換え）、測光モードは中央部重点測光およびスポット測光モードで可（マルチパターン測光は中央重点測光へ自動切り換え）、開放F値がf/5.6より明るい場合フォーカスエイド可
レンズマウント	ニコンFマウント（AFカップリング、AF接点付）
実撮影画角	レンズ表記の約1.5倍の焦点距離レンズに相当
ファインダー	
型式	アイレベル式ペンタプリズム使用、アイピースシャッター内蔵、視度調節機構内蔵（－3～＋1 m^{-1}）
アイポイント	22 mm（－1.0 m^{-1}のとき）
ファインダースクリーン	B型クリアマットスクリーンⅢ、他に別売のE型（方眼マット式）と交換可能
ファインダー視野率	上下左右とも約96%（対実画面）
ファインダー倍率	約0.8倍（50 mm F 1.4レンズ使用時・∞・－1.0 m^{-1}のとき）
ミラー	クイックリターン式
レンズ絞り	瞬間復元式、プレビューボタン付
オートフォーカス	TTL位相差検出方式、マルチCAM1300モジュールにより検出、検出範囲：EV－1～＋19（ISO100換算、常温20°C）

主な仕様 －つづき－

項目	仕様
レンズサーボ	シングルAFサーボ（S）、コンティニュアスAFサーボ（C）およびマニュアルフォーカス（M）：（S）、（C）では被写体条件により自動的に予測駆動フォーカスに移行
フォーカスエリア	5箇所のフォーカスエリアから1箇所を選択可能
AFエリアモード	シングルエリアAFモード、ダイナミックAFモード（至近優先ダイナミックAF機能付）
フォーカスロック	AE/AFロックボタン、またはシングルエリアAF（S）時にシャッターボタン半押しにて可能
測光方式	TTL開放測光方式、マルチパターン測光／中央部重点測光／スポット測光の切り換え可能
マルチパターン測光	GまたはDタイプニッコール使用時は1005画素CCDによる3D-RGBマルチパターン測光が可能、GまたはDタイプ以外のCPU内蔵ニッコール使用時は1005画素CCDによるRGBマルチパターン測光が可能
中央部重点測光	約φ8mm相当を測光（中央部重点度約75%）
スポット測光	約φ3mm相当を測光（全画面の約2%）、CPU内蔵ニッコール装着時はフォーカスエリアに連動して測光位置可動
測光範囲	EV0～20（3D-RGBマルチパターン測光、中央部重点測光） EV2～20（スポット測光） （常温20℃、ISO100換算、F1.4レンズ）
露出計連動	CPU連動方式、AI方式併用
露出モード	**P** プログラムオート（プログラムシフト可能） **S** シャッター優先オート **A** 絞り優先オート **M** マニュアル
露出補正	±5段の範囲で1/3、1/2、1段ステップで補正可能
AEロック	AE/AFロックボタンによるBVメモリー方式
オートブラケティング	撮影コマ数：2コマまたは3コマ、補正ステップ：1/3、1/2、1段ステップで可能
シャッター	CCD電子シャッターと機械式シャッターを併用
シャッタースピード	30～1/16000秒、bulb

スピードライト	シンクロ同調	X接点（半導体方式）、1/500秒以下の低速シャッタースピードでスピードライトと同調
	スピードライトの調光方式	TTL 自動調光５分割センサー 一体型 IC による以下の TTL 調光制御 - SB-80DX、SB-50DX または SB-28DX と G または D タイプレンズとの組み合わせにより D-3D- マルチ BL 調光可能 - SB-80DX、SB-50DX または SB-28DX と G または D タイプ以外の CPU レンズとの組み合わせにより D- マルチ BL 調光可能 - SB-80DX、SB-50DX またはSB-28DXと非CPUレンズとの組み合わせ時は、中央部重点測光による簡易 D-TTL-BL 調光が可能 絞り連動自動調光：SB-80DX、SB-50DX または SB-28DX と CPU レンズとの組み合わせ時 外部調光：SB-28・27・22S などとの組み合わせ時
	シンクロモード	先幕シンクロ、赤目軽減、赤目軽減スローシンクロ、スローシンクロ、後幕シンクロが設定可能
	レディライト	SB-80DX、SB-50DX、SB-28DX、SB-28、SB-27、SB-22S など使用時に充電完了で点灯、フル発光による露出警告時は点滅警告
	アクセサリーシュー	シュー（ISO518）：シンクロ接点、レディ信号接点、モニタ信号接点、TTL 調光ストップ信号接点、GND 付、セーフティロック機構（ロック穴）付
	シンクロターミナル	シンクロターミナル（ISO519）標準装備（外れ防止ネジ付）
セルフタイマー		電子制御式、作動時間約 10 秒（初期値）
プレビューボタン		プレビューボタンにより絞り込み可能、A・Mモード時では設定絞り値まで絞り込み可能、P・S モード時では制御絞り値まで絞り込み可能
リモートコントロール		10 ピンターミナルのリモートコネクターにより可能（MC-20・21・22・23・25・30、ML-3 など接続可能）
液晶モニタ		2 型低温ポリシリコン TFT 液晶、13 万画素、白色 LED バックライト付、画面明るさ調整可能
電源		リチャージャブルバッテリーEN-4（別売）：電圧7.2 V DC［クイックチャージャーMH-17/16/15（別売）使用］、ACアダプタEH-4（別売）100V AC
三脚ネジ穴		1/4（ISO1222)
大きさ（W × H × D）		約 157(幅) × 153(高さ) × 86(奥行き)mm
質量		約 1,100g（ボディのみ、電池除く）

※仕様中のデータは特に記載のある場合を除き、すべて常温（20℃）フル充電バッテリー使用時のものです。

連続撮影コマ数（電池寿命）について

参考値：連続撮影コマ数（電池寿命）の目安

　リチャージャブルバッテリーEN-4（2000mAh）：約1000コマ

※充電状態、使用環境によって電池寿命が異なります。

- 測定条件は当社条件（常温< 20℃>）によります。
- 記載されている数値は当社試験条件によるものです。撮影状況により数値は前後します。

次の場合は電池の消耗が早まります。

- 液晶モニタを使用した場合
- シャッターボタンの半押しを続けた場合
- オートフォーカスのレンズ駆動を繰り返し行った場合
- 画質モードのクオリティをHIGHに設定して撮影した場合
- 低速シャッタースピードで撮影した場合

リチャージャブルバッテリーEN-4の性能を最大限に発揮させるため、次のことに注意してください。

- 電池の端子を汚さないでください。端子が汚れていると、十分な性能が発揮できません。
- 充電が完了した電池は、なるべく早いうちにご使用してください。使用しないまま放置していると、自己放電によって、電池容量が減ってしまいます。
- 電池がメモリ効果を起こしていると、十分な性能が発揮できません。その場合は、リフレッシュ放電を行なってください。

イルミネーターパネルの寿命について

表示パネルを照明するイルミネーターは消耗品ですので、使用状況によって明るさが徐々に低下します。これはイルミネーターパネルの消耗によるもので故障ではありません。イルミネーターパネルの交換をご希望の場合は、本使用説明書裏面に記載されているサービス部またはサービスセンターへお申し付けください（有料）。

撮影コマ数について

上面表示パネルおよびファインダー内表示の撮影コマ数に表示されるコマ数は、現在使用中のフォルダ(カレントディレクトリ)内に保存されている画像ファイル数をもとにして表示を行っています。そのため、次のような場合に記録するフォルダが新しくなったときは、撮影コマ数が 1 に戻りますのでご注意ください。

- 撮影コマ数が 999 コマを超えて自動的に新規フォルダが作成された場合
- 連番モードに設定した状態でフォルダ内に番号が9999のファイルが存在し、自動的に新規フォルダが作成された場合
- 再生メニュー画面のフォルダ設定により新規フォルダを作成した場合

日時の表示とボタン操作による設定について

オートブラケティングボタン **BKT** と露出補正ボタン ± を同時に押すと、設定されている日時の年が上面表示パネルに表示されます。この状態で露出補正ボタン ± を1回押すと、表示が月日に切り換わります。もう一度押すと時分が表示され、さらにもう一度押すともとの表示に戻ります。

ボタン操作で日時を設定するには、オートブラケティングボタン**BKT**と露出補正ボタン ± を同時に2秒以上押します。日時設定の年が点滅表示されますので、メインコマンドダイヤルを回して年を設定してください。そのあと、露出補正ボタン ± を1回押すごとに点滅表示が月、日、時、分と切り換わりますので、それぞれメインコマンドダイヤルを回して設定します。分が点滅表示している場合に露出補正ボタン ± を押すと、日付時刻がセットされ日付修正モードは終了します。3分間操作を行わない場合、セット内容はキャンセルされ、日付修正モードは解除されます。また、半押しタイマーがOFFになったり、シャッターボタンを半押しした場合も解除されます。

仕様・性能は予告なく変更することがありますので、ご了承ください。使用説明書の誤りなどについての補償はご容赦ください。

ホワイトバランスの微調整について

ホワイトバランスのオート以外の各モードで微調整を行うと、設定色温度は次のように変化します。

	電球	蛍光灯	晴天 *	スピードライト	曇天 *	晴天日陰 *
＋3	約2700K	約2700K	約4800K	約4800K	約5400K	約6700K
＋2	約2800K	約3000K	約4900K	約5000K	約5600K	約7100K
＋1	約2900K	約3700K	約5000K	約5200K	約5800K	約7500K
0	約3000K	約4200K	約5200K	約5400K	約6000K	約8000K
－1	約3100K	約5000K	約5300K	約5600K	約6200K	約8400K
－2	約3150K	約6500K	約5400K	約5800K	約6400K	約8800K
－3	約3250K	約7200K	約5600K	約6000K	約6600K	約9200K

* 自然光

蛍光灯モードの場合、他のモードと異なり多様な蛍光灯に対して以下のように選択できます。

調整	色温度	適した蛍光灯
＋3	約2700K	野球場、体育館などのナトリウム灯の混合光など
＋2	約3000K	電球色蛍光灯
＋1	約3700K	温白色蛍光灯
0	約4200K	白色蛍光灯
－1	約5000K	昼白色蛍光灯
－2	約6500K	昼光色蛍光灯
－3	約7200K	高色温度の水銀灯など

※ D1と比較して、調整幅が大きく変化しますので、確認後ご使用ください。

索引

か

さ

カスタマーサポートについて

■この製品の操作方法についてのお問い合わせは

この製品の操作方法について、さらにご質問がございましたら下記のニコンカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。

ニコンカスタマーサポートセンター

TEL 0570 - 02 - 8000

受付時間：祝日を除く月〜金（9：30 〜 18：00）

＊このほか年末年始、夏期休暇など、都合により休業する場合があります。

- お電話は、市内通話料金でご利用いただけます。
- 全国共通電話番号「0570 - 02 - 8000」にお電話いただき、音声によるご案内にしたがってご利用の製品グループ窓口の番号を入力していただければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせていただきます。
- 携帯電話、PHS 等をご利用のお客様は、**03 - 5977 - 7033** におかけください。
- FAX でのご相談は、**03 - 5977 - 7499** におかけください。

■お願い

- お問い合わせいただく場合には、次ページの「お問い合わせ承り書」の内容をご確認の上お問い合わせください。
- より正確、迅速にお答えするために、ご面倒でも次ページの「お問い合わせ承り書」の所定の項目にご記入いただき、FAXまたは郵送でお送りください。「お問い合わせ承り書」は、コピーしていただくと、繰り返しお使いいただけます。

■製品の修理に関するお問い合わせは

ニコンカメラ販売株式会社　サービス部

〒 140 - 8601　東京都品川区西大井 1 - 6 - 3

TEL　03 - 3773 - 2221　受付時間：祝日を除く月〜金（9：00 〜 17：45）

＊このほか年末年始、夏期休暇など、都合により休業する場合があります。

◆当サービス部では、修理品の直接受け付けならびに受け渡しに関する業務は行っておりません。

■インターネットご利用の方へ

- ソフトウェアのアップデート、使用上のヒントなど、最新の製品テクニカル情報を次の当社 Web サイトでご覧いただくことができます。

  http://www.nikon-image.com/jpn/ei_cs/index.htm

- 製品をより有効にご利用いただくため定期的にアクセスされることをおすすめします。

ニコンカスタマーサポートセンター　行
TEL 0570 - 02 - 8000　FAX 03 - 5977 - 7499

【お問い合わせ承り書】太枠内のみご記入ください。

お問い合わせ年月日：	年　月　日
お買い上げ年月日：	年　月　日
製品名：	シリアル番号：
フリガナ お名前：	
連絡先ご住所：□自宅　□会社 〒 TEL： FAX：	
ご使用のパソコンの機種名： メモリ容量： OS のバージョン： その他接続している周辺機器名： ご使用のアプリケーションソフト名： ご使用の当社ドライバソフトウェアのバージョン：	 ハードディスクの空き容量： ご使用のインターフェースカード名：
問題が発生したときの症状、表示されたメッセージ、症状の再現： （おわかりになる範囲で結構ですので、できるだけ詳しくお書きください。）	

※このページはコピーしてお使いください。　整理番号：

■技術的なお問い合わせのご案内

内容および操作に関する技術的なお問い合わせは、下記ニコンカスタマーサポートセンターをご利用ください。

＜ニコンカスタマーサポートセンター＞

140-0015　東京都品川区西大井1-4-25（コア・スターレ西大井第一ビル2階）

0570-02-8000

市内通話料金でご利用いただけます。

全国共通電話番号「0570-02-8000」にお電話を頂き、音声によるご案内に従いご利用の製品グループ窓口の番号を入力して頂ければ、お問い合わせ窓口担当者よりご質問にお答えさせて頂きます。

営業時間　9:30〜18:00（土・日曜日・祝日を除く毎日）

・このほか年末年始、夏期休暇等、休業する場合があります。

携帯電話、PHS等をご使用の場合は、**03-5977-7033**におかけください。
FAXでのご相談は、**03-5977-7499**におかけください。

Printed in Japan
SB3C00100601(10)
6MJA0911-06